

伊集院氏

(表紙)

伊集院氏

一流

第六

新編島津氏世錄支流系圖

伊集院氏支流讚岐守久教系圖

久教

初忠照 讚岐守

○伊集院大隅守久氏五代家督他腹長男也、

忠昌

刑部少輔 法名笑翁珠間、

久景

左馬介 刑部少輔

久盈

刑部少輔 ○法名松岳、

女子

久慶妻、

久慶

刑部少輔

○久盈初無男子故以女子娶久慶爲後嗣、實町田長門守忠榮之三男也、

○永祿十年丁卯十二月二十九日於薩州市山西原川原戰死、法名依雲慶松、

女子

町田兵部左衛門尉久德妻、

女子

向井彌右衛門入道淨安妻、

忠厚

九郎右衛門

○久盈以久慶爲猶子之後忠厚出產、以故爲久慶弟  
矣、

忠絃

治部右衛門

○母向井和泉友朗女、

○慶長三年戊戌十一月十八日、於朝鮮國南海之海

上戰死、法名天寒雲龍、

忠次

彦六

女子

川越某妻、

忠成

助七 治右衛門

○承應二年癸巳十一月五日死、法名以月存心、

忠晴

九郎右衛門

○元和五年己未六月誕生、母向井彌右衛門友信女、

○元祿三年庚午五月七日死、法名默翁雷心、

女子

竹崎四郎右衛門忠晴妻、

女子

上原小十郎妻、

俊意

初忠哲 内膳 休兵衛

○明曆二年丙申十一月二十日誕生、母島津兵庫久

住家臣江夏源左衛門榮以女、

○忠晴無實子故爲後嗣、實隅州國分士服部權兵衛宗昌之二男也、

忠張

助七

○天和三年癸亥九月二十九日誕生、母隅州曾於郡士細山田諸左衛門重勝女、

○元祿十五年壬午八月十一日早世、法名節心全忠、俊爲

初忠珍 豊松 休次郎

○貞享三年丙寅二月十二日誕生、母同前、

女子

○母鹽津正左衛門長春女、

久光

平七 刑部少輔

○天文二十年辛亥誕生、

○文祿元年壬辰四月二十八日死、法名玉峯淨琢、

忠次

女子

薩州指宿士長野彦右衛門母也、

久武

犬千代 平七 刑部左衛門

○天正十年壬午誕生、母平田石見女、

○承應二年癸巳三月七日死、法名日窓龍好、

女子

町田伊賀久則入道石心後之妻、

○天正十八年庚寅誕生、母同前、

○與兄久武同奉仕于 龍伯公第三奉稱姫君國分嫁 家久

公時補御上臈役、姫君離別後隱居于國分、姫君至掩粧勤仕不怠、家久公感其勞賜采地六十斛、嫁久則而後讓其所領於忠鏡、雖然不立女子之後先例

也、故以忠饒系久武之弟、

○天和元年辛酉七月二十六日死、法名心慶妙芳大姉、

忠饒

長菊 清兵衛 伊右衛門

○實母米良權之助女、

○忠饒受繼母之所領爲久武之弟冒伊集院氏、實町

田伊賀久則之二男也、

○寬文六年之冬任御使役令改御用人、同七年之春賜隅

州財部之地頭職、

○寬文十一年辛亥八月二十三日死、年五十一、法

名桂間宗月、

久增

平三 平左衛門

○文祿二年癸巳誕生、母同于久武、

○隅州國分士也、

○慶安三年庚寅三月二十六日死、

久次

犬千代 造酒介 ○早世、

○母長崎織部女、

正圓

出家、獅子尾住持、○母同前、

女子

○爲兄久武之養女而嫁刑部左衛門久明、

○母馬場六右衛門女、

俊員

初久金 伴右衛門 武右衛門

○明曆二年丙申七月十二日誕生、母國分士藥丸

喜兵衛女、

○久增無世子故爲後嗣、實國分士伊瀨地勝左衛

門義元之二男也、

女子

國分士伊瀨地清介義智妻、

○母國分士小藤小三兵衛宗清女、

俊方

平左衛門

○元祿十一年戊寅八月朔日誕生、母同前、

久重

清左衛門

○母長田藤左衛門女、

○寛文七年丁未八月二十四日早世、法名眞覺自天、

俊富

初久饒 又久芬 長千代 吉右衛門 志賀

猪右衛門 造酒右衛門 清右衛門

○萬治元年戊戌十二月十一日誕生、母高橋主殿女、

○兄久重早世、故相續家督、

○元祿六年之秋任御目附役今改御側目附、補隅州横川・薩

州久志秋目等之地頭職、

○元祿十年之秋、

將軍家造管武州東叡山中堂、故命于 太守綱貴

公以助役之事、因久芬奉 公命、兼御用人役預

助役之事、翌十一年之初秋中堂落慶時關事之士

彌寢清雄・島津久明以下十四人登 玉城、元老

小笠原長重・若御年寄秋元喬朝・米倉昌明各列

座勞助役功、頂戴時服及白銀、各有差久芬亦在

其列而拜戴時服・白銀等矣、

○此家至于初及家督等之時奉獻御太刀、且勤小番

矣、

俊意

初久彰 虎助 半内 伊左衛門 覺左衛門

○寛文五年乙巳二月二十三日誕生、母同前、

○初於當家雖別樹家、正德五年之夏蒙 太守吉

貴公之恩免、相續於市來太郎左衛門英政之跡

矣、

俊香

半次郎 小十郎

○貞享四年丁卯十一月二十三日誕生、母伊藤善兵

衛女、

○從父俊意爲市來氏、

久元

源八

○延寶七年己未八月二十一日誕生、母有川藏之丞

女、

○元祿十三年庚辰四月二十九日早世、法名無底全

徹、

俊村

初忠榮 源七 志賀之助 猪右衛門

○貞享元年甲子二月二十三日誕生、母同前、

俊

小次郎

○寶永元年甲申四月八日誕生、母同前、

俊

釜太郎

○元祿十六年癸未三月二十八日誕生、母肥後長左衛

門盛常女、

女子

○久武無子、故養姪爲子而娶久明爲後嗣、實同氏平

左衛門久增之女子也、

久敬

初久明 千代三郎 刑部左衛門 二左衛門

○元和八年壬戌七月十四日誕生、母市來彥右衛門家

徳女、

○久武無男子故嫁養女爲後嗣、實國分士長崎千右衛

門通恭之二男也、

○元祿七年甲戌正月六日死、法名境照不存、

女子

○母久武之養女、

○奉仕于 綱久公之御二女而爲介添役、

女子

木脇半右衛門祐寬妻、後有故離別、

○母同前、

久建

初久典 龜千代 平七 新之丞

○寬文八年戊申五月二十三日誕生、母同前、

○久建自幼少勤御小姓役奉仕于 光久公、依是久武以

來雖住國分、元祿元年之夏奉 光久公之高命、父久

明及弟相共爲鹿兒島士、且賜新恩地二百斛于久建、

○寶永三年丙戌九月二十六日死、法名白翁玄心、

久記

德千代 平太夫 新吉 新右衛門

○寬文十一年辛亥二月十七日誕生、母同前、

○元祿十一年戊寅七月十八日死、法名明山異白、

久明

初久基 或久章 助六 茂左衛門 武兵衛

○延寶二年甲寅十二月十四日誕生、母同前、兄久建

無子故爲後嗣、

俊房

初久基 或久章 又久明 助六 茂左衛門 武

兵衛

○延寶二年甲寅十二月十四日誕生、母同久建、

○兄久建無子故爲後嗣相續當家、

○正德三年之夏承家嫡藏人久矩之命、當家之實名自

今以後避久忠字改俊字、庶族同之、

○此家至于初及家督等之時奉獻御太刀、

伊集院氏支流入佐系圖

景久

號入佐、三郎五郎

○伊集院大隅守久氏他腹之三男也、

忠清

助三郎

久胤

助三郎

忠充

初忠成 佐渡守

忠次

助三郎

忠充

佐渡守

忠次

萬七左衛門

忠有

五兵衛尉

忠規

小監物丞

忠純

孫左衛門

○飯野之士、

忠爲

八右衛門尉

○寛文九年己酉九月三日死、法號梅山林清居士、

忠持

孫右衛門尉



○元祿四年辛未七月二十九日死、法名圓清正覺  
信士、

俊昌

始忠次 孫兵衛

○寬永十六年己卯六月誕生、母飯野士黒木民部  
家次女、

俊伴

始忠次 孫十郎

○萬治二年己亥歲誕生、母同前、

俊辰

始忠次 五右衛門

○寶永二年乙酉七月誕生、妾腹、

俊員

初忠次 孫左衛門 孫八左衛門

○寛文二年甲辰九月誕生、母飯野士井之口清右  
衛門祐遠女、

女子

飯野士黒木權之丞家仲妻、母同、

俊香

初忠次 孫右衛門

○延寶六年戊午九月十八日誕生、母同、

女子

○母飯野士黒木伊豆家見女、

俊清

初忠次 孫六

○寶永四年丁亥正月十九日誕生、母同前、

俊武

初忠次 甚六

○正徳二年壬辰九月十七日誕生、母同前、

俊甫

初忠次 善助

○寶永二年乙酉七月二十六日誕生、母飯野士楯山  
爲左衛門義次女、

忠倫

郷右衛門

○母飯野士秋丸筑後女、

○元祿元年戊辰九月二十一日死、法名緣室宗大居士、

俊倍

初忠安 萬左衛門

○承應元年壬辰五月五日誕生、母飯野士森善兵衛

義次女、

俊視

初忠盛 八右衛門

○寛文六年丙午七月十五日誕生、母同前、  
女子

飯野士竹之上宮内左衛門貞次妻、

○母同前、

俊親

初忠次 助七郎

○元祿四年辛未九月十八日誕生、母飯野士木下勘  
右衛門利次女、

俊盈

初忠次 八左衛門

○元祿八年乙亥四月十二日誕生、母同前、

俊房

初忠次 十郎左衛門

○元祿十六年癸未正月二十八日誕生、母同、

女子

母同前、

俊存

初忠次 萬七郎

○延寶二年甲寅四月十日誕生、母飯野土中間早右衛門秀姓女、

俊門

初忠次 彌七郎

○天和三年癸亥二月八日誕生、母同、

俊勝

初忠次 五兵衛

○元祿三年庚午七月十二日誕生、母同、

俊方

初忠次 孫左衛門

○元祿十六年癸未九月二十八日誕生、母同、

俊意

始忠次 彌兵衛

○寶永六年己丑三月十一日誕生、母飯野土松田市兵衛重次女、

俊美

初忠次 助八郎

○元祿十四年辛巳六月十二日誕生、母吉松土門松五左衛門女、

女子

○母同前、

女子

○母同前、

久行

木工之助 四郎左衛門尉

忠次

四郎三郎

忠行

忠弘

與三郎

次郎左衛門尉

○谷山之土、

忠次

與左衛門尉

忠守

鄉左衛門

○延寶五年丁巳十一月十二日死、法名仙岩道

椿居士、

忠能

初忠成 與兵衛

○寛文元年辛丑八月八日誕生、母肝付兼柄家

臣二見喜太夫女、

○寶永元年甲申十二月二十五日死、法名松山

芳吟居士、

忠次

大右衛門

○寛文七年庚午八月十二日誕生、母同前、

○延寶七年己未六月二十五日死、法名涼山

道清上座、

女子

谷山土山下諸右衛門兼通妻、

○母伊集院土吉留宇左衛門重次女、

女子

桂仁治太郎久陳附衆中菊野八郎左衛門兼

次妻、母同、

俊春

初忠慶 次郎兵衛

○寛文七年丁未二月十七日誕生、母同前、

俊恆

初忠起 六左衛門

<p>俊純</p> <p>○寛文九年己酉六月二日誕生、母同前、</p> <p>初忠藤 長左衛門</p> <p>○延寶三年乙卯十一月四日誕生、母同前、</p>	<p>女子</p> <p>○母谷山土竹之内兵右衛門實利女、</p> <p>俊會</p> <p>初忠次 兵左衛門</p> <p>○寶永四年丁亥十一月二十四日誕生、母同前、</p>	<p>俊房</p> <p>初忠次 郷左衛門</p> <p>○元祿五年壬申二月二日誕生、母妾、</p> <p>女子</p> <p>谷山土萩原源助兼次妻、母同前、</p>
--	--	---

<p>俊盈</p> <p>初忠次 與左衛門</p> <p>○元祿十一年戊寅十二月二十二日誕生、母同前、</p> <p>女子</p> <p>母同前、</p> <p>俊次</p> <p>初忠次 與市</p> <p>○正徳二年壬辰六月二十四日誕生、母同前、</p>	<p>女子</p> <p>谷山土大脇四兵衛爲宗妻、</p> <p>○母鹿兒島土奈良木市右衛門政次女、</p> <p>俊晃</p> <p>初忠英 次郎左衛門</p> <p>○寛文四年甲辰正月二十日誕生、母同、</p> <p>女子</p>
---	---

尾上與右衛門信陽妻、母同、

俊村

初忠紀 仁左衛門

○延寶二年甲寅二月八日誕生、母同、

女子

○母島津備前久遠家臣伊佐敷曾右衛門直慶女、

女子

○母同前、

俊次

初忠次 次右衛門

○寶永三年丙戌二月八日誕生、母同前、

俊次

初忠次 與助

○寶永六年己丑八月二十三日誕生、母同前、

忠清

迫右衛門

○慶長十八年癸丑十一月二日誕生、母足輕久保

新左衛門之時女、

○當代自谷山因 公命移百引、

○貞享三年丙寅十二月二日死、法名東嶺雪岩信

士、

忠澄

助右衛門

○元和八年壬戌八月三日誕生、母同、

○元祿十三年庚辰三月六日死、法名淨林天清

居士、

女子

谷山士伊地知彌五左衛門重時妻、

○母伊作士長田賀太左衛門重秀女、

女子

谷山士羽月伊左衛門元肥妻、

○母同、

俊備

初忠盈 八左衛門 伊右衛門

○延寶八年庚申正月二日誕生、

○忠澄無男子故爲養子、實谷山士羽月伊左衛門元肥嫡子也、母忠澄之二第女也、  
(マ)

俊胤

初忠次 助左衛門

○寶永三年丙戌三月五日誕生、母谷山士伊地知彌五左衛門重時女、

俊茂

初忠次 十兵衛

○母同、

女子

谷山士佐藤孫右衛門重次妻、

○母島津内記久文家臣安庭五郎左衛門貞尙女、

忠知

與左衛門

○寛文元年辛丑正月二十八日誕生、母同前、

○元祿十五年壬午八月晦日死、法名句岳清雲信士、

忠致

四郎兵衛

○寛文七年丁未十二月十日誕生、母同、

○元祿十二年己卯五月二十九日死去、法號喜翁惠哉信士、

俊顯

次郎左衛門

○兄與左衛門忠知無子故爲養子、

俊陽

新兵衛

○延寶七年己未十月二十日誕生、母長島之土竹之下傳右衛門賴次女、

○養子、實百引之土外山彌右衛門義業之二男、

女子

○母百引之土田崎郷左衛門清次女、

女子

○母同前、

俊顯

次郎左衛門

○延寶四年丙辰八月朔日誕生、

○忠知無子故爲養嗣相續家、

俊芳

平左衛門

○貞享二年乙丑六月二十九日誕生、母長島土竹之下傳右衛門賴次女、

○俊顯無子故養子俊芳相續家督、實百引土外山彌右衛門義業三男也、

俊次

平七

○寶永六年己丑七月七日誕生、母百引土山元八郎兵衛綱次女、

忠次

忠洪

與七郎

與左衛門

忠次

助右衛門

忠征

藤右衛門

○寬文二年壬寅八月二日死、法號梅林宗寒居士、



忠次

助右衛門

○忠征無直子、故養子小根占土迫田七左衛門子  
助右衛門而相續、

忠次

助兵衛

○助右衛門以無子、故養子谷山橋口助三郎二男  
助兵衛繼家、

○元祿三年庚午五月十日死、法號義泉道桂信士、

俊名

初忠陳 主左衛門

○萬治二年己亥五月二十三日誕生、母伊勢兵部

貞榮家臣小田郷右衛門女也、

○助兵衛無直子、故養嗣谷山土海老原種右衛門  
爲良二男主左衛門繼家、

俊方

初忠次 主右衛門

○貞享元年甲子十二月二十五日誕生、母伊勢兵部  
貞榮家臣荒武佐五右衛門祐長女、

女子

鹿兒島土海老原正兵衛爲長妻、

○母同、

俊子

初忠次 次郎八

○寶永三年丙戌八月十四日誕生、母同、

忠次

和泉

忠次

肥前 ○法名榮見上座、

忠榮

仲兵衛

○母谷山土野間源兵衛綱次女、

○元祿元年戊辰十一月二十五日死、法名了圓、

忠次

五兵衛

○慶長十四年己酉誕生、母同前、

○貞享二年乙丑十月十二日死、法名知源秋白居

士、

女子

谷山士福島江右衛門重郷妻、

○母伊勢兵部少輔貞昌家臣外山新右衛門告次女、

俊郷

初忠禪 平次郎

○明曆三年丁酉十二月二十九日誕生、母同前、

俊存

初忠次 五郎兵衛

○元祿十年丁丑九月二十九日誕生、母谷山社人岩

切堅右衛門信詮女、

俊武

初忠次 平右衛門

○元祿十五年壬午九月二十二日誕生、

忠興

五右衛門

○寛永十一年甲戌誕生、母谷山士長野勘兵衛祐次

女、

○寶永六年己丑六月十八日死去、法名東山道海居

士、

女子

谷山士竹迫藤左衛門武次妻、

○母伊作士柳田九郎右衛門爲豊女、

俊常

初忠見 久次郎

○寛文十二年壬子誕生、母同前、

俊輔

初祐張 利右衛門

○天和元年辛酉三月二十三日誕生、母谷山土山下

藤七左衛門家次女、

○俊常以無子故養子谷山土池田九左衛門祐貞二男

利右衛門相續家、

女子

○母谷山土前田平左衛門兼寛女、

俊次

仲助

○正徳四年甲午七月十二日誕生、母同前、

久實

八郎 木工之助

久爲

江左衛門 ○於高原討死、

久利

助八 ○於莊内戰死、

久員

江左衛門

○由奉公渡海徳島而死、

久辰

初景儀 助八 四郎左衛門

○元和九年癸亥九月十二日誕生、母大迫藤左衛門女、

○延寶四年丙辰十二月十九日死、法名山外宗雲居士、

女子

鳥丸六彌太重傳妻、母同前、

綱利

少左衛門

○寬永八年辛未十一月十五日誕生、母同前、

○大山民部左衛門廣綱養子、

景次

勤兵衛

○母同前、

○爲有馬伊兵衛養子而後違變、

○天和二年壬戌四月十三日死、法名來山道本信士、

景明

初久代 助八

○承應元年壬辰十月二日誕生、母湯地嘉兵衛定則女、

○正德元年辛卯四月二十日死、法名法山淨心居士、

供貞

權左衛門

○承應二年癸巳十二月二十一日誕生、母同前、四位

治部左衛門養子、

祐由

甚右衛門

○明曆元年乙未十二月十二日誕生、母同前、

○長野甚兵衛祐榮養子、

女子

伊藤六郎右衛門祐長妻、

○母大迫清右衛門女、

俊明

初景房 助右衛門 四郎左衛門

○天和二年壬戌五月十八日誕生、母矢野清右衛門秀

貞女、

○正德三年大宗家久矩奉 公命傳曰、於庶子家之實

名避久忠之兩字可用俊字、因改俊明、俊明氏族隨

皆改俊、

女子

伊集院善太夫俊長妻、母同前、

俊次

彌六

○元祿三年庚午五月十八日誕生、母同前、

伊集院氏支流大田系圖

久勝

號大田、伊豫守

○伊集院大隅守久氏五代家督五男也、

久好

伊豫守

久雄

民部少輔

○子孫北郷家之家臣而在都之城、

久高

刑部少輔 土佐 法名了心、

女子

久通

民部少輔 ○法名道覺、

久重

刑部少輔

女子

和田某妻、

忠頼

駿河

○於日州三俣高城戰死、

忠泰

駿河 彦兵衛

○於日州飢肥新山戰死、法名是心、

久盛

彦六郎 ○法名儀翁、

○忠泰無世子故爲養子、實都之城家臣島出雲清興之三男也、

忠基

土佐助 平兵衛

○久盛早世而依無子爲養子、實都之城家臣河野越前通昭之二男也、

○慶長五年九月十八日濃州關原合戰之時、於近江州大津坂本戰死、法名玄峯、

女子

都之城臣相馬善光坊久岑妻、

久綱

宗助 土佐兵衛 四郎兵衛

○寬永十三年丙子十二月二十日於武州江戸死、法名笑翁、

久將

源六 源左衛門

○元和八年壬戌誕生、母都之城臣得能早左衛門盛家女、

○讓家督於嫡子伊右衛門久幸、而自者爲都之城臣神田橋甚左衛門助張之養子、

久幸

左門 勘右衛門 伊右衛門

○寬永十九年誕生、母北郷佐渡久加家臣小杉六郎兵衛女、

○延寶六年戊午五月七日死、法名一道傳心、

俊名

初忠辰 左門 城助 平八 彌平兵衛

○寛文十一年辛亥九月十六日誕生、母都之城家臣  
北郷三左衛門久延女、

女子

都之城家臣小杉新八義直妻、

○母都之城家臣北郷仲兵衛忠名女、

俊盈

平八郎

○元祿十一年戊寅八月七日誕生、母同前、

久仍

伊豫

久榮

三河 法名傳宗、

久饒

三河

○新納武藏守忠元爲薩州大口之地頭、時久饒從薩州  
伊集院移大口、從其子孫在彼地、

○法名清巖雲雪居士、

久是

宮内少輔

○子孫日州飯野士也、

女子

主殿久利妻、

○母大口土新納善兵衛女、

久利

主殿 ○法名日山常省居士、

○久是依無男子爲智養子、實川瀨氏之男也、

女子

飯野士池田治部右衛門義寄妻、

○母宮内少輔久是女、

久矩

作左衛門 主殿

○元和七年辛酉誕生、母同前、

○寛文十一年辛亥十二月三日死、法名山林祖月居

士、

女子

飯野士有馬萬右衛門住治妻、○母同前、

女子

飯野士川瀬新左衛門通頼妻、

○母飯野士黒木茂右衛門實次女、

女子

天亡、○母同前、

俊意

初久俱 新七郎 七郎右衛門

○明曆三年丁酉正月五日誕生、母同前、

俊常

初久敬 作左衛門 吉左衛門

○萬治四年辛丑即寛文元年也三月三日誕生、母同前、

俊房

初久恭 覺右衛門

○天和元年辛酉五月二十五日誕生、母飯野士池

田兵左衛門義澄女、

俊賢

吉兵衛

○貞享四年丁卯九月七日誕生、母同前、

俊員

甚七

○元祿七年甲戌四月二十九日誕生、母同前、

女子



天亡、○母同前、

俊

覺之丞

○寶永七年庚寅二月十五日誕生、母飯野土池田甚

六義明女、

女子

飯野土加藤彌平左衛門利隆妻、

○母飯野土黒木平左衛門實法女、

女子

飯野土堀納右衛門重滿妻、○母同前、

善兵衛

天亡、母同前、

俊盈

軍七

○元祿十一年戊寅正月十六日誕生、母同前、

女子

大口土坂上南右衛門胤續妻、

女子

久照

初久金 小平次

○慶長五年庚子九月十五日於濃州關原戰死、年二十

五、法名天桂宗胤居士、

女子

大田彦左衛門妻、後爲鹿兒島土坂彦左衛門妻、

女子

大口土濱川木工兵衛妻、

久覺

藤吉 彦右衛門

○兄久照戰死而無男子故爲養子也、

女子

大口土今村右京重昌妻、

久覺

藤吉 彦右衛門

○兄久照戰死而無世子故爲養子相續當家、

○慶安二年己丑五月五日死、法名琴月良音居士、

久堅

雅樂助

○母大口土上野伴助女、

○寬永十四年丁丑十月二十三日死、法名暑雲宗寒居士、

士、

女子

鹿兒島士大野外記盛利妻、○母同前、

小兵衛

○母同前、

○爲大口土平川早右衛門師政之養子、

堯存

出家、○母同前、

久進

五郎助 ○母同前、

○正德二年壬辰五月朔日死、法名梅岑宗鉄居士、

女子

大口土二之宮伊豫兼遠妻、

久堯

藤吉 勘左衛門

○寬永五年戊辰十一月二十七日誕生、母大口土高城

七郎左衛門重正女、

○貞享三年丙寅三月十五日死、法名袍雲恕金居士、

女子

大口土有川勘右衛門貞成妻、

○母薩州羽月士北原次郎兵衛兼建女、

俊矩

初久富 金兵衛 藤左衛門

○萬治三年庚子三月八日誕生、母同前、

○正徳三年之夏、受家嫡藏人久矩之令、當家之實名  
自今以後避久忠字改俊字、庶族同之、

伴助

○母同前、

○爲大口土生駒伴左衛門之養子、

俊建

藤吉 勘左衛門

○元祿七年甲戌十月二十三日誕生、母大口土篠原龍

右衛門政春女、

女子

○母同前、

伊集院氏支流南郷系圖

忠氏

號南郷、遠江守

○伊集院大隅守久氏五代家督六男也、

久義

常陸守

久重

初久雄 次郎左衛門尉

久頼

遠江守

久俊

民部少輔

久辰

若狹守

久元

刑部少輔

久成

式部少輔

久景

次郎左衛門尉  
淡路守

久守

久右衛門尉

久永

半左衛門尉

忠永

治部少輔 ○無子孫、

忠成

左近 ○無子孫、

久敕

治部少輔

久珍

治部少輔

○於隅州牛根戰死、

久德

治部左衛門 ○子孫記左、

忠俊

若狹守 ○子孫記左、

出家

女子三人

忠包

若狹守

○法名了海、

忠鏡

若狹守

○法名清雲、

忠信

左近

○於肥後州本江戰死、

忠永

治部少輔

○於豐後州岩屋戰死、

女子

南郷久八郎忠吉妻、後離別、

忠重

覺右衛門 淡路守

○兄二人戰死、故相續家督、

○慶長五年濃州關箇原合戰之時、奉從于 義弘公盡

忠節、依之賜感贖併采地五十斛矣、

○補日州加久藤之地頭職、

久次

民部少輔 ○爲狂人死、

久行

市藏 若狹守 早世、

忠吉

久八郎

○母栖本長門守女、

○久行依無繼子爲養子、實三葉左近大輔忠繼之二

男也、

○慶長十七年壬子六月十三日死、年二十七、法名

嘉叟常慶居士、

女子

右京忠清妻、

○母種子島出雲守時連女、

忠清

右京亮

○忠吉無男子、故嫁一女而為養子、實比志島掃部

助國政之二男也、

○四月十日不傳  
歲號死、法名天翁一清居士、

忠辰

久三郎 為兵衛

○元和九年癸亥誕生、母忠吉女、

○忠辰賜祖母種子島氏之所領而為種子島氏、故使菱

刈縫殿助重治之三男休左衛門久時連續父忠清之

家、

俊方

初久時 中久寬 三郎右衛門 休左衛門

○寬永十九年壬午五月十九日誕生、母永野十郎左

衛門祐兼女、

○忠辰為種子島之後嗣故相續當家、實菱刈縫殿助

重治之三男也、

女子

三右衛門俊昌之妻、

○母吉田了淵清明女、

女子

加治木之家臣新納仲右衛門忠朝妻、

○母同前、

俊昌

初重行 久富 彌三郎 三右衛門

○寬文十一年辛亥五月六日誕生、母五代舍人友利

女、

○俊方依無世子爲智養子、實伊地知越右衛門重時之二男也、

○此家至于初及家督等之時者奉獻弓、且勤小番矣、

俊

袈裟千代

○寶永七年庚寅八月朔日誕生、母俊方女、

女子

忠利妻、

忠利

内匠助 孫右衛門

○母新納四郎左衛門忠充女、

○忠重無繼子故爲智養子連續當家、實新納孫右衛門

久孝之二男也、

○寛文八年戊申正月六日死、法名芳室玄心、

女子

比志島左近妻、

○母淡路守忠重女、

久重

覺右衛門

○母同前、

○早世、法名圓名宗徳、

久森

四郎三郎 仲兵衛 入道名休心、

○慶長十六年辛亥九月四日誕生、母同前、

○元祿三年庚午十一月八日死、法名傳芳祖心、

久昌

九郎兵衛

○母同前、

○元祿十一年戊寅四月二十九日死、法名南阿梅雲、

俊次

初久次 十兵衛

○寛文二年壬寅十一月十五日誕生、母足輕濱田大藏女、

女子

永田仲左衛門政居妻、母同前、

女子

加治木日高新右衛門爲連妻、母他腹、

久武

初久重 虎千代 仁左衛門 平右衛門

○慶安二年己丑九月二十一日誕生、母宮内喜右衛門女、

○寶永五年戊子四月二日死、法名愚庵道如、

俊倍

初久起 千熊 仲左衛門 郷七

○承應三年甲午七月二十四日誕生、母同前、

俊門

初久覺 四郎助 主税 孫七

○元祿二年己巳七月晦日誕生、母丸田新右衛門忠任女、

女子

早世、○母同前、

俊

四郎左衛門

○正徳三年癸巳六月二十八日誕生、母折田平八年宗女、

萬虎

○母平野久右衛門友昌女、○早世、

女子

早世、○母同前、

久矩



仲兵衛

○天和二年壬戌六月十八日誕生、母同前、

○寶永三年丙戌七月十日死、法名則空了夷、

女子

兒玉四郎兵衛利廣妻、○母同前、

久白

孫右衛門

○母同前、

○元祿十一年戊寅八月三日早世、法名仙露、

俊益

初久中 休右衛門 二左衛門

○元祿十二年己卯八月十六日誕生、母同前、

○兄數人早世、故相續家督、

○正德三年之秋受家嫡藏人久矩之令、當家之實名自

今以后避久忠字改俊字、庶族皆同之、

○此家至于初及家督等之時者奉獻御太刀、且勤小番、

是家格也、

南郷治部左衛門久德一流系圖

久德

治部左衛門 子孫鹿兒島士、

○南郷家六代治部少輔久教之二男也、

久元

治部左衛門

女子

置久

兵部少輔

○於伊作戰死、法名祖南、

久心

因幡守

○法名太巖、

久寬

采女

出家

眞言宗、

久員

左京亮

女子

久爲

七兵衛

久珍

初久置 彌吉 狩野 六郎右衛門 彌左衛門

○慶長十一年丙午十月六日誕生、母薩州吉田土春成

長門女、

○久珍初雖爲薩州高尾野士、正保二年三月二十二日

蒙 太守光久公之恩免爲鹿兒島士、

○貞享二年乙丑六月二十六日死、年八十、法名流光

祖泉、

女子

村田後五左衛門妻、後離別嫁奥山少兵衛、

○母高尾野士德永駿河女、

久記

龜助 宇左衛門 曾右衛門

○寬永十一年甲戌二月二十一日誕生、母同前、

○天和四年甲子即貞享元年也三月朔日死、法名自屋了性、

俊常

初久辰 又久方 或久武 彌吉 吉右衛門

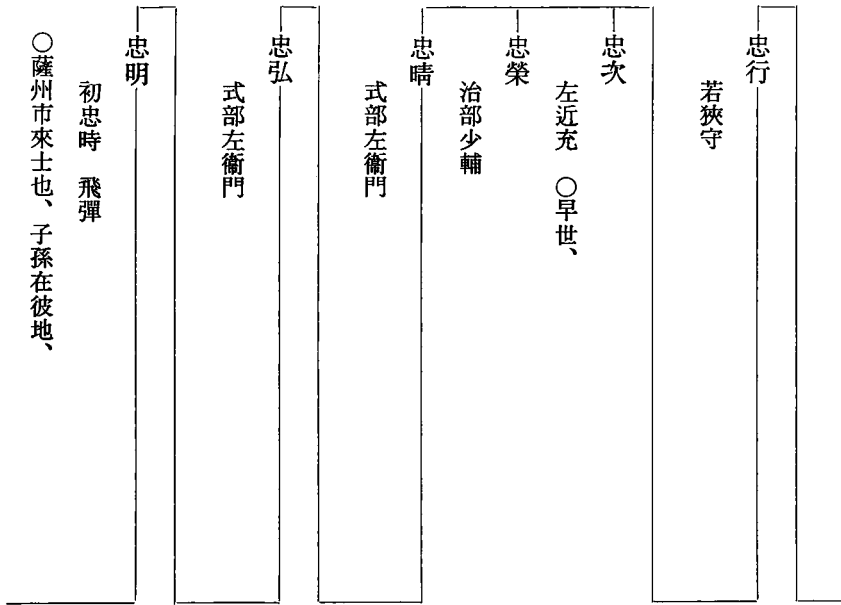
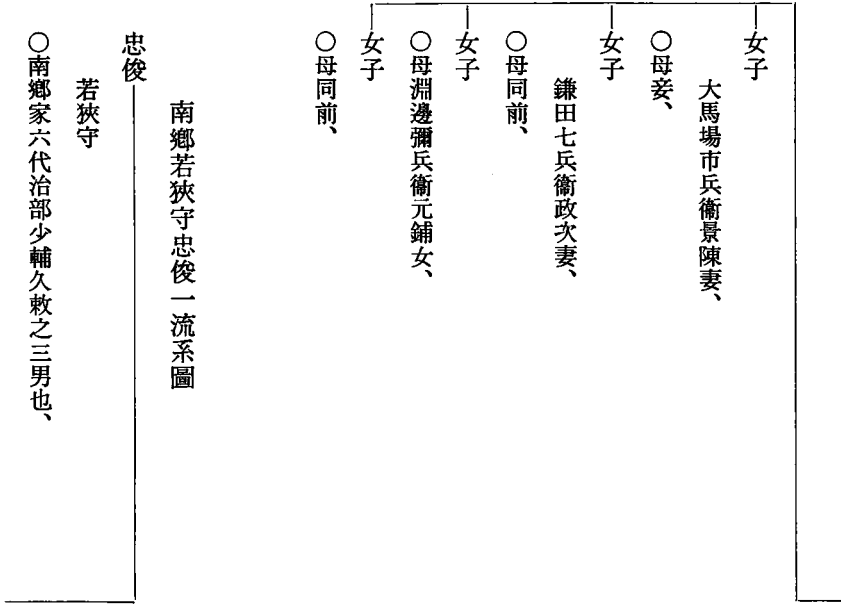
○寬文二年壬寅七月十七日誕生、母稅所治左衛門篤

則女、

女子

奥山五兵衛政芳妻、母同前、

伊集院氏



忠員

采女

○寛永二十年癸未六月六日死、法名臺翁道蓮居士、

忠賢

孫兵衛

○文祿三年甲午誕生、

○正保二年乙酉八月九日死、法名壽岳春長居士、

忠次

飛驒

○萬治元年戊戌八月二十六日死、法名盛庵常榮上

座、

忠寛

初徳兵衛 少左衛門

○承應二年癸巳八月四日誕生、

○爲市來土塚田勘之丞養子、

忠長

孫左衛門 作之丞

○爲市來土篠原千左衛門之養子、

忠利

助左衛門

忠良

采女

○延寶七年己未八月二十九日死、法名風山良秋上座、

俊益

初忠知 龜千代 半七

○寛文四年甲辰五月初日誕生、

女子

市來土中村小兵衛妻、

○母市來土石神仲右衛門女、

女

薩州伊集院土宮原貞右衛門景加妻、

○母市來土岩重仙兵衛女、

女子

市來土中山治左衛門綱秀妻、

○母同前、

忠清

孫次郎 六郎兵衛

○寛永四年丁卯誕生、

○天和二年壬戌九月二十七日死、法名月肝松心居士、

俊昌

初忠堯 伊左衛門

○寛永十四年丁丑六月十五日誕生、母同前、

俊方

初忠安 覺七

女子

○寛文十一年辛亥六月八日誕生、母薩州串木野土有馬金左衛門純昌女、

○母同前、

串木野土肝付理右衛門兼長妻、

俊盈

初忠盈 松助 孫兵衛

○明曆二年丙申五月朔日誕生、母市來土松本掃部兵衛重常女、

衛重常女、

忠康

孫右衛門

○萬治二年己亥十月二十五日誕生、母同前、

○元祿八年乙亥六月八日死、法名圓山道光居士、

女子

市來土土橋市右衛門俊記妻、

○母同前、

女子

市來士高洲源左衛門光眞妻、

○母同前、

俊盛

長右衛門

○元祿四年辛未八月十四日誕生、母市來士石神久助

女、

女子

○母同前、

俊常

初忠計 又久寛 金之助 喜兵衛

○天和三年癸亥七月三日誕生、母市來士貴島彌左衛

門頼重女、

女子

市來士山之口伊左衛門高年妻、

○母同前、

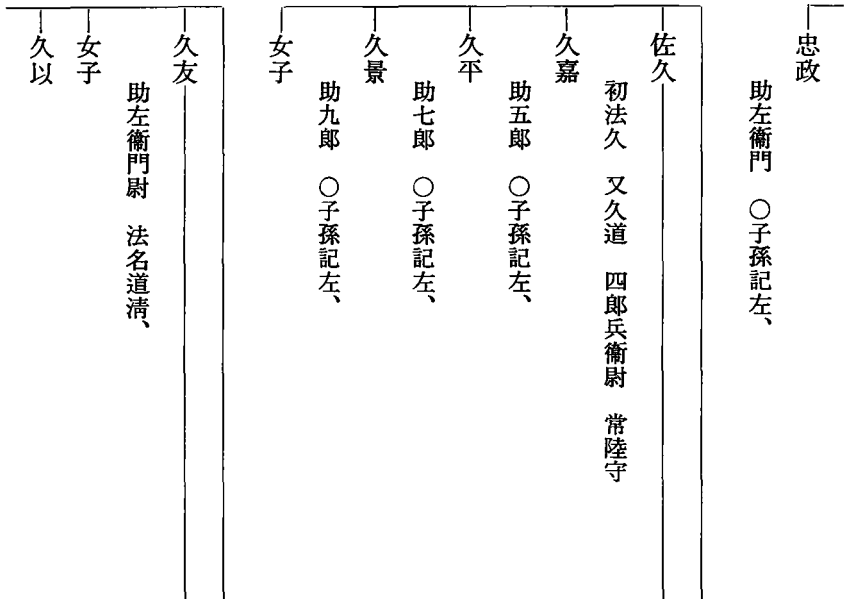
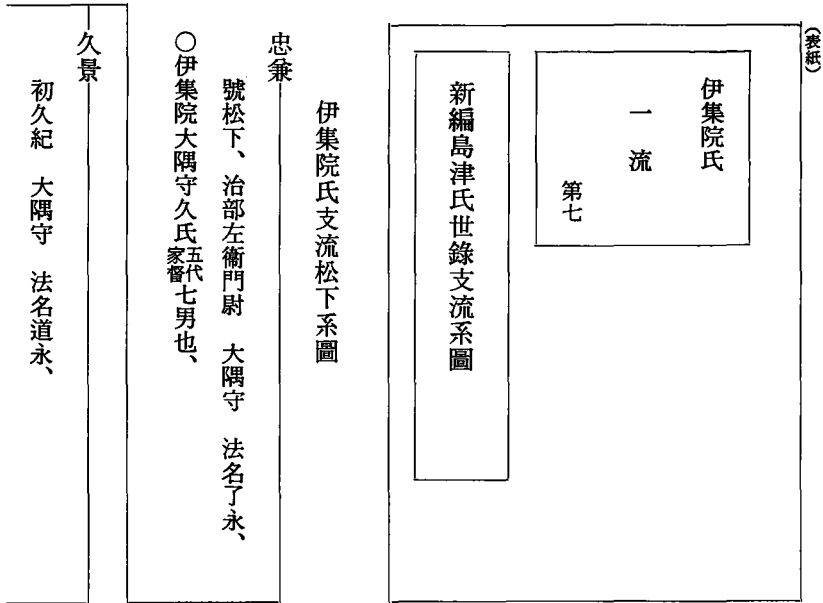
女子

○母同前、

女子

○母市來士久保田次兵衛女、

伊集院氏



助五郎 ○子孫記左、  
久武  
助三郎 ○子孫記左、  
女子

久澄  
助右衛門尉 法名道圓、  
久榮  
助二郎 ○子孫記左、

久則  
主殿助  
久宣  
五郎左衛門尉 ○子孫記左、  
女子

久矩

主殿助  
久安  
女子  
內藏丞  
川崎主計妻、  
女子三人

久佳  
彌七郎  
久長  
七左衛門 ○子孫記左、  
休七

○爲水間氏之養子、

久常  
四郎兵衛

○久常九歲之時父久佳死去、由是母去住所川邊移鹿籠、以故久常傍母住居同所、爲喜入家之臣、  
○寬文元年辛丑八月二十一日死、年六十九、法名月



心、

久次

利介 ○母折田氏女也、

○雖爲嫡子依病不家督、

○元祿十二年七月二十五日死、年六十六、法名淨雲、

號秋岳、

久賢

七介 七郎右衛門

○寬永十四年丁丑十二月十日誕生、母同前、

○兄久次因病不家督、以故相續當家、

○正德三年癸巳六月八日死、年七十七、法名一肩、

號凍雲、

久次

乙千代 四郎左衛門

○寬永十八年辛巳二月十一日誕生、母同前、

○元祿十三年七月二十日死、年六十、法名源得、號

道林、

女子

○母同前、

久金

休四郎 七左衛門

○寬文五年乙巳十一月二十一日誕生、母藤田藤兵衛

經次女、

○寶永三年丙戌七月二十三日死、年四十二、法名良

心、號全岩、

俊昭

初久呂 戸右衛門 七兵衛

○寬文十年庚戌八月十日誕生、母同前、

俊明

初久年 太郎助 太左衛門

○延寶七年己未十一月二十一日誕生、母同前、

女子

○母同前、

女子

○母中俣良膳良次女、

俊幸

初久貞 彌七郎

○元祿十五年壬午八月十八日誕生、母同前、

女子

○母同前、

女子

○母井上分右衛門良次女、

俊章

初久龍 助太郎 四郎兵衛

○元祿十一年戊寅九月二日誕生、母同前、

○受宗家之令當家之實名避久忠字改俊字、庶族皆同

之、

女子

○母同前、

松下助左衛門尉忠政一流系圖

忠政

助左衛門

○松下家元祖大隅守忠兼之二男、

忠成

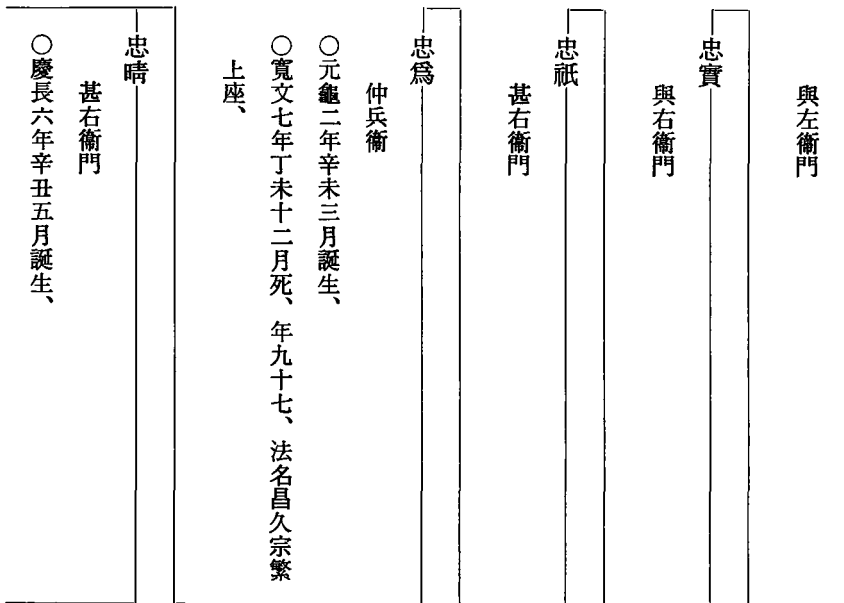
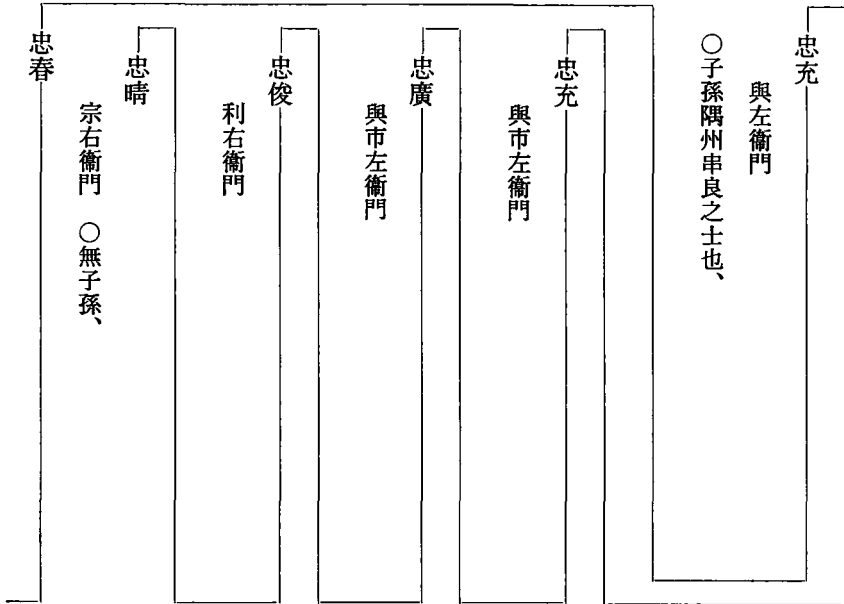
助左衛門

忠次

助左衛門

忠行

與一左衛門



○延寶四年丙辰六月死、年七十六、法名心翁常安禪  
定門、

女子

隅州串良士堅持帶刀妻、

寶山嶺銀和尚

隅州串良安住寺之住持、

忠貞

半右衛門

○寬永十二年乙亥八月誕生、

○寶永四年丁亥九月十一日死、年七十四、法名龍谷

宗雲居士、

女子

串良士平山市郎右衛門武文妻、

○母同所士竹之井新右衛門賴重女、

俊純

初忠政 又忠政 貞助 半平

○寬文六年丙午十一月三日誕生、母同前、

女子

夭亡、

俊甫

初忠敬 甚平 孝右衛門

○元祿元年戊辰九月六日誕生、母串良士前田良玄坊

常政女、

武次

仲兵衛 權八

○元祿六年癸酉九月朔日誕生、母同前、

○爲串良士平山市郎右衛門武文之養子、

(ママ)

松下助五郎久嘉一流系圖

久嘉

助五郎

○松下家二代大隅守久景之二男也、

久昌

助五郎

久次

式部少輔

久次

伊賀守

久次

中務少輔

久次

信濃守

久爲

信濃守

久實

仲兵衛尉

久之

木工之助

○隅州大始良之士也、子孫在彼地、

○久實無繼子故爲猶子、實隅州高山士友重次郎三

郎之男子也、

○寶永二年乙酉四月十六日死、年八十一、法名直

翁徹心、

俊墨

初久智 才千代 木工左衛門

○慶安元年戊子三月十八日誕生、母鎌田出雲正長

家臣西牟田勝左衛門親安女、

俊昭

初久福 袈裟次 喜兵衛 木工之助 木工

兵衛

○慶安四年辛卯三月三日誕生、母同前、

女子

鹿兒島土泊七郎左衛門信直妻、

○母同前、

久郡

勝三郎

○寛文三年癸卯二月朔日誕生、母同前、

○爲鎌田出雲正長家臣富山新右衛門義將之猶子、

女子

大始良士北方舍人盛時妻、

○母同前、

俊恆

萬之助

○元祿十二年己卯閏九月十八日誕生、母禰寝丹波  
清雄家臣上田森右衛門重格女、

俊滿

初久惠 才三郎 治兵衛

○寛文十一年辛亥正月十日誕生、母大始良士富山

良覺坊女、

女子

鎌田出雲正長家臣西牟田彌左衛門親義妻、

○母同前、

俊弼

初久知 治十郎 嘉左衛門

○延寶八年庚申十一月十八日誕生、母同前、

女子

○母大始良士野田藤左衛門正奉女、

女子

○母大始良士吉原慶左衛門重仲女、

俊茂

初久次 才十郎

○寶永元年甲申七月十七日誕生、母同前、

俊房

勝兵衛

○寶永七年庚寅九月十八日誕生、母同前、

久孝

越中守 刑部少輔

○居住于日州清武城、

(貼紙)  
天正十五年也

三月十五日不傳年号於豐後州戰死、法名古巖宗源居士、

久明

左近將監

○母椎原彦左衛門秀時女、

○隅州福山之土也、

○五月十五日不傳年号死、法名才安淨知上座、

久宣

正菊 善藏 内膳 淡路

○天正九年辛巳四月八日誕生、母同前、隅州福山之土也、

之土也、

○寛文七年丁未十月二十四日死、年八十七、法名

悦山了胎居士、

女子

鹿兒島士平田九郎左衛門勝宗妻、

○母同前、

女子

指宿清左衛門忠政鹿兒島士妻、

○母同前、

久粗

五郎左衛門

○元和元年乙卯三月二十四日誕生、母隅州清水士

久松彌右衛門直爲女、

○元祿十一年戊寅五月七日死、年八十四、法名吉

山以慶居士、

久次

主膳 早世、

○法名鮮、心了明居士、

○母同前、

女子

福山士指宿九右衛門忠辰妻、

○母同前、

俊賢

初久弦 又久基 善五郎 五郎兵衛

○寛永十六年己卯五月十六日誕生、母福山士隅久

左衛門秀時女、

俊興

初久敬 善三郎 善左衛門

○正保二年乙酉五月十九日誕生、母同前、

俊員

初久救 三太郎 五右衛門

○寛文五年乙巳正月朔日誕生、母隅州恆吉士蓑

田山右衛門長治女、

女子

隅州國分士稅所助六篤愛妻、

○母隅州恆吉士吉岡加賀兼衛女、

俊令

初久富 善十郎 善兵衛

○元祿九年丙子四月十五日誕生、母同前、

女子

○母隅州牛根士有村甚右衛門重次女、



女子

福山士松下清左衛門久恭妻、

○母隅州敷根士猿渡千左衛門信重女、

俊恆

初久軌 又久詮 正菊 五郎右衛門 助右衛門

門

○寛文十二年壬子十一月二十一日誕生、母同前、

女子

○母島津主水久輔家臣田中源七左衛門家慶女、

俊式

初久休 又久尙 善藏

○元祿十二年己卯三月晦日誕生、母同前、

女子

○母同前、

俊紹

初久首 正次郎

○寶永八年辛卯四月三日誕生、母同前、

久舊

刑部少輔 清兵衛

○母鹿兒島士川越九郎重林女、

○延寶四年丙辰八月十八日死、年八十四、法名清峯

壽心居士、

久通

仲右衛門

○母同前、

○延寶七年辛酉十二月二十九日死、法名通屋宅圓

居士、

久俱

仲之丞 吉兵衛

○寛文九年己酉五月十八日誕生、母隅州清水士濱

田民部左衛門良豐女、

○久通無繼嗣故爲養子、實福山土松下吉左衛門久矩之男子也、

○元祿十四年辛巳十二月十七日死、法名壽岳宗榮居士、

久茂

清太夫

○元祿四年辛未四月二十二日誕生、母福山土立久井民部左衛門義允女、

○寶永七年庚寅十二月二十二日死、法名一圓、

久高

清三郎 三郎左衛門 佐左衛門

○母隅州清水土有馬豐前住植女、

○寬文十二年壬子七月二十二日死、年五十三、法名月叟安心居士、

女子

恆吉士吉田彦八左衛門妻、

○母同前、

久矩

初久爲 菊太郎 清三郎 吉左衛門

○寬永十六年己卯七月十七日誕生、母福山土青山與次右衛門尙雅女、

○寶永六年己丑七月十七日死、年七十一、法名柏岩道松居士、

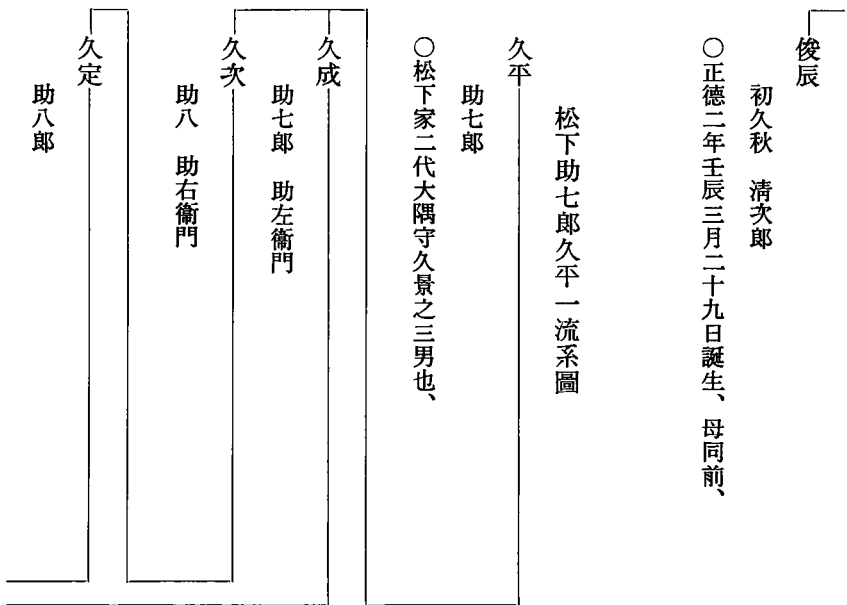
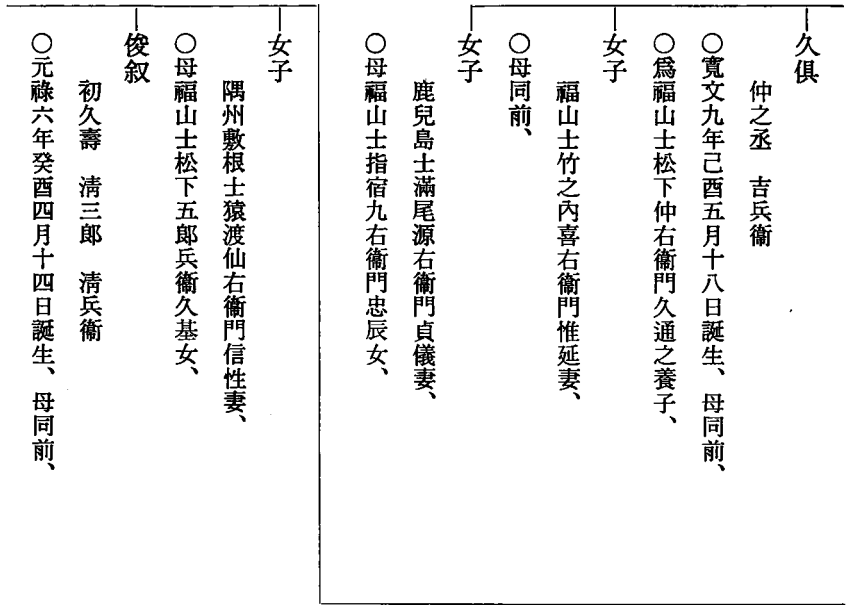
女子

○母同前、

俊精

初久常 又久恭 千菊 清左衛門

○寬文二年壬寅三月二十四日誕生、母清水土濱田民部左衛門良豐女、



忠行

三左衛門

○慶長五年自隅州蒲生移日州高岡、子孫在彼地、

○法名實叟春香居士、

忠清

助左衛門

○慶長二年丁酉八月十一日誕生、母隅州櫻島土市

來氏女、

○明曆三年丁酉八月十一日死、法名模庵宗耶居士、

傳左衛門

○爲蒲生土滿尾某之猶子、

女子

古頭源左衛門妻、

俊純

初忠秀 五郎左衛門 五右衛門

○寛永十一年甲戌三月十日誕生、母高岡土海江田

土佐女、

女子

高岡土長野覺左衛門祐辰妻、

五兵衛

○爲高岡土甲斐權之助養子、

俊宗

初久智 平八 助市

○明曆三年丁酉二月十日誕生、母高岡土蓑田八郎

右衛門女、

女子

高岡土渡邊傳右衛門妻、○母同前、

女子

日州穆佐土小田武兵衛妻、

俊商

五郎八

○貞享四年丁卯二月十日誕生、母高岡土松岡市左衛

門女、

俊盛

次郎助

○元祿六年癸酉七月十七日誕生、母同前、

女子

日州山之口土池并加藤兵衛妻、

久純

勤兵衛

久守

勤兵衛

○自隅州福山移同州踊、子孫在彼地、

久次

加左衛門

○子孫隅州曾於郡士也、

久緣

休兵衛

久有

左近

○爲兄久緣之養子、

久有

左近

○兄久緣依無世子爲養子、

○元祿十三年庚辰十月二十三日死、法名洞雲壽泉

居士、

俊積

初久矩 松助

○寬永十三年丙子六月七日誕生、母鹿兒島土木村  
木工右衛門女、

○久有依無世子爲養子、實會於郡士肱岡帶刀長賴  
二男也、

俊精

初久長 源右衛門

○寬文九年己酉三月二十四日誕生、母鹿兒島土家  
村造右衛門重香家臣鬼塚茂左衛門女、

女子

隅州國分宮内社人若宮孫左衛門妻、

○母同前、

僧

泰麟

○延寶五年丁巳十一月晦日誕生、母同前、

女子

會於郡士立本與七妻、

○母會於郡士稻留治部左衛門長致女、

俊將

初久金 源左衛門

○元祿十一年戊寅八月二十日誕生、母同前、

久行

孫右衛門

○貞享四年丁卯四月十一日死、法名快心道慶居士、

久敬

初久敦 孫兵衛

○寬永十五年戊寅二月十七日誕生、母踊士春田對馬  
益親女、

益親女、

○寶永四年丁亥正月朔日死、法名雪岑了白居士、

女子

踊士津曲彌市兵衛兼時妻、○母同前、

久矩

孫左衛門 藤七兵衛

○慶安四年辛卯二月朔日誕生、母同前、

○正徳元年辛卯七月五日死、法名俊翁了機居士、

女子

踊士平山源六季珍妻、

○母同所士上原伊豫尙重女、

俊方

初久武 勘兵衛 孫之進

○天和二年壬戌八月十五日誕生、母同前、

俊員

初久慶 虎助 孫左衛門

○貞享四年丁卯二月二十八日誕生、母同前、

俊倍

孫太郎

○寶永七年庚寅八月二十日誕生、母踊士森五郎右衛門義智女、

女子

隅州國分士八个代會右衛門重共妻、

○母踊士唐仁原兵部左衛門秀員女、

女子

國分土木工田善左衛門信安妻、

○母同前、

俊陽

初久昵 藤七 孫右衛門

○延寶六年戊午二月二十八日誕生、母同前、

俊甫

初久嘉 千左衛門 孫七

○天和二年壬戌十月六日誕生、母同前、

俊房

千兵衛

○元祿十四年辛巳二月十二日誕生、母同前、

俊武

藏右衛門

○寶永二年乙酉八月六日誕生、母同前、

女子

○母日州志布志士鳥井與八左衛門惟昌女、

女子

○母同前、

俊相

藤右衛門

○寶永四年丁亥十二月六日誕生、母踊士津曲彌市兵

衛兼時女、

俊門

龜千代

○寶永七年庚寅十二月二十二日誕生、母同前、

松下助九郎久景一流系圖

久景

助九郎

○松下家二代大隅守久景之四男、

久辰

郷左衛門

○法名道悅、

忠友

玄蕃助

○法名宗清、

忠光

權右衛門

○居住于隅州財部、

○寛永十六年十一月二十日死、法名松月常心居士、



忠種

正右衛門

○法號正室宗同居士、

忠成

清左衛門

○天正十五年丁亥誕生、母鹿兒島士大馬場壹岐入

道休甫女、

○隅州山田士也、子孫在彼地、

○延寶八年庚申六月二十九日死、法名松岩道柏居

士、

女子

日州財部士東兵衛左衛門久誠妻、

○母同前、

忠利

權之助

○慶長六年辛丑十月四日誕生、母同前、

○隅州財部士也、子孫在彼地、

○寛永十九年壬午九月二十八日死、法名月桂常

心、

女子

鹿兒島士大馬場源兵衛妻、

○母同前、

忠知

七郎 權七左衛門 彌左衛門

○寛永七年庚午二月二十八日誕生、母財部士黑

川市兵衛女、

○正徳四年甲午六月十日死、法名雲岑覺岫、

女子

隅州敷根士川原田松右衛門妻、

○母同前、

俊存

初忠智 源八 正右衛門

○寛永十九年壬午四月十六日誕生、母同前、

俊因

初忠張 隼人 孝左衛門

○延寶六年戊午十二月十日誕生、母財部士黒川市右衛門家起女、

女子

○母同前、

俊積

初忠房 市兵衛

○元祿元年戊辰二月十六日誕生、母同前、

俊宗

十郎

○元祿十三年庚辰三月十五日誕生、母同前、

女子

○母日州紙屋土岩崎十郎兵衛女、

俊伴

爲右衛門

○寶永二年乙酉十二月十二日誕生、母財部士横山權左衛門女、

女子

○母同前、

俊元

孝右衛門

○正徳四年甲午正月七日誕生、母同前、

忠雄

源三郎 清左衛門 喜兵衛

○寛文四年甲辰十一月十日誕生、母財部士園田

源左衛門重正女、

○正徳三年癸巳十月十八日死、法名柏峯道松、

忠増

七郎左衛門 源左衛門

○寛文七年丁未正月二十六日誕生、母同前、

○爲財部士東正兵衛之養子、

女子

財部士山下佐兵衛兼道妻、

○母同前、

俊逸

初忠行 主水左衛門 清右衛門

○延寶六年戊午六月四日誕生、母同前、

俊厚

清左衛門

○元祿十四年辛巳二月二十二日誕生、母妾、

俊茂

清八

○寶永二年乙酉三月二十二日誕生、母同前、

俊悅

清太夫

○寶永七年庚寅二月四日誕生、母同前、

女子

○母同前、

女子

財部士山城喜覺妻、

○母財部士村岡權内良元女、

俊寶

初忠方 源六

○元祿十六年癸未十一月十七日誕生、母同前、

俊名

初忠次 喜右衛門

○寶永元年甲申二月四日誕生、母同前、

忠清

主水左衛門 市郎兵衛

○元和二年丙辰三月誕生、母隅州帖佐士長崎彥兵衛道利女、

○寛文十年庚戌八月二十二日死、法名松山道風居士、

女子

島津兵庫久住家臣草水爲右衛門盛轉妻、

○母薩州羽月士柳田藏之助女、

俊住

初忠共 正左衛門

○慶安元年戊子十月十五日誕生、

○忠清依無嗣子爲養子、實隅州山田士向江仁右衛門正秀之二男、

俊之

初忠治 清助

○寛文六年丙午九月二十六日誕生、母薩州羽月士

柳田藏之助女、

(ママ)

○忠共相續於忠清家之後出生、以故爲二男、

女子

○母島津兵庫久住家臣恆吉三左衛門重行女、

俊信

初忠正 莊助

○延寶八年庚申十一月二十八日誕生、母同前、

俊盈

初忠兼 千右衛門

○貞享三年丙寅七月三日誕生、母同前、

俊慶

清右衛門

○元祿四年辛未八月四日誕生、母同前、

忠正

玄蕃允 十郎左衛門

○寛永十八年辛巳九月五日死、法名授覺心宗庵主、

女子

隅州國分士川上左近妻、

隼人

○爲財部士楳松對馬之養子、

忠實

源五左衛門

○隅州財部之士也、子孫在彼地、

○寛文十一年辛亥九月四日死、年五十八、法名音

嶽常悅居士、

女子

財部士久長順右衛門盛昌妻、

○母財部士棟方藤左衛門秀方女、

忠了

滿右衛門

○寛永八年辛未十一月十三日誕生、母同前、

○元祿四年辛未正月十二日死、年六十一、法名林

芳道喜上座、

俊信

初忠章 玄番 源右衛門 五右衛門 郷右

衛門

○寛永十八年辛巳七月五日誕生、母同前、

女子

財部士川口後藤妻、

○母島津筑後久龍家臣入木吉右衛門頼房女、

俊村

初忠福 新右衛門

○天和三年癸亥十月七日誕生、母同前、

俊益

初忠珍 十左衛門

○貞享四年丁卯七月十九日誕生、母同前、

女子

○母財部土竹下早左衛門賴高女、

女子

財部土佐伯仲兵衛家根妻、

○母同前、

俊在

初忠昭 正左衛門

○寛文五年乙巳八月十日誕生、母同前、

女子

○母財部土長瀬孫左衛門宗房女、

忠篤

初忠元 源七郎 孝右衛門 治部右衛門

○慶長二十年即元和元年也乙卯三月二十九日誕生、母薩州谷

山土外山監物義良女、

○此代自財部移居薩州泊、子孫在彼地、

○元祿十二年己卯八月二日死、法名海山春芳居士、

女子二人

忠長

源七左衛門

○寛永二年乙丑正月二十七日誕生、母同忠篤、

○隅州財部土也、子孫在彼地、

○寶永三年丙戌十一月八日死、覺心宗白庵主、

忠次

權之助 早世、

女子

國分土外山喜兵衛義真妻、

○母島津筑後久龍家臣川野四郎左衛門通家女、

俊門

初忠昉 利右衛門

○慶安三年庚寅閏十月十二日誕生、母同前、

忠政

市兵衛

○承應三年甲午十二月二十四日誕生、母同前、  
○延寶三年乙卯八月十八日死、法名一以宗貫居士、

俊朋

初忠春 助之進 休右衛門

○萬治元年戊戌十二月十日誕生、母同前、

俊賀

初忠直 彌七

○延寶六年戊午三月二十五日誕生、母財部土竹内

八郎兵衛安興女、

○爲伯父忠昉之猶子、

俊益

初忠寔 十左衛門

○天和三年癸亥九月二十三日誕生、母同前、

女子

財部土松下新右衛門妻、

○母同前、

俊名

十郎右衛門

○正德二年壬辰十二月二十八日誕生、母日州末吉  
土横山市兵衛秀信女、

女子

財部土花房伴助妻、

○母隅州末吉土鎌田新左衛門女、

利助

○延寶三年乙卯十二月十三日誕生、母隅州恆吉土後

藤八兵衛女、

○天和三年癸亥五月二十五日死、法名南室幼柯童子、

俊賀

初忠直 彌七

○伯父忠昉一子早世而無繼子故爲養子、實休右衛

門忠春之嫡子也、

女子

○母財部土米良少助重武女、

俊清

孝右衛門

○正徳二年壬辰正月二十日誕生、母同前、

俊相

初忠盈 又忠充 十平 十兵衛

○寛永十四年丁丑正月十八日誕生、母財部土山城平

内左衛門祐喜女、

女子

鹿兒島土吉田永仙妻、

○母同前、

女子

薩州坊津土宮田甚右衛門信元妻、

○母同前、

女子

泊土貴島六兵衛滿存妻、

○母薩州加世田土松田藏人女、

俊寶

初忠珍 郷左衛門

○寛文十二年壬子十月晦日誕生、母同前、

女子

薩州阿多土鮫島作左衛門妻、

○母同前、

忠升

徳千代 十郎左衛門

○天和二年壬戌十二月六日誕生、母同前、

○爲坊津土鮫島市左衛門宗春之養子、

俊盈

初忠方 助五郎



○元祿六年癸酉十二月十九日誕生、母泊士伊瀨知喜

兵衛女、

女子

○母同前、

俊愛

初忠智 善助

○元祿十二年己卯七月十七日誕生、母同前、

女子

○母同前、

女子

○母同前、

女子

○母同前、

松下助五郎久以一流系圖

久以

助五郎

○松下家三代常陸守佐久之三男、

女子

山田助右衛門妻、

女子

種子島出雲妻、

女子

久保平内妻、

久永

清左衛門

久實

初忠保 源六 源五左衛門

○隅州蒲生之士也、子孫在彼地、

○法名眞寂道如庵主、

久行

源四郎

○文祿四年七月四日追島津久四郎忠清跡殉死、法名見性道直禪定門、

忠林

吉兵衛

忠吉

與右衛門

○慶長十年乙巳誕生、

○爲鹿兒島士也、

○貞享四年丁卯四月二十五日死、年八十三、法名

直心宗朴居士、

久有

吉兵衛

○寛永十八年辛巳三月七日誕生、母大口土山下

大膳女、

○忠林者大口土而於夫地死也、嫡子忠吉者爲鹿

兒島士、故大口土跡斷絶、依之相續忠林之跡

而爲二男、實大口土坂元傳左衛門光昆之二男

也、

○元祿三年庚午三月二十九日死、法名空屋投本

上座、

女子

大口土竹田主計光年妻、

○母薩州本城士馬門番右衛門女、

久矩

彌左衛門

○寛文八年戊申四月八日誕生、母同前、

○寶永四年丁亥六月十三日死、法名淨忍双清信

士、

俊峯

初久廣 與右衛門

○寛文十二年壬子十月十七日誕生、母同前、

女子

大口市向江長右衛門純昌妻、

○母大口土山下六右衛門女、

俊昌

三左衛門

○元祿十年丁丑八月二十七日誕生、母同前、

俊名

吉兵衛

○元祿十五年壬午十二月三日誕生、母同前、

俊

初忠信 三左衛門 源右衛門

○寛文三年癸卯十月八日誕生、母隅州栗野土有村

太郎左衛門清治女、

源七

○元祿十六年癸未二月十八日誕生、母稅所仲左衛門

篤直女、

○寶永五年戊子二月二十三日早世、法名眞源寶珠童

子、

俊

三左衛門

○寶永六年己丑十一月十七日誕生、母同前、

久宣

源助 源七左衛門

○慶長十八年癸丑八月十一日誕生、母蒲生土有馬右

衛門兵衛純俊女、

○正保四年丁亥四月晦日死、法名遺芳周安居士、

純知

彦松 大内藏丞 源五左衛門 ○母同前、

○爲蒲生土有馬右衛門兵衛純俊之養子、

俊常

初忠俊 又久馮 源六 助右衛門

○寛永十七年庚辰十一月十一日誕生、母鹿兒島土竹之内覺右衛門實友女、

久般

孫右衛門 藏右衛門

○萬治二年己亥六月十一日誕生、母蒲生土野村新兵衛直綱女、

女子

○元祿十五年壬午十一月六日死、法名豁山淨然居士、

女子

蒲生土野村次郎左衛門廣綱妻、○母同前、

俊祥

初久曉 萬之助 安右衛門

○貞享二年乙丑正月二十三日誕生、母蒲生土有馬源五左門純知女、

俊章

初久林 龜之丞 甚五右衛門

○元祿三年庚午六月十二日誕生、母同前、

女子

蒲生土馬渡善右衛門義珉妻、

○母同前、

俊淨

初久美 伊右衛門

○元祿十三年庚辰十一月二十九日誕生、母同前、

女子

○母隅州帖佐土隈元傳左衛門宗茂女、

松下助三郎久武一流系圖

久武

助三郎

○松下家三代常陸守佐久之三男、

久實

助三郎

久次

助三郎 法名宗意、

○至久實・久次之際二代闕如焉、

○薩州大口土也、子孫在彼地、

久陳

覺右衛門

○久次依無繼子爲養子、實大口土曾木日向重豐之二

男也、

○寛文四年甲辰八月六日死、法名風庵月松居士、

久尊

休右衛門

○母大口土渡邊休右衛門女、

○寛文五年乙巳十二月二十日死、法名月浦宗之居士、

久俱

鎌助 養安

○母大口土村田源之丞經吉女、

○延寶二年甲寅二月二十九日死、法名機關宗玄居士、

女子

大口土寺師刑部左衛門妻、○母同前、

俊方

初久規 嘉右衛門

○寛文元年辛丑十一月誕生、母隅州國分宮内社人山

田大圓坊存暹女、

○久俱無世子故爲養子、實大口士井畔喜右衛門家房  
之二男也、

女子

○母大口士寺師二左衛門宗益女、

女子

俊意妻、○母同前、

男子

○母同前、○早世、

俊意

仲左衛門

○延寶七年己未七月二十六日誕生、母鹿兒島土池田

甚右衛門女、

○俊方依無嗣子爲智養子、實鹿兒島土貴島十郎左衛

門賴代之二男也、

松下助二郎久榮一流系圖

久榮

助二郎

○松下家四代助左衛門久友之二男、

久次

助三郎 但馬 入道號齒玄、

但馬助

○住于加治木、○法名寶山宗玉居士、

源四郎

○母隅州吉松土中村氏女、○子孫斷絶、

○早世、法名心屋正庵居士、

女子

鹿兒島土小野七兵衛妻、

久林

勤左衛門

○兄但馬助之一子源四郎早世、以故久林相續當家、  
○薩州阿久根士也、○子孫在夫地、

久次

助二郎

○日州高崎士也、○子孫在彼地、

久定

權兵衛

○日州高岡士也、○子孫在彼地、  
○明曆元年乙未二月八日死、法名松山天崇、

忠重

新右衛門

○天正十七年己丑誕生、  
○久定無嗣子故爲養子、實高岡土海老原少左衛  
門之男子也、  
○天和元年辛酉六月十四日死、法名南江宗振、

俊春

吉之丞 新右衛門

○正保元年甲申八月三日誕生、母妾、

○忠重依無實子爲養子、實高岡土海老原少左衛  
門爲次之子也、

俊孫

初忠辰 仲三郎 吉兵衛

○寛文八年戊申七月三日誕生、母日州倉岡士佐  
西市左衛門女、

俊親

休二郎 權兵衛

○寛文十二年壬子十月十七日誕生、母同前、

女子

○母妾、

俊助

休二郎

○寶永四年丁亥十一月二十二日誕生、母同前、

俊尙

仲三郎 勘右衛門

○元祿三年庚午四月三日誕生、母高岡土細山田覺

左衛門女、

俊清

半平

○元祿八年乙亥三月十四日誕生、母同前、

俊秀

仙千代 千兵衛

○元祿十四年辛巳六月二十三日誕生、母同前、

女子

○母同前、

忠秀

助八郎

忠元

外記

○文祿二年癸巳誕生、

○爲北郷家之臣住都之城、子孫在彼地、

○寛文四年甲辰三月二十四日死、法名松林元端、

主水

○依爲病人讓家督於弟清左衛門而爲庶流、

○正月七日不傳年号死、法名月桂常香、

清左衛門

○受兄之讓相續家督、

○五月四日不傳年号死、法名恕翁道忠、

女子

北郷讚岐守忠能家臣小岩屋茂左衛門妻、



女子

忠行妻、

忠行

銀兵衛

○寛永五年乙巳十月三日誕生、

○主水無男子故爲智養子、實園田氏之男也、

○正徳元年辛卯七月八日死、法名堅叟道固、

俊曉

初忠陳 莊右衛門

○慶安二年己丑三月十一日誕生、母祖父主水

女、

女子

都之城家臣牧平右衛門種員妻、

○母都之城家臣乙守十左衛門長道女、

俊毗

初忠重 孫之允

○天和三年癸亥四月十五日誕生、母同前、

俊穩

森右衛門

○元祿四年辛未六月十三日誕生、母同前、

俊竝

善之助

○寶永二年乙酉十二月四日誕生、母都之城家臣

近間太兵衛女、

女子

○母同前、

忠彌

彦作 藤兵衛

○寛永元年甲子誕生、母都之城家臣曾我雅樂助

女、

○寬文五年乙巳十月三日死、法名得一宗意、

忠常

伊左衛門

○寬永七年庚午誕生、母同前、

○爲都之城家臣瀨戶山主左衛門賴龍之養子、

女子

都之城家臣稅所藤五左衛門妻、

○母同前、

女子

都之城家臣齊藤休八妻、

○母都之城家臣赤木藤兵衛盛政女、

俊綿

初忠征 宇右衛門

○承應三年甲午八月四日誕生、母同前、

宇左衛門

○寬文二年壬寅五月六日誕生、母同前、

○爲都之城家臣宮原彦一之養子、

忠珍

仁右衛門

○萬治二年己亥誕生、母都之城家臣竹下伴左衛門女、

門女、

○忠征無嗣子故爲養子、實都之城家臣瀨戶山伴左衛門賴路之二男也、

左衛門賴路之二男也、

○元祿十六年癸未十月二日死、法名喬岩紹秀、

俊興

初久貞 清左衛門

○貞享三年丙寅三月三日誕生、母都之城家臣村田三左衛門盛茂女、

田三左衛門盛茂女、

○爲善七忠茂之後嗣、

俊意

初久寬 助八

○元祿七年甲戌五月十五日誕生、母同前、

俊俣

助七 爲山伏號眞源、

○元祿十六年癸未二月二十九日誕生、母同前、

忠茂

善七

○延寶三年乙卯誕生、母都之城家臣竹下伴左衛門女、

○忠珍無實子而死故爲養子、實瀬戸山伊左衛門頼路之三男也、雖然忠征有數男子、故讓當家於俊興而復本氏瀬戸山、

俊興

初久貞 清左衛門

○實忠征之嫡子也、受忠茂之讓而相續當家、

忠豊

勝右衛門

忠隆

大藏

○寶永六年己丑正月七日死、法名光岸宗明居士、

忠行

仲右衛門

○爲池上新右衛門之養子、

忠置

七郎右衛門

○母島津中務久輝家臣竹石五右衛門親繼女、

○元祿七年甲戌四月十一日死、法名月憲頓周居士、

俊春

初忠致 權之助

○寛文元年辛丑十一月八日誕生、母同前、

女子

高原士永田寶傳坊良宗妻、

○母同前、

女子

高原士竹添内藏右衛門重隆妻、

○母高崎士逆瀬川藤右衛門安連女、

俊品

善六

○元祿十五年壬午四月二十九日誕生、母同前、

俊逢

新八郎 助八 友右衛門

○元祿二年己巳七月十一日誕生、母垂水家臣重永彌

五右衛門義造女、

女子

忠登妻、

忠登

三右衛門

○慶長九年甲辰十月二十五日誕生、母鹿兒島士園田

清左衛門女、

○忠林無男子故爲智養子、實薩州高尾野士德永駿河

親房之二男也、

○延寶二年甲寅七月十七日死、法名松巖齡昌居士、

忠晴

千之助

○寬永三年丙寅正月八日誕生、母久林女也、

○阿久根士、

○元祿六年癸酉八月十一日死、法名隱窓常安居士、

俊盈

初忠清 八兵衛 友右衛門

○寬永十一年甲戌三月五日誕生、母同前、

○阿久根士、

忠成

八郎右衛門

○寛永十七年庚辰二月二日誕生、母同前、

○阿久根士、

○貞享二年乙丑九月三日死、法名春宗傳心居士、

女子

阿久根士木下伊右衛門成直妻、

○母同前、

女子

阿久根士白濱藤右衛門重仲妻、

○母高尾野士徳永掃部親善女、

俊衡

初忠榮 八右衛門

○寛文十年庚戌十一月十九日誕生、母同前、

半右衛門

○延寶三年乙卯六月十三日誕生、母同前、

○爲阿久根士脇岡大藏之養子、

俊尙

助早 孝左衛門

○天和二年壬戌十一月十八日誕生、母同前、

俊滿

幸之助

○寶永六年己丑十月六日誕生、母阿久根士久木

田慶左衛門重盛女、

俊茂

孫四郎

○元祿九年丙子八月六日誕生、母薩州出水士竹添

繁右衛門良保女、

女子

○母同前、

女子

○母同前、

—女子

阿久根土勝目郷左衛門安通妻、

○母阿久根土小木原番左衛門元重女、

—女子

阿久根土久木田慶左衛門重盛妻、

○母同前、

—俊陽

初忠堯 三右衛門

○寛文八年戊申十二月十五日誕生、母同前、

—女子

高尾野土白濱安右衛門重治妻、

○母同前、

—女子

阿久根土小木原莊兵衛元次妻、

○母垂水家臣川添與兵衛武矩女、

—女子

阿久根土河南吉右衛門亮禱妻、

○母同前、

—俊明

甚五右衛門

○元祿十五年壬午九月二十三日誕生、母同前、

—俊英

八郎右衛門

○寶永四年丁亥二月十一日誕生、母同前、

—女子

○母同前、

—賢俊

初忠意 代助 七郎右衛門

○明曆元年乙未正月十四日誕生、母高尾野土池田利

兵衛貞信女、

女子

阿久根土松崎猪之助良武妻、

○母同前、

女子

阿久根土大磯甚左衛門妻、

○母厩附中間中尾珍左衛門女、

俊武

松千代 勘左衛門

○天和二年壬戌八月二十六日誕生、母同前、

女子

○母阿久根土白濱藤右衛門重仲女、

俊房

七郎左衛門

○正徳三年癸巳三月二日誕生、母同前、

松下五郎左衛門久宣一流系圖

久宣

五郎左衛門

○永正三年丙寅八月二日誕生、

○松下家五代助右衛門久澄之二男、

○慶長三年戊戌七月四日死、年九十三、法名清忠道

庵、

久治

五郎左衛門 番左衛門

○天文二十三年甲寅八月十二日誕生、

○慶長六年辛丑三月二十九日於日州穆佐討死、法名

機先清監、

女子

鹿兒島土友野左近妻、

女子

鹿兒島土岡元主計妻、

女子

鹿兒島土石塚正助妻、

女子

伊集院土鬼塚彦左衛門妻、

忠興

番左衛門

○天正十四年丙戌八月二日誕生、

○隅州國分土也、子孫在彼地、

○寛永三年丙寅閏四月二十三日死、法名剛山常金居

土、

女子

國分土三宅七兵衛妻、

忠興

初忠友 番左衛門 入道名紹甫、

○慶長十五年庚戌六月十一日誕生、母大口土阿萬大

藏女、

○寛文五年乙巳八月三日死、法名月山全江居士、

久通

五郎左衛門

○寛永十五年戊寅二月五日誕生、母前田甚右衛門女、

○延寶八年庚申九月二十日死、法名禪學道參居士、

久俱

初久昉 六兵衛

○寛永十九年壬午十二月十二日誕生、母同前、

○爲兄久通之養子、

久敬

初久平 助左衛門

○慶安三年庚寅十一月十二日誕生、母同前、

○正徳二年壬辰正月四日死、法名大方良悟、

女子

國分土安樂大炊左衛門兼矩妻、



<p>久俱</p>	<p>俊清 正左衛門 ○正德三年癸巳五月二十五日誕生、母國分士荒田傳兵衛武策女、</p>	<p>俊淨 初久嶺 休太郎 ○元祿三年庚午十二月二十四日誕生、母國分士荒田重右衛門武繼女、 俊遠 初久顯 三五郎 ○元祿七年甲戌六月十一日誕生、母同前、 女子 母同前、</p>
-----------	--	--

<p>俊救 初久起 助之進</p>	<p>女子 國分士曾山休右衛門妻、母同前、 女子 國分士中澤新右衛門俊相妻、母同前、</p>	<p>俊易 初久救 助八 六郎兵衛 ○寬文十年庚戌六月五日誕生、母國分士益滿民部左衛門永尋女、 初久昉 六兵衛 ○寬永十九年壬午十二月十二日誕生、母同前、 ○兄久通無實子故爲養子而相續家督、 ○元祿元年戊辰十一月二十八日死、法名松巖自操居士、</p>
-----------------------	--	---

○元祿八年乙亥二月三日誕生、母國分士有馬仁兵衛

純春女、

俊精

初久言 助六

○元祿十二年己卯正月十二日誕生、母同前、

俊倚

初久近 四郎右衛門

○寶永六年己丑五月十五日誕生、母同前、

女子

母同前、

松下七左衛門久長一流系圖

久長

七左衛門

○松下家七代主殿助久矩之二男、

○日州高岡之士也、子孫在彼地、

○久長無實子、故初以久有後久時高岡士溝口爲養子而

附屬采地十三斛余矣、其後又以久佐高岡士有屋田治部久延之二男

爲養子而附屬采地百斛余併家財等矣、因是兩家之

子孫迄于今雖冒松下號、嫡庶不決也、於是乎正德

三年之秋宗家伊集院藏人久矩遂詮議、且請記錄館

正斷之曰、久佐雖爲後之養子、受采地百斛余及家

資、則是可爲嫡流之證、久有者雖爲初之養子、讒

受十三斛余之采地、則更無嫡流之證、然則久佐者

嫡而、久有者庶也、故以久有準久長之二男者也、

○慶安二年己丑正月二十九日死、法名松岩清銀居士、

久佐

龜早 萬右衛門

○元和四年戊午八月二日誕生、母高岡士靱木平右衛

門家重女、

○爲久長之養子相續當家、實高岡士有屋田治部久延

之二男也、

○承應三年甲午七月二十五日死、法名一翁宗圓居士、

久時

初久有 休兵衛

○爲久長之養子而準當家之二男、實高岡土溝口休右衛門之二男也、

○延寶元年癸丑十月十日死、法名樹山全栢居士、

久周

七兵衛

○母日州佐土原土押川早右衛門則種女、

○元祿六年癸酉正月十二日死、法名春山德翁居士、

俊清

初久貞 次郎兵衛

○萬治元年戊戌十一月十二日誕生、母高岡土比郎

田善右衛門吉武女、

○久周無世子故爲養子、實高岡土三宅市左衛門重

尙之二男也、

女子

○母高岡土野田新左衛門宗清女、

女子

○母同前、

久爲

初久道 鶴松 七左衛門

○慶安元年戊子八月二十九日誕生、母高岡土有屋田

治部久延女、

○久佐無男子故爲智養子、實高岡土宇都八彌宗俊之

二男也、

○元祿十二年己卯四月六日死、法名信叟全敬居士、

女子

久爲妻、

○母高岡土面高宥泉坊俊芳女、

久貞

鶴松 彌七

○寛文七年丁未二月晦日誕生、母久佐女、

○元祿七年甲戌六月十七日死、法名正雲禪道居士、

俊常

初久金 又久治 七之丞 七郎兵衛

○延寶五年丁巳二月二十四日誕生、母同前、

俊興

初久純 萬七

○元祿十三年庚辰九月二十九日誕生、母日州倉岡士

松元半左衛門貞安女、

俊易

初久記 鶴松 四郎右衛門

○貞享四年丁卯七月八日誕生、母高岡士黒川主水左

衛門家貫女、

久堅

助七

○元祿七年甲戌十一月九日誕生、母同前、

○爲外祖父黒川主水左衛門家貫之養子、

俊茂

初久慶 萬四郎

○正徳三年癸巳四月二十三日誕生、母高岡士濱田宗

次郎良春女、

伊集院氏

(表紙)

伊集院氏

一流

第八

新編島津氏世錄支流系圖

伊集院氏支流丸田系圖

孝久

初徳久 助三郎

○伊集院彈正少弼頼久六代家督他腹長男也、  
○二十三歲不傳年號而死、法號雪岸孝忠、

久國

下野守

○法號即元應心、

忠春

初號丸田、助三郎 常陸守 稱齋於正田、

○法號心翁正田、

忠安

號伊集院、伊豫守

○子孫記左、

秀久

號伊集院、初久安 助左衛門尉

○子孫記左、

常久

助三郎 式部少輔

○法號安叟淨心、

鑑久

助三郎 式部

○法號風山元清、

久清

伊豫守

○法號不改玄老、

忠安

民部左衛門尉

○法號法屋幽孫、

忠好

彌六左衛門尉

○法號戲峯神遊、

女子二人

久村

助八左衛門

○子孫記左、

忠友

彌六左衛門 式部左衛門

○母尾上某女、

○法號深林玄山、

女子

有馬某妻、

忠純

助三郎 彌七左衛門

○母持原某女、

○於朝鮮國戰死、法號劔行遊刃、

忠包

九郎左衛門

(貼紙 伊地知季通筆)

慶長三年十一月十八日戰死ノ  
列ニ忠純・忠包アリ、姓伊集院也、

○母同前、

○於朝鮮國與兄忠純俱戰死、

女子

東條佐渡妻、

俊香

初久峯 又忠孝 大吉 六右衛門

○慶安二年己丑三月二十二日誕生、母田布施土寺

師勘左衛門宗春女、

○忠包於朝鮮國戰死而無嗣子、故令忠孝相續其遺

跡、實田布施土上野八郎兵衛陰治之二男也、

○薩州田布施土也、

女子

○母田布施土是枝舍人快昌女、

俊盈

初忠金 七郎左衛門

○延寶六年戊午十一月三日誕生、母同前、

快里

孫左衛門 吉右衛門

○貞亨二年乙丑二月十八日誕生、母同前、

○爲田布施土是枝太兵衛快知之養子、

女子

○母田布施土小田原種左衛門秀有女、

女子

○母同前、

忠次

助三郎 早世、○母福島某女、

忠俊

虎介 助三郎 清兵衛 内膳

○天正十九年辛卯誕生、母同前、

○父忠純於朝鮮國戰死之後、忠俊依爲幼稚憑忠純妹

智東條佐渡住伊作年尙矣、其後移住田布施、

○延寶八年庚申正月十日死、年九十、法號大庵東悅、

— 忠重

助三郎 種左衛門

○元和四年戊午誕生、母薩州加世田土橋口七右衛門女、

○寬永六年己巳七月十七日早世、法號雲山陽白、

— 久知

初忠知 虎介 助三郎 軍七左衛門 式部左衛

門 入道號榮久、

○元和七年辛酉五月二日誕生、母同前、

○寶永六年己丑五月十五日死、年八十九、法號長山

榮久、

— 忠次

鶴松

○慶安二年己丑誕生、母薩州阿多士山田喜之介忠與

女、

○承應二年癸巳四月七日夭亡、法號夢屋如幼、

— 俊相

初久峯 中久方 又忠倚 虎介 助三郎 源左

衛門 助之進 半左衛門 善内

○承應三年甲午二月二十八日誕生、母同前、

○元祿九年丙子十一月十日、蒙 太守綱貴公命爲鹿

兒島士、

○正德三年之夏、受家嫡藏人久矩之令、當家之實名

自今以后避久忠字改俊字、庶族同之、

— 俊峯

初久休 龜次郎 彌左衛門 清兵衛

○萬治元年戊戌七月十四日誕生、母同前、

○元祿十二年二月三日蒙 太守綱貴公爲鹿兒島士、

— 女子

田布施士長瀬仲右衛門宗房妻、



○母同前、

俊春

助七

○寶永元年甲申十月六日誕生、母薩州阿多土濱田分

左衛門義行女、

俊滿

助二郎

○寶永七年庚寅正月十七日誕生、母同前、

女子

鹿兒島土有川十郎右衛門貞親妻、

○母奧附足輕丸田新右衛門忠征女、

久中

半七

○貞亨四年丁卯十月十五日誕生、母同前、

○元祿七年甲戌閏五月八日早世、法號寂岑幻光、

俊存

初久文 中忠興 半六 助三郎 彌七左衛門

藏之介 宅之丞 喜三太

○元祿五年壬申八月十一日誕生、母同前、

久言

半之進

○母同前、夭亡、

伊集院伊豫守忠安一流系圖

忠安

號伊集院、伊豫守

○丸田家二代下野守久國之二男也、

忠晴

助二郎

久興

伊豫守

女子

忠利

號堀内、長門守

久信

五郎左衛門

久高

長門守

女子

○産男子、即人山安龜和尚也、田布施常珠寺住持、

久歳

助左衛門

○於日州高原戰死、

久規

與吉 民部左衛門 後爲山伏名日限坊、

○爲 久保公御菩提廻國、而納六十六部經矣、

○子孫薩州大口士也、

○寛永十八年十二月十日死、法名權大僧都頼專、

久親

助左衛門 勝左衛門

○子孫日州野尻士也、

久矩

助左衛門 勝左衛門

○母日州高岡土市來清右衛門女、

○寛文十三年即延寶元年也九月十八日死、法名月紅常秋、

俊門

初忠成 彈助 勝左衛門

○正保元年甲申誕生、母高岡士長崎六左衛門公

高女、

女子

高岡士田中覺左衛門秀次妻、

○母同前、

忠清

勝兵衛

○慶安三年庚寅誕生、母同前、

○延寶二年甲寅二月十八日死、法名鐘岩梅林、

俊意

初忠次 善助

○明曆三年丁酉十月十日誕生、母同前、

○爲兄忠清之養子、

俊意

初忠次 善助

○明曆三年丁酉十月十日誕生、母同于兄忠清、

○兄忠清依無世子爲養子、

俊房

助十郎 助左衛門

○元祿五年壬申十二月二十日誕生、母野尻土池

田權右衛門女、

○俊意依無世子爲養子、實同氏勝左衛門忠成之

二男也、

女子

野尻土瀬口金助妻、

○母野尻土池田權右衛門女、

俊甫

彌平次 伴左衛門

○貞亨元年甲子正月晦日誕生、母同前、

俊房

助十郎 助左衛門

○元祿五年壬申十二月二十日誕生、母同前、  
○爲叔父同氏善助俊意之養子、

俊倍

助八

○正德三年癸巳九月二十三日誕生、母野尻士圖師  
助右衛門女、

久實

與吉 民部左衛門

○母大口土瀨戶口豐前女、

○天和元年辛酉正月九日死、法名大用壽慶居士、

久有

兵部左衛門

○慶安五年壬辰十一月二十三日死、法名利雄運  
貞居士、

久延

良壽院

○寬永三年丙寅十月十二日誕生、母薩州山野士  
谷留勝左衛門重澄女、

○正德三年癸巳三月二十日死、法名權大僧都三  
僧祇法印良壽院、

久次

兵左衛門

○母同前、

○爲大口土高橋三兵衛種周之猶子、

女子

大口土樺山作左衛門久廣妻、

○母同前、

俊孫

初久方 中俊豐 頼專院

○明曆二年丙申三月六日誕生、母大口土宮竹休

兵衛重次女、

女子

大口士貴島五右衛門頼安妻、

○母同前、

俊快

初久基 兵部左衛門 吉左衛門

○寛文七年丁未六月十日誕生、母同前、

出家

靈源 ○母同前、

女子

大口士蓑田安右衛門頼秋妻、

○母大口士宮竹六郎左衛門重次女、

俊清

勘兵衛

○元祿八年乙亥九月九日誕生、母同前、

俊武

勘之丞

○元祿十一年戊寅七月三日誕生、母同前、

俊祐

初久通 與兵衛

○延寶五年丁巳十二月八日誕生、母大口士松崎  
乗助兼敬女、

俊榮

初久商 勘左衛門 爲山伏名良盛坊、

○天和三年癸亥正月七日誕生、母同前、

俊安

圓右衛門

○元祿十一年戊寅七月二十六日誕生、母日州  
加久藤士川俣五兵衛篤徳女、

女子

○母同前、

女子

○母大口土松永傳兵衛篤徳女、

俊秀

與助

○正徳元年辛卯七月二十八日誕生、母同前、

女子

○母大口土樺山作左衛門久廣女、

女子

○母同前、

俊成

安之助

○正徳三年癸巳閏五月二十日誕生、母薩州羽月士

坂元本傳坊正躰女、

女子

大口土寺原早助重乘妻、

○母薩州曾木濱川六左衛門秀次女、

久興

五郎右衛門

○元和九年癸亥正月二十六日誕生、母同前、

○寶永三年丙戌二月七日死、法名儀鳳宗仁居士、

女子

大口土原口彌右衛門綱寛妻、

○母大口土上原五左衛門尙良女、

俊寛

初久敬 林兵衛

○承應二年癸巳六月十六日誕生、母同前、

女子

大口土元村利右衛門實辰妻、○母同前、

俊明

初久恭 助之進

○延寶七年己未二月五日誕生、母薩州山野土牧之

瀨曾右衛門秀次女、

女子

大口土向江平左衛門純順妻、

○母同前、

俊淨

初久建 與吉

○元祿二年己巳八月十八日誕生、母同前、

俊宣

助五郎

○寶永七年庚寅八月二十六日誕生、母大口土瀨戸

口平八篤次女、

俊和

助左衛門

○元祿十四年辛巳十二月二十二日誕生、母大口土原

口彌右衛門綱寛女、

女子

○母同前、

久成

周防介

女子

久珍

二郎左衛門 ○法名大山慈廣、

久次

二郎左衛門

○子孫在日州佐土原又都之城、

久明

勘解由

○子孫北郷家之臣而在都之城、

○法名淨翁了清、

久意

但馬

○法名月叟照圓、

久種

木工左衛門

○法名常香、

忠晴

木工左衛門

○法名常閑、

忠次

勝介

○爲北郷忠能家臣伊墨今介秀親之養子、

久行

勘解由

忠房

角左衛門

○寛永四年丁卯誕生、

女子

島津外記忠長家臣長友源介妻、

俊博

號丸田、初忠常 勘三郎

○寛永十七年庚辰十月十八日誕生、

○兄忠房無世子、故相續父久行之跡、

○正德四年之夏受宗家之命、避伊集院氏復本

氏丸田、

俊門

初忠陽 伴左衛門

○寛文十年庚戌十二月二十八日誕生、母島津



忠長家臣岩切木工右衛門信次女、

俊武

初忠洪 木工右衛門

○貞享元年甲子四月五日誕生、母同前、

女子

○母北郷七郎左衛門久中家臣吉川勘拾女、

俊陽

權八

○寶永五年戊子正月三日誕生、母同前、

俊方

角太夫

○正徳二年壬辰七月八日誕生、母同前、

忠法

木工左衛門

○慶長十六年辛亥五月十四日誕生、

○忠晴有一女無男子、故嫁一女爲猶子、實者北

郷忠能家臣下田藤兵衛之二男也、

○貞享<sup>(享)</sup>三年丙寅二月十六日死、法名壽仙休孝、

女子

忠法妻、

○母北郷忠能家臣濱田藏之允女、

俊重

號丸田、初忠盈 十郎 軍右衛門

○寛永十六年己卯十月十日誕生、母忠晴女、

○正徳四年之夏受宗家之命、避伊集院氏復本氏

丸田、

俊彌

號丸田、初忠貞 小八 諸右衛門

○寛永十九年壬午四月二十七日誕生、母同前、

○受宗家之命與兄俊重俱復丸田、

俊夷

號丸田、初忠永 十郎 銀右衛門

○慶安二年己丑十一月十四日誕生、母同前、

○受宗家之命與兄俊重同復丸田、

女子

都之城家臣山内刑部左衛門義言妻、

○母同前、

女子

都之城家臣野崎角左衛門重治妻、

○母都之城家臣中原吉左衛門重次女、

俊峰

初久武 虎介 木工左衛門

○延寶元年癸丑十一月十九日誕生、母日州財

部土蛭牟田新右衛門女、

俊知

初久林 主殿 休右衛門

○延寶四年丙辰十二月十九日誕生、母同前、

俊庸

孫太郎

○寶永五年戊子六月七日誕生、母都之城家臣

高田金右衛門女、

女子

○母都之城家臣秋永喜兵衛女、

俊封

小八郎

○寶永元年甲申七月十九日誕生、母同前、

俊甫

虎助

○正徳元年辛卯八月十三日誕生、母同前、

久記

軍之丞 軍兵衛

○寛文十年庚戌十月朔日誕生、母都之城家臣早田喜右衛門重成女、

○正徳元年辛卯七月十六日死、法名如翁常眞居士、

女子

○母都之城家臣長峰九兵衛正征女、

女子

○母同前、

俊員

號丸田、初久年 軍平

○寶永四年丁亥九月十一日誕生、母同前、

○正徳四年之夏、受宗家之命避伊集院氏復本氏丸

田、

周防介

對馬介

郷右衛門

○始仕于伊集院右衛門太夫忠棟入道幸侃、而后與伊集院新右衛門相共到日州佐土原而仕于島津右馬頭以久也、

忠仍

強刀 小四郎 内膳

○文祿三年甲午五月二日誕生、母志布志大慈寺住

持龍雲之妹、

○住于佐土原之際、有故而移志布志以住居焉年久

矣、

○明曆四年即萬治元年也戊戌三月九日死、法名心岳宗空、

忠幸

小太郎 角左衛門

○寬永七年庚午七月十八日誕生、母日州福島士日高六郎左衛門女、

○寬永年間、父忠仍攜嫡子忠幸辭去志布志歸住佐土原之時、次子忠意者爲海東氏後嗣而住于莊內都之城、

○寬文九年己酉六月三日死、法名無我玄正、

忠意

小五郎 仲右衛門

○寬永十年癸酉二月二十日誕生、母同前、

○寬永年間父忠仍及兄忠幸去志布志歸住佐土原之時、忠意婚合都之城海東金左衛門貞安女而相續其家、住都之城而後讓海東家於二男貞模、忠意復本氏伊集院也、

○寶永二年乙酉正月二十三日死、法名燈外雄傳居士、

俊溫

號丸田、初久景 權六 右馬之丞 伊助

○明曆三年丁酉五月十一日誕生、母都之城家臣海東金左衛門貞安女、

○正德四年之夏、受宗家之命避伊集院氏復本氏丸田、

貞模

金左衛門

○萬治二年己亥十二月二十七日誕生、母同前、

○爲都之城家臣海東金左衛門貞安之後嗣、

俊興

初久利 傳兵衛 後爲山伏號長順坊、

○寬文四年甲辰四月二日誕生、母同前、

○受宗家之命、與兄俊溫同復本氏丸田、

俊登

初久金 源太郎 三助

○延寶五年丁巳十二月十四日誕生、母同前、

○受宗家之命與兄俊溫同復本氏丸田、

俊富

初久寬 德千代

○元祿十五年壬午六月二十二日誕生、母都之

城家臣角地甚右衛門義次女、

女子

○母同前、

俊鋪

初久連 又久福 休次郎

○元祿十年丁丑十二月二十七日誕生、母都之城

家臣島田重兵衛宗真女、

女子

○母同前、夭亡、

俊寧

休吉郎

○正德元年辛卯七月二十三日誕生、母同前、

女子

都之城家臣大峯平左衛門兼救妻、

○母都之城家臣松山五兵衛篤辰女、

俊經

初久長 郷右衛門

○天和二年壬戌九月七日誕生、母同前、

女子

○母都之城家臣山下萬助義陣女、

俊興

善七郎

○寶永四年丁亥七月二十日誕生、母都之城家臣藤

井金兵衛氏次女、

小次郎

○母長友佐次右衛門女、早世、

小兵衛

○母同前、早世、

女子

長友三郎兵衛妻、

○母同前、

珍澄

初久陣 千太郎 半之介 直右衛門

○寛文八年戊申六月十九日誕生、母同前、

○日州佐土原士也、

○正徳三年惟久下 太守吉貴公之命曰、於久陳家避

久忠兩字以其先祖所用之字可爲實名之字、故改珍

澄、

久金

助次郎 周防介

久遠

助次郎

久純

小四郎 周防介

忠次

若狹守

○於筑後州田尻戰死、法名西風道秋、

久俊

右馬助

○子孫隅州財部士也、

○法名光阿彌陀佛、

久親

又兵衛 備後

○母梁瀨某女、

○承應三年甲午十二月十三日死、法名乾峯宗金居士、

女子

隅州福山土谷山采女忠重妻、○母他腹、

忠俊

長三郎 吉左衛門

○慶長十二年丁未二月十六日誕生、母財部士山口

肥前重長女、

○延寶三年壬寅正月二十日死、法名春山宗永居士、

久實

松右衛門

○寛永元年甲子二月十日誕生、

○忠俊初依無實子以久實爲養子、實財部士立元助

左衛門政次之二男也、

○天和三年癸亥十一月二十九日死、法名湖月宗江

居士、

俊朋

初久知 又久近 平吉 吉左衛門

○寛永十九年壬午八月六日誕生、母鹿兒島土岩

切六右衛門家臣湯淺慶右衛門重貞女、

俊惟

初久矩 萬吉 吉兵衛

○慶安二年己丑十二月十七日誕生、母同前、

女子

財部士武田藤兵衛光舍妻、

○母財部士小牟田惣右衛門女、

○父忠俊初依無子令久實繼家統而後出生、故

久近以下三子爲久實之弟、

女子

財部士精松十郎右衛門義儀妻、

○母財部士井口甚右衛門幸由女、

女子

財部士白坂清十郎篤徳妻、

○母同前、

俊恆

初久道 長七

○元祿四年辛未九月十七日誕生、母同前、

俊見

吉之丞

○元祿十三年庚辰二月十日誕生、母同前、

俊存

長次郎

○正徳三年癸巳閏五月二十六日誕生、母財部士

精松權平義彦女、

俊清

初久記 右馬介 長右衛門 覺右衛門

○寛文六年丙午九月十六日誕生、母財部士堀内

和泉良信女、

女子

財部士藤田傳右衛門行在妻、

○母同前、

俊將

初久寶 長三郎 休右衛門

○延寶元年癸丑八月十九日誕生、母同前、

俊賢

初久敬 吉右衛門

○延寶七年己未正月四日誕生、母同前、

俊親

六左衛門

○寶永二年乙酉正月二日誕生、母財部士川添

新兵衛武平女、

女子



○母同前、

俊信

五右衛門

○寶永二年乙酉五月二十一日誕生、母財士東郷

八右衛門重安女、

俊門

八兵衛

○寶永七年庚寅十一月二十日誕生、母同前、

俊陽

初久富 平吉

○元祿六年癸酉九月二十三日誕生、母財部士立元

太郎右衛門政盛女、

女子

財部士前山分右衛門國軀妻、

○母都之城家臣入來吉左衛門頼房女、

俊愛

初久頼 助左衛門

○明曆二年丙申三月二十四日誕生、母同前、

俊賀

初久善 萬左衛門

○寛文二年壬寅四月二十八日誕生、母同前、

俊則

松右衛門

○元祿五年壬申十二月二十三日誕生、母隅州末吉

士若松新兵衛女、

俊相

助之進

○元祿九年丙子七月十九日誕生、母同前、

女子

○母同前、

俊在

初久起 爲兵衛 爲左衛門

○延寶六年戊午十一月二十九日誕生、母財部士神田橋彌左衛門助茂女、

俊厚

初久屋 權右衛門 治左衛門

○貞享元年甲子三月朔日誕生、母同前、

女子

○母同前、

女子

○母財部士横山松右衛門良知女、

俊増

惣左衛門

○正徳三年癸巳四月二十八日誕生、母同前、

俊益

初久通 喜右衛門

○元祿十四年辛巳六月二十二日誕生、母財部士白坂六左衛門篤當女、

俊易

初久敦 助市

○寶永三年丙戌十二月二十二日誕生、母同前、

女子

○母同前、

女子

小杉丹後妻、

忠次

半五郎

○石田治部少輔三成匪當背

家康公、且催關西之諸侯赴關東欲退治 惟新尊君、不得已而令應其催、于時忠次有供奉之列、於濃州

69 『正文在當家』

關之原戰場致軍勞之際、關西軍忽敗而雖曰諸將貴賤分散、惟新君無周章之氣向大敵令切通、掃除數個國通路逆徒退去于泉州住吉矣、自戰場至途中忠次不遠 君邊專致忠功、而後自攝州大坂各乘舟船欲至薩摩州之路、於豐前之海程會警衛軍船之難過遂戰死矣、雖然不虛以前功勞、賜感牘及百石之新恩地、 尊書記左、

○今度美濃國關か原之合戰致粉骨、從其伊勢・近江・伊賀・大和・河内・和泉ニ到リ歸國路次傳、片時茂不相離側抽奉公之段、神妙之至、尤感入候、仍知行佰石宛行者也、

慶長五

拾月十日

(養弘) 惟新 ○ (印)

伊集院半五郎殿 (忠次)

(本文書ハ「旧記雜錄後編」二、一三三、五五文書ト同文ナリ)

○法名花翁清春、

忠助

新五郎 五郎左衛門

○母川上日向久政女、

○忠次無男子戰死以故爲後嗣、實川上瀨兵衛久通之  
三男也、

○慶安元年戊子六月三日死、年五十三、法名日宗青

白、

女子

梁瀨二左衛門賴實妻、

○母谷山平左衛門忠相女、

忠船

仙千代 正次郎 正右衛門 若右衛門

○元和七年辛酉十月二十三日誕生、母同前、

○元祿四年辛未六月五日死、年七十一、法名孝自玄

忠、

忠郎

長壽 長次郎

○寬永二年乙丑二月十日誕生、母同前、

○川上彦十郎久次之後嗣、

女子

○母吉井平右衛門友親女、早世、

俊賢

初忠弘 松千代 久馬之助 半五郎 半五左衛門

門 若右衛門

○寬文五年乙巳十二月十七日誕生、母村田太右衛門

秀經女、

○此家至于初及家督等之時奉獻御太刀、且勤小番、是家格也、

忠英

久馬之助

○貞享二年乙丑十一月二十八日誕生、母村田五郎左

衛門經貞女、

○元祿十四年辛巳九月二十五日早世、年十七、法名

慧寂了玄、

伊集院助左衛門尉秀久一流系圖

秀久

號伊集院、初久安 助左衛門尉

○丸田家二代下野守久國三男也、

久定

三郎五郎

忠秀

彌太郎

○子孫彌寢家之臣而在薩州吉利、

久武

肥後

久兼

彌左衛門

○於筑紫岩屋戰死、

久城

傳右衛門

女子

彌寢家之臣田代兵右衛門妻、

忠康

主計 覺左衛門

○天正十三年乙酉八月十五日誕生、

○寛文七年丁未三月五日死、年八十三、法名投岳傳

林、

久長

休六 彌七左衛門

○慶長十八年癸丑誕生、母彌寢家之臣牧佐渡胤量女、

○元祿四年辛未八月三日死、年七十九、法名喜雲宗

悦、

久行

休吉 周右衛門

○元和四年戊午誕生、母同前、

○承應三年甲午正月十九日死、法名明圓淨晟、

女子

薩州日置之家臣川崎孫右衛門良連妻、

○母同前、

俊房

號丸田、初久任 爲山伏号慶圓坊、

○慶安四年辛卯三月九日誕生、母川上上野久運家  
臣篠原佐左衛門政尙女、

○受宗家之命、避伊集院復本氏丸田、

俊昌

初久尙 休五郎 慶兵衛 休四郎

○貞享二年乙丑五月朔日誕生、母禰寢家臣吉信彌藏

安昌女、

俊滿

初忠義 藤内 圓右衛門

○元祿元年戊辰三月十五日誕生、母同前、

女子

禰寢家之臣中村治兵衛義智妻、○母同前、

女子

鹿兒島士田代納右衛門清供妻、○母同前、

女子

○母薩州日置之家臣黒木龍右衛門重方女、

女子

禰寢家之臣角右衛門重常妻、○母同前、

忠眞

長次郎 覺左衛門

○慶安五年壬辰即承應元年也十一月朔日誕生、母同前、

○忠眞壯年後附屬當家于二男休次郎忠通、摺嫡男長

次郎忠次而、相續禰寢家之臣西本七郎左衛門清元

之躡矣、

女子

島津内記久貫家臣高崎六兵衛安能妻、

○母禰寢家之臣打越用右衛門房勝女、

忠次

長次郎 五郎左衛門

○天和三年癸亥十一月朔日誕生、母同前、從父忠眞

爲西本氏、

俊長

號丸田、初忠通 休次郎 覺右衛門 金左衛門

○貞亨<sup>(享)</sup>五年戊辰<sup>即元祿元年也</sup>八月二十四日誕生、母同前、

○父忠眞及兄忠次爲西本氏之故相續當家、

○受宗家之命、避伊集院氏復本氏丸田、

丸田助八左衛門久村一流系圖

久村

助八左衛門

○丸田家七代民部左衛門忠安之二男也、

忠吉

四郎左衛門

久行

丹後

女子二人

忠成

主水左衛門

忠瀨

助八郎 越中 千兵衛

○子孫在日州飯野及都之城、

○法名雲山常清、

忠重

彌兵衛 ○飯野士也、

○承應元年壬辰十一月十七日死、法名道貫、

忠通

休右衛門 ○飯野士也、

○文祿元年壬辰誕生、

○延寶四年丙辰四月六日死、法名孝翁全忠、

忠次

助左衛門

○承應元年壬辰十月二十一日死、法名關翁淨

三、

女子

飯野士伊地知伊兵衛重次妻、

女子

飯野士加藤益右衛門利次妻、

忠利

千代太郎 喜右衛門

○正保二年乙酉誕生、母飯野士加藤九郎兵衛

利次女、

○寶永四年丁亥四月十日死、法名團山宗貴、

忠次

五左衛門

○慶安元年戊子五月誕生、母同前、

○飯野士加藤益右衛門利次之養子、

俊郷

初忠郷 休太郎 十郎右衛門

○寛文五年乙巳十月二十八日誕生、母日州加

久藤士大門左近景國女、

忠代

吉次郎 休右衛門

○寛文八年戊申誕生、母同前、

○寶永二年乙酉十月二十九日死、法名霜林

風清、

俊世

初忠毘 喜角 藏助 喜左衛門

○延寶二年甲寅五月三日誕生、母同前、

俊賢

千助

○寶永六年己丑五月五日誕生、母飯野杜家



之女也、

俊時

初忠刑 休太郎

○元祿四年辛未十一月二日誕生、母飯野士松形次兵衛女、

俊方

初忠堯 次太夫

○元祿十年丁丑十一月九日誕生、母同前、

女子

加久藤士澁江正左衛門公固妻、

○母飯野士宮原勝介女、

女子

日州馬關田士境田五兵衛通貫妻、

○母同前、

俊盈

正次郎

○寶永五年戊子八月朔日誕生、母同前、

忠廣

助八郎 千兵衛

○慶長十八年癸丑誕生、母薩州中郷士吉留善内女、

女子

飯野士有馬采女妻、○母同前、

女子

○母加久藤士岩崎佐助女、

俊門

初忠助 仙千代 慶左衛門

○寬永十八年辛巳四月誕生、母同前、

○忠助初依宗旨之罪雖爲凡下、其後寶永四年蒙

恩免如元爲飯野士、

俊陽

初忠宣 三郎 助八郎 城清 城秀 城

信

○慶安元年戊子十二月二十七日誕生、母同前、

○自少年爲警者、貞享元年甲子十月爲北郷忠

智之家臣而住都之城、

俊村

初忠陣 中久明 松太郎 千兵衛 孝左

衛門

○天和三年癸亥閏五月十七日誕生、母薩州出

水土濱田七兵衛綱秀女、

千之助

夭亡、○母同前、

女子

島津圖書久方家臣濱崎元宅義智妻、

○母同前、

千代松

夭亡、○母同前、

女子

○母島津周防久儔家臣島田與七左衛門親明女、

俊昌

初忠近 仙千代 彌左衛門 千兵衛

○寛文九年己酉四月十六日誕生、母島津圖書久方

家臣吉國權兵衛女、

俊房

初忠強 乙助 千左衛門

○延寶元年癸丑六月十日誕生、母同前、

俊意

初忠行 安左衛門

○延寶七年己未二月十六日誕生、母同前、

女子

早世、母同前、

俊甫

彌兵衛

○寶永元年甲申二月十五日誕生、

女子

女子

女子

忠記

喜右衛門

○承應二年癸巳十二月二十二日死、法名賀翁常慶、

忠往

長吉 新右衛門

○寬永二年乙丑九月十五日誕生、母田布施士小田

原氏女、

○此代爲奧附足輕、

○正徳二年壬辰六月二十四日死、法名潔岑宗皎、

女子

初爲奧附足輕隈本太郎左衛門之妻、而后嫁鹿兒

島士丸田善内俊相、

女子

鹿兒島士南郷郷七俊信妻、

俊辰

初忠爲 兵左衛門 喜左衛門 九根平

○延寶五年丁巳五月八日誕生、母忠征之嫡女、

○忠征之嫡女初嫁奧附足輕隈本太郎左衛門而出生

於俊辰、其後忠征無嗣子以故爲養子、實隈本太

郎左衛門之子也、

俊次

新左衛門

○寶永三年丙戌十二月六日誕生、母隅州櫻島土片野

坂兵左衛門女、

○正德四年甲午三月三日死、法名心玄步禪、

女子

○母同前、

忠元

長門介

○忠元者雖爲隅州栗野士、子孫傳左衛門依罪科被遠

流大島、而於彼地死、無實子斷絕也、

忠近

筑後介

忠易

藤左衛門 ○法名道圓、

○子孫日州加久藤士也、

女子

忠晴

與市左衛門 ○法名宗岳、

忠秀

藤左衛門 ○法名淨閑、

與市兵衛

○爲加久藤士上野氏之猶子、

忠共

藤兵衛

○忠共依宗旨之罪雖爲凡下、到老年蒙赦免如元爲

加久藤士、

○元祿九年丙子二月五日死、法名松巖壽屋、

俊盈

初忠翁 彌七 與市左衛門 彌七郎

○正保三年丙戌九月九日誕生、母妾、

俊商

初忠次 藤左衛門 善兵衛

○承應元年壬辰五月朔日誕生、母同前、

○初為加久藤士兒玉清左衛門之養子、時清左衛

門依犯罪沒收兒玉家、藤左衛門亦因養父之科

雖被配流德之島、其後蒙恩許如元為忠共之二

男也、

女子

○母同前、

俊常

千太郎 藤右衛門

○延寶四年丙辰五月朔日誕生、母妾、

孫左衛門

○天和元年辛酉七月十五日誕生、母同前、

○為加久藤士楠田五兵衛之養子、

俊意

長左衛門 藤兵衛

○貞亨四年丁卯四月十九日誕生、母同前、

女子

加久藤士赤川兵左衛門妻、

○母同前、

俊芳

千吉 金兵衛

○元祿十三年庚辰九月十二日誕生、母日州馬關田

土境田長助女、

女子

○母同前、

女子

加久藤士江平清右衛門妻、○母妾、

女子

加久藤士森主稅妻、

忠洪

彌市 慶左衛門

○寬永三年丙寅誕生、

○寶永七年庚寅十月二十五日死、法名天山眞龍、

金右衛門

○爲加久藤士山口次郎左衛門之養子、

女子

六兵衛俊武妻、

俊武

初忠門 源十郎 六兵衛

○寬永二十年癸未十月二十七日誕生、母加久藤士井

上孫左衛門女、

○忠洪有一女無男子故嫁一女以爲養子、實加久藤士

井上六右衛門良業之二男也、

女子

飯野士有川八右衛門貞典妻、

○母忠洪女、

俊益

初忠榮 次郎左衛門 新兵衛

○延寶四年丙辰正月十四日誕生、母加久藤士石塚民

部左衛門女、

○俊武依無嗣子爲養子、實加久藤士宮路安右衛門之

二男也、

女子

○母薩州羽月士中野七郎右衛門安平女、

俊方

二郎左衛門

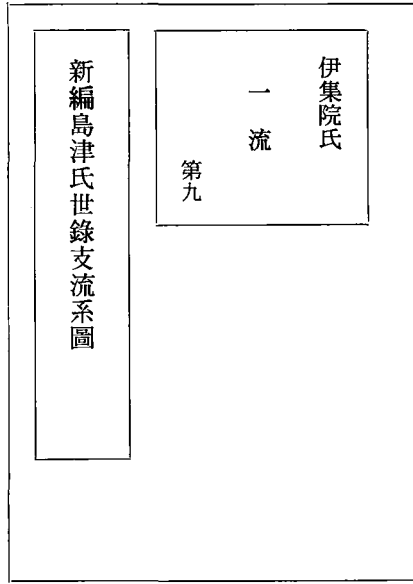
○元祿十六年癸未八月二十日誕生、母同前、

俊清

六左衛門

○寶永三年丙戌四月十九日誕生、母同前、

(表紙)



伊集院氏支流繼久系圖

繼久

三郎左衛門尉 上野介

○伊集院彈正少弼賴久六代家督三男也、

延久

三郎左衛門 石見守

○一節爲薩州家臣再歸參也、

久稔

源六 右馬助 上野介

○子孫日州大崎士也、

久實

加賀守

○子孫記左、

忠諒

參河守

○於大始良生害、

○子孫記左、

久敦

五兵衛尉 上野介

忠康



五兵衛尉

忠元

源之丞

忠成

源之丞

○無子孫、

久行

左近 五兵衛

久孝

五兵衛

○寛文五年乙巳八月五日死、法名一超是心居士、

久陳

少左衛門

○萬治元年戊戌誕生、母大崎士藥丸本覺坊兼吉女、

○久孝無實子故爲猶子、實大崎士中島少右衛門利光

之二男也、

○正德二年壬辰六月二日死、法名月山宗心居士、

俊盈

初久盈 少吉 五兵衛 多太右衛門

○元祿五年壬申二月二十五日誕生、母大崎士廻田四

右衛門祐安女、

○正德三年之夏、受家嫡藏人久矩之令、當家之實名

自今以后避久忠字改俊字、庶族皆同之、

伊集院加賀守久實一流系圖

久實

加賀守

○繼久家二代石見守延久之二男也、

久信

加賀守

久近

內藏人頭

○寬永十三年丙子九月十五日死、法名權大僧都道仙

法印、

久尙

兵右衛門

○子孫日州大崎士也、

久供

加賀右衛門 兵右衛門

○寶永五年戊子十月十四日死、法名洞雲快龍居士、

忠政

加賀右衛門

○寬永四年丁卯誕生、母日州吉田士志摩助右衛門

道之女、

○久供無世子故爲猶子、實大崎士檀山大貳坊朝弘

之二男也、

○元祿二年己巳十二月六日死、法名清雲玄心居士、

俊村

初久秀 又久富 萬左衛門 喜左衛門

○寬文二年壬寅三月十三日誕生、母大崎士蒲生縫

殿清長女、

俊福

初久氏 加藤 喜兵衛

○寬文六年丙午十二月二十二日誕生、母同前、

女子

大崎士池田治右衛門重慶妻、

○母同前、

俊峯

藤吉

○元祿九年丙子八月二十四日誕生、母大崎士二見  
半左衛門安利女、

俊爲

初久清 萬左衛門 賀兵衛

○貞享四年丁卯三月八日誕生、母隅州串良士小野田  
休右衛門實供女、

俊旭

初久實 十郎 喜角

○元祿三年庚午十月十三日誕生、母同前、

久友

戸右衛門 長右衛門

○慶長三年戊戌誕生、

珍左衛門

○延寶九年辛酉即天和元年也七月三日死、法名茂林秀繁居士、

○母野村新兵衛信綱女、

○爲外祖父野村新兵衛信綱之養子、

全綱

犬千代 平左衛門

○元和七年辛酉誕生、母同前、

○兄珍左衛門死而無嗣以故相續野村家、

女子

面高蓮長院妻、

久康

孫十郎 休右衛門 長左衛門

○寛永十六年己卯正月六日誕生、母本田與左衛門公

親女、

○寶永七年庚寅二月七日死、法名格外道骨居士、

俊方

初久賢 又久富 久品 長松 權右衛門 甚七

賀左衛門

○寛文三年癸卯正月十九日誕生、母別府助右衛門景

鎮女、

○任御目附役即前吟味役也補隅州牛根之地頭職、

○此家至于初及家督等之時、奉獻御太刀、且勤小番矣、

盛央

初久行 又久盛 長三郎 長右衛門 權右衛門

門

○寛文八年戊申四月晦日誕生、母同前、

○轉任御近習役・御納戸奉行・御側目附等、且補

薩州久志秋目之地頭職、

○先是 太守吉貴公以久盛之實名賜之、雖然正德

三年秋應 命而伊集院家之氏族避久忠字賜實名

俊字、以故久盛奉訴之、以盛字爲實名改盛央、

女子

讚良權左衛門貞伴妻、

○母同前、

盛香

初久敦 長十郎

○元祿八年乙亥七月十三日誕生、母大田小平次久知

女、

○初奉拜謁 太守吉貴公、奉獻御太刀、

忠昶

平七

○母同前、

○爲大田小平次忠起之後嗣、

盛峯

賀藏 萬悅

○寶永二年乙酉二月二十四日誕生、母同前、

女子

肥後長左衛門盛房妻、

○母吉田傳右衛門清重女、

俊胤

初久達 又忠榮 孫十郎 長右衛門

○元祿四年辛未八月九日誕生、母同前、

○初奉謁 太守吉貴公、獻上御太刀、

俊辰

小七 孫右衛門

○元祿十年丁丑三月二十三日誕生、母同前、

伊集院三河守忠諒一流系圖

忠諒

三河守

○繼久家二代石見守延久之三男也、

○於大始良生害矣、

久春

市兵衛

○子孫爲喜入家之家臣住薩州鹿籠、

○寬文九年己酉十月五日死、法名中岩宗的、

久續

勝兵衛

○母喜入家家臣日高吉太爲賢女、

○寬文六年丙午十月二日死、法名秋月心客、

久延

城之助 龍右衛門

○母喜入家家臣迺田次郎右衛門女、

○寶永二年乙酉七月二十二日死、法名石泉道橋、

久次

清左衛門

○母同前、早世、

女子

○母同前、早世、

女子

○母喜入家家臣山本平右衛門女、早世、

女子

○母同前、早世、

俊名

號末野、初久繼 長千代 平十郎 勝兵衛

○延寶六年戊午十二月二十九日誕生、母同前、

○受家嫡藏人久矩之令、而避伊集院氏改末野、

俊猛

號末野、初久次 千代 五兵衛

○貞享三年丙寅八月二十九日誕生、母同前、

○與兄俊名同改末野、

女子

○母喜入家家臣天達曾兵衛女、

女子

○母同前、

伊集院氏支流掃部助忠之系圖

忠之

孫太郎 掃部助

○伊集院大和守忠倉之三男、

○由兄忠棟逆心 御誅伐後、憑外舅敷根備中頼兼蟄

居于舅領地市成、

○元和乙卯年死、法名輝山元光居士、

忠倍

孫次郎 早世、

○母敷根備中頼兼女、

忠兼

彌右衛門

○忠兼盲故不家督、

○伯父忠棟被誅后有恐、故忠兼及忠連措伊集院之家

號、私冒松下號、

○寛文十一年辛亥正月十八日死去、法名忠山伊庵居

士、

忠連

號松下、十左衛門 木工之助

○慶長八年癸卯五月十日誕生、母同前、

○延寶五年丁巳閏十二月十六日死、法名心月方圓居

士、

忠春

鏡善坊

○母市成大雄大明神社人鶴田伊豫重次女、

○寛文元年辛丑十一月十七日死、

忠芳

佐平次

○寛永十七年庚辰誕生、母同前、

○萬治三年庚子十一月七日蚤世、法名風林利霜居士、

忠益

十次郎

○正保三年丙戌誕生、母同前、

○兄兩人先父早世故相續父家、

○寛文十一年辛亥七月十七日死、法名久屋源昌居士、

女子

島津主水久輔家臣田中源七左衛門家慶妻、

○母同前、

俊春

初忠興 諸左衛門 ○島津主水久輔家臣、

○天和三年癸亥十月十三日誕生、母島津主水久輔家

臣松下木工之助忠連女、

○養子、實田中家慶二男、

○正德四年甲午十二月二十五日奉大宗家伊集院久矩  
示諭、措松下號末野、且改實名之字於俊、

俊盈

龜之丞

○寶永六年己丑六月十五日誕生、母牛根士二川助兵

衛正豐女、

女子

○母同前、

伊集院氏支流倍久系圖第十六

元祖  
倍久

孫六 大和守 法名道賀、

○伊集院彈正少弼賴久六代家督四男也、

忠公

大和守

忠朗

孫二郎 大和守 表德 號孤舟、

○日新公(忠良)・伯圃公(實久)・龍伯公共三代奉公第一之人也、

『正文在肝付半兵衛兼屋』

○ 契狀

一御屋形樣江對野心申間敷夏、

一申合候組中江從何方茂被取懸之時者、互一味同心

可申夏、

一雜說和讒之時者、互可申開事、

右此旨於僞申者、

奉始上者梵天帝尺四大天王、下者堅牢地神五道

冥官、殊者日本第一熊野三山大權現(777) 九州惣廟

彥三所權現 當國鎮守 正八幡大菩薩 霧嶋六



所權現等之御討可蒙罷事、不可有疑者也、

天文十九年八月十六日 忠明 (花押)

忠倉 (花押)

信隆 (花押)

肝付三郎五郎殿 (象感)

伊集院大和守忠明

伊集院掃部助忠倉

猿渡大炊助信隆

『上包』

肝付三郎五郎殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」二六四八号文書ト同文ナリ)

『正文在肝付半兵衛兼屋』

○ 尚々令申候、酒種々之肴、涯分致賞翫候、又

眞幸之御返事共如何候哉、使者之事者鹿兒嶋

之様通候へく候、是又必定之義候ハ、承候へ

く候、自求摩之書狀之返報ニ參せ候、心遣有

へく候、又求摩老中之返書之事、其方にて被

指調候て給候へ、半紙を參せ候、

昨日者從求广之書狀被遣候、一通者則披見申、如

其方之參せ候、今二者細々見申へく候、求摩之思

茂鹿兒嶋へ能く御相談肝要候、從勝軍處々文之返

夏ニ者、所領之懸引眞幸へ申候へ共、無然々儘横

川之事、菱刈ニ可被遣之御談合にて候由申へく候

キ、隨而者此方旅宿之躰、以御校量、近來之堺酒

預送候、夕日從府中罷歸候て、旁々參會、涯分致

賞翫候、諸篇重而可申承候、恐々謹言、

七月廿四日

孤舟 (花押) (忠明)

『上書』

伊集院入道

✓

肝付 (彈カ) 正忠殿

御宿所

孤舟齋

(本文書ハ「旧記雜錄後編一」二二二一号文書ト同文ナリ)

忠胤

又七郎 周防介 法名溪月宗江、

忠次

又七郎

○於伊集院竹山戰死、

女子

忠辰

八郎 法名玄昌、號久峯、

久宣

彌六 美作守

○以武勇鳴于世、遂於

忠許

彌七 吉右衛門尉

豐後高田戰死矣、

彌六 守右衛門尉

年五十八、法名常見、號桃岳、

忠親

新二郎 宮内左衛門尉

○久成依無世子爲猶子矣、實吉右衛門忠許子

也、

女子

島津玄蕃久典家臣坂田吉左衛門惟榮妻、

忠成

慶兵衛尉 入道養心、

○元和八年壬戌誕生、母伊集院助右衛門尉忠

春女、

○忠成由 公命渡德島勤務三年、吏滿還、明

曆二年丙申七月二日、於洋中遭風波難覆船

而死、法名法山養心居士、

女子

鹿兒島之士伊地知治助重廣妻、

女子

○母鹿兒島之士有川五左衛門貞能女、

忠繼

大助 甚兵衛

○明曆元年乙未十月朔日誕生、母鹿兒島之士上井仲左衛門供兼女、

○貞享二年乙丑六月七日病死於武州江戸、享年三十一、法名實學宗法居士、

俊村

初忠致 仙千代 重助

○寛永九年壬申七月十四日誕生、母鹿兒島之士伊集院助右衛門忠春女、

○忠成死而忠繼孤幼也、故俊村蒙 太守光久公之恩免、嫁忠成之寡婦忠繼成長之間勤番代、實鹿兒島之士矢野大右衛門秀尙之三男也、

久保

○父忠成爲德島代官在彼地之際、所生之子也、

○元祿五年夏始來于覺府、馮甚助忠政而奉

訴、爲忠政之弟奉仕覺府、

○太守公未蒙恩免歸島、不幸元祿七年甲戌七月七日卒、年三十九、法名越心了宗居士、

俊武

初忠政 德松 甚助

○萬治元年戊戌十一月四日誕生、與兄忠繼異父同母也、

秀紀

三次郎 新右衛門

○寛文五年乙巳二月三日誕生、母兄俊武同前、○爲矢野清右衛門秀貞之嗣子、

俊武

甚助

○兄忠繼沒無子、故俊武元祿二年閏正月十一

日蒙 太守綱貴公之恩許相續忠繼之家、  
○正德三年大宗家久矩奉 公命傳曰、於庶子  
家之實名避久忠之兩字可用俊字、因改俊武、

女子

家村彥兵衛重年妻、

○母垂水之家臣肥後彌兵衛女、

俊芳

(A)

初忠公 仙千代 重右衛門

○元祿五年壬申七月十四日誕生、母相良五郎左

衛門長家女、

忠親

新二郎

○叔父久成之爲猶子、

忠昭

72

九郎 宮内少輔

忠綱

三郎兵衛尉

忠春

九郎 助右衛門尉

『正文在伊集院宮内少輔』

○今度此表兵船浮出、通用難成故、他之手之船一  
艘も無渡海候處、各被拋身命、被遂參陣候儀、  
甚深被思召御感候、依其忠節知行拾石可被宛行  
旨被仰出候、仍狀如件、

比志嶋紀伊守

慶長貳年二月廿九日

國貞(花押)

伊集院下野入道

抱節(久造花押)

伊集院九郎殿  
(忠春)

(本文書ハ「旧記雜録後編三」二〇五号文書ト同文ナリ)

忠次 (ヤ)

勝八

○黑葛原讚岐守依無世子爲後嗣矣、

○慶長五年於濃州關之原遂戰死矣、年二十一也、

忠重

長二郎 筑後守

○兄忠次戰亡無繼子以故爲後嗣也、

女子

女子

伊集院宮内左衛門忠親妻、

忠房

九郎

○慶長五年庚子誕生、

○寛永九年壬申八月十日死、享年三十三、法名露

庵全白居士、

忠清

惡之助 周右衛門

○慶長八年癸卯八月二十六日誕生、

○黑葛原筑後守忠重依無繼子爲彼後嗣也、

女子

谷山九兵衛忠森妻、

女子

矢野大右衛門秀尙妻、

政則

長千代

○慶長十八年癸丑誕生、

○鎌田權右衛門政慶依無世子爲養子也、

忠鎮

始忠清 犬四郎 宮内少輔

○元和七年辛酉八月八日誕生、母花田助左衛門行

勝女、

○補隅州溝邊・財部・内之浦・日州穆佐等地頭職  
矣、

○勤吟味役、

○元祿元年戊辰十一月晦日死、享年六十八、法名  
吟月江村居士、

忠則

與八郎 有右衛門

○寬永三年丙寅八月十二日誕生、母同前、

○寬文七年丁未八月晦日死、享年四十二、法名

堅榮元固居士、

女子

俊村妻、

○萬治元年戊戌七月四日誕生、母長倉兵右衛門祐

秀女、

○享保元年丙申八月十一日死、享年五十九、法名

月山妙高大姉、

忠次

松千代 早世、

俊村

初忠意 新六 吉兵衛 有右衛門

○承應三年甲午三月二十五日誕生、母關次郎右

衛門義房女、

○忠則無繼子故俊村嫁忠則一女爲後嗣、實永田

佐左衛門良長二男也、

忠次

新五郎 早世、

○母忠則女、

俊峰

初忠知 長命坊 軍八 九右衛門

○延寶八年庚申正月九日誕生、母同前、

女子

忠重

伴七

○元祿三年庚午二月十九日誕生、母同前、

○同十三年庚辰八月十九日死、法名幻相泡如居士、

士、

忠喜

小四郎

○元祿五年壬申七月二十三日誕生、母同前、

○寶永七年庚寅八月五日死、法名實安英真居士、

女子

女子

母鎌田權右衛門政春女、

俊爲

與八

○寬永三年丙戌十一月五日誕生、母同前、

俊次

長熊

○正德四年甲午五月二十九日誕生、母同前、

虎助

早世、

○母市來早右衛門家豐女、

女子二人

早世、

○母同前、

女子

川上五郎左衛門忠諸妻、

○母同前、

忠親

初忠竹 萬千代 助右衛門

○承應三年甲午八月七日誕生、母汾陽正右衛門光

昌女也、

○貞享二年乙丑七月三日死、享年三十二、法名光

雲玄智居士、

女子

日州高岡士毛利八左衛門元明妻、

○母同前、

俊裔

初忠春 忠雄 千松 八郎右衛門

○寛文三年癸卯十一月十二日誕生、母同前、

○兄忠親死其子忠通幼雅也、故忠雄勤家督代有年

于姪、

俊長

初忠通 忠登 忠代 與十郎 十助 四郎兵

衛 善太夫

○延寶五年丁巳六月十八日誕生、母谷山平左衛門

忠宣女、

○此家至初及家督等之時奉獻御太刀、且勤小番、是家格也、

女子

矢野次五右衛門秀勝妻、

○母同前、

女子

女子

早世、

○母同前、

女子

○母同前、

忠倉

大和守

忠棟

初忠金 源太 右衛門太夫



『案文在加治木榮長谷場傳左衛門』

○厥表御立柄無篇目候之哉、承度候、拙子茂依社役相懸儀頃歸宅候、於諸方角行者、聊不可存油斷候、倍可廻賢才事不申及候、仍去春以來到中國爲使僧眞蓮房被指登候、然者歸國餘遲怠無心元故、御方迄若輩申付候、乍御苦勞隣邦之儀候之条、關戶邊之様子被聞食償、御注進所庶幾候、恐々謹言、

六月二日

(伊集院) 忠棟

秋月殿

御宿所

『裏在之』

八城より使僧被仰付

『上書在之』

天正十四年

秋月殿江

忠棟之案文

(本文書ハ「旧記雜録後編二」一三三七号文書ト同文ナリ)

『正文有之』

○應用一書候、仍内々雖爲承候、且者遠方故、且者

題目依無之申後候、心外至極候、自今以後、倍可御留意覺悟候、御同意所仰候、隨而箸鷹一連大望存候、被懸御意候者、可目出候、猶委曲彼者可相達候之条、不能一二候、恐々謹言、

六月廿日

信昌(花押)

伊集院殿參

御宿所

『上包』

伊集院殿參

御宿所

鍋嶋飛彈守

信昌

(本文書ハ「旧記雜録附録二」二一八四号文書ト同文ナリ)

『正文在蒲生飛山田孫兵衛』

○遙申隔候事、本意外候、乍去貴國當隔心之故如此候、於心緒者聊無疎義候、仍今度七嶋舟被差下候、以其次、自其許御頼之屏風・扇子令進獻候、尤然々以使節可渡進之處、前如申、當時霍執之故、態不能其儀候、自然者聊尔於取沙汰共候者、無疎

意之段、於禁中も可被達事憑存候、彼屏風事、狩野法眼私宅へ拙子令參入口達候、無其隱候、彼是能御取合所仰候、余者期後音之時、恐惶謹言、

八月廿四日

(伊集院) 忠棟(花押)

圓覺寺

參衣鉢閣下

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」一一八五号文書ト同文ナリ)

『寫』

○爲音信、紅糸廿斤到來候、遠路志悅思召候、猶石

田治部少輔可申候也、

〔天正年間〕

十二月十八日

御朱印

伊住院右衛門大夫

(集) (忠棟) 五

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」一一八六号文書ト同文ナリ)

○慶長四年己亥三月九日於城州伏見、爲 太守忠恆

主所誅戮也、法諱幸侃別號諸宗、

義智

式部少輔

○連續比志島某之家矣、

掃部助

忠眞

源二郎

○慶長四年三月九日老父凡誅之後、據莊內背 太守、

翌年三月和諧之有媒价 太守之降旗下、則見居於

隅州帖佐矣、

○慶長七年壬寅 太守忠恆主赴京師之路、有留滯日

州野尻、丁此之時以忠眞之隱謀露顯難宥、八月十

七日所誅於彼地、

小傳次

○依與忠眞隱謀同日斬隅州濱市也、

三郎五郎

○肝付彈正依無世子爲猶子、

○依兄之罪同日斬薩州谷山中村矣、

千次

○與三郎五郎俱於同所斬也、

女子二人

女子

松平隱岐守定行簾中、

伊集院氏支流忠俊系圖

忠俊

初陪久 彦三郎 右衛門

○伊集院彈正少弼賴久六代家督五男也、

忠次

彦三郎 右衛門

○肝付河內守兼續入道名省鈞娶 日新公之長女、丁其行嫁

之時爲供奉之役、在兼續之家中矣、

○兼續背 太守構矛楯漸迫沒落之時、忠次亦所以沒落也、

忠包

右衛門

忠利

宮內左衛門 淡路

賴賢

○右衛門沒落之故、遂出家而住霧島林泉坊、

久就

壹岐

○住薩州市來、子孫在夫地、

○忠利之子孫遂出家其跡斷絕、由是賴賢謂于伊集院

筑前守忠能曰、有忠利之系圖、請與久就爲後嗣者

再三而後許諾焉、以故連續忠利之跡者也、實丸田

和泉守之子也、

○七月十一日不傳死、年六十九、法名虛通玄仲居士、

忠次

淡路

○雖爲忠利之實子、先是脫于系圖、以茲家嫡藏人

久矩詮議而實子無紛、以故爲久就之弟者也、

○子孫爲霧島山寺家之徒從在彼地、

女子

忠次

茂八

出家

忠次

猪之助

男子

早世、

俊峯

初忠峯 伊右衛門

○正德四年之春至寺門前之輩、削除御家氏族之家號

法制也、以故當家之一流自今以後除伊集院號、

俊重

茂八

女子

女子

仲左衛門久元妻、

○爲久就之養女、實薩州伊集院土濱田內膳女也、

久元

仲左衛門

○久就無實子故嫁養女而爲猶子、雖然後違變復本氏、

實薩州谷山土藪田八左衛門長秀之二男也、

久武

千代壽 覺太夫

○萬治元年戊戌二月二十四日誕生、母久就之養女也、

○爲吉左衛門久好之養子、

久好

彌市郎 吉左衛門

○寬永十一年甲戌八月晦日誕生、

○初久元雖爲當家養子違變、以故相續久就之跡、實

薩州伊作土富山藤兵衛義元之二男也、

○元祿十六年癸未十二月十日死、法名醫覺淨心居士、

俊方

初久武 千代壽 覺太夫

○萬治元年戊戌二月二十四日誕生、母久就之養女、

○實仲左衛門久元之子也、久元初爲久就之智猶子、

其中誕生於久武、雖然久元辭當家而復本氏園田、

依之以久好爲久就之嗣子、而久好雖有男子、以件

由緒令久武繼當家矣、

○正德三年之夏受家嫡藏人久矩之令、當家之實名自

今以後避久忠字改俊字、庶族同之、

女子

鹿兒島土益山八郎左衛門妻、

○母市來土山本七郎兵衛女、

女子

市來土山本仙右衛門綱益妻、○母同前、

俊當

初久年 又久當 吉次 民部左衛門

○延寶五年丁丑十二月六日誕生、母同前、

俊富

初久通 覺之進 覺右衛門

○元祿二年己巳五月七日誕生、母市來土弓削喜右衛

門則重女、

久次

千代次 喜兵衛

○元祿六年癸酉八月十八日誕生、母同前、

○爲市來土永山覺右衛門之養子、

俊長

仲八

○元祿十一年戊寅九月三日誕生、母同前、

女子

○母同前、

伊集院家庶流

伊集院次郎右衛門辰久一流系圖

辰久

孫二郎 次郎右衛門尉

○居住薩州牛屎院、

○伊集院家八代之家嫡大隅守經久之三男而、九代大

隅守經久之次弟也、

忠倚

讚岐守

○法號松屋道秀禪定門、

忠隆

攝津介

○忠隆之子孫薩州之家臣而、爲隅州小根占士、

○子孫記別紙、

忠隣

左馬助

○法號隆岳英茂上座、

忠房

左馬助

○法號華陰源盛上座、

忠鎮

源左衛門

○忠鎮者 太守義久公之家臣伊集院右衛門太夫忠棟  
入道幸侃之家老也、

○文祿元年壬辰十月二十七日死、法號仙岳如眞庵主、

忠利

源之亮 新右衛門

○天文二十三甲寅年誕生、

○忠利始幸侃之家老也、

○慶長五年庚子春、島津右馬頭以久招忠利於隅州垂  
水太守義久公所  
賜以久之地也、故往爲臣、子孫延爲島津淡路守惟  
久之家臣、而住于日州佐土原、

○同九甲辰年忠利供奉以久移日州佐土原、時補家老

職賜采地五百斛、

○薩・隅・日三州 太守中納言家久公赴江府時宿佐

土原城、故徵忠利於 御前忝賜御羽織、

○忠利嗜歌道、故 家久公詠和歌賜忠利數回也、忠  
利亦奉獻返歌于今箇藏之、

○慶長十八年癸丑十二月八日忠利登 江城、奉拜謁  
將軍秀忠公、

○寬永十九年壬午閏九月十日死於佐土原、享年八十  
九、法號園翁昌春居士、

忠貞

三郎 勝五郎 三右衛門

○慶長十三年戊申正月十六日誕生於佐土原、母東郷

内膳重增入道一派之女、

○忠利無嗣故爲養子相續當家、忠貞實樺山清右衛門

久成之二男也、

○忠貞幼年爲證人赴江府、奉拜謁

將軍家、且每賜歸暇有時服恩惠、

○忠貞補忠興之家老職、

○寬永十四丁丑年有肥之前州切支丹之賊徒、時久雄  
幼年也、故忠貞代久雄將軍士、同年十二月二十六  
日發佐土原赴肥前有馬城、翌十五年戊寅二月二十

七日忠貞急乘蓮池口城門、此時守兵所射之矢中忠

貞之左肩、然疵不深而全命歸、

○太守光久公賜馬一匹栗忠貞、毛

○忠貞爲久雄之使節至覺城奉見、光久公時賜饗應及

駒一匹、

○萬治三年庚子正月二十九日死於佐土原、享年五十

三、法號德門是水居士、

久理

勝五郎 監物 新右衛門

○寬永十六年己卯四月八日誕生於佐土原、母町田隼

人女、

○承應三甲午年久理爲證人在江府、時正月三日登

玉城奉拜謁

大樹家綱公、同三月賜歸暇之日、忝頂戴時服二領、

○萬治元戊戌年久理爲證人再赴江府、拜謁賜物同前、

○同三年庚子春久理領父忠貞之遺跡、且補久雄之家

老職、

○寬文十二年壬子閏六月十日死於佐土原、享年三十

四、法號超雲宗全庵主、

女子

樺山左京久憲之妻、

母同前、

久次

千法師 三膳房 茂助

○寬永二十年癸未正月十三日誕生於佐土原、母同前、

○爲三角太兵衛家重之養子、稱三角作太夫高治、

○元祿二年己巳十一月十三日死於佐土原、享年四十

七、法號月岑圓也居士、

久智

新之丞

○正保三年丙戌二月二十二日誕生於佐土原、母同前、

○寬文十二年壬子六月十四日死於佐土原、享年二十

七、法號心寬照安居士、



久次

彥之進

○慶安三年庚寅七月十日誕生於佐土原、母同前、

○寬文六年丙午六月八日死於佐土原、享年十七、法

號華岳淨蓮信士、

女子

上田三右衛門常尙妻、

○母同前、

○常尙爲浪人故妻共居住于薩府、

女子

始爲加世田彥左衛門家貞之妻、離別而後嫁吉賀

十左衛門安和、

○母山口藤兵衛直重之女、

久馮

初忠刻 勝五郎 新右衛門

○寬文四年甲辰三月三日誕生於佐土原、母同前、

○貞享二年乙丑二月二十五日、久馮爲番頭兼宣寺社

奉行、

○元祿四年辛未六月十八日死於佐土原、享年二十八、

法號一超傳心居士、

久美

初家包 千法師 縫殿 善左衛門 三右衛門

○寬文二年壬寅八月十九日誕生於佐土原、母上山彥

右衛門賴豐之女、

○久馮早世而無子故爲後嗣相續當家、久美實三角作

太夫高治之嫡子也、

○元祿五年壬申八月十三日、久美爲番頭兼宣寺社奉

行、

○同九年丙子五月七日、久美於江府補惟久之家老職、

○同十六年癸未十月二十一日、久美有故出佐土原居

住攝州大坂、雖然寶永元年甲申冬、久美應惟久之

召至江府、同十一月二十五日再補家老職、

- 寶永元年甲申十二月十四日、惟久於江府賜新加地五十斛於久美、都領三百斛、
- 正德二年壬辰春、久美依願許家老職、

久通

勝五郎 新之丞 新右衛門

- 元祿五年壬申十月二十九日誕生於佐土原、母海江田彥右衛門信元之女、

- 正德二年壬辰二月二十八日、久通補番頭兼賈寺社奉行、

- 同三年癸巳八月二十九日、久通相續家督、

- 同年十一月九日惟久降令曰、頃有 太守吉貴公之

命、久通之家於嫡子者代代免許久之字、至二男以下者可用其身別樹家先祖實名之字、伊集院家號如元也、以故惟久書件趣以賜久通筒藏之、故二男以下避久忠之字以利爲實名之通字也、

- 同四年甲午正月二十一日、久通補惟久之家老職、

女子

上山右近德溫之妻、

- 母同前、

女子

- 母同前、

出家

眞龍

- 寶永二年乙酉二月十九日誕生於攝州大坂、母同前、

- 同年四月二十日、從大坂歸日州佐土原、

- 正德元年辛卯四月朔日、眞龍七歲而赴洛陽、至四

條龍池山大雲院從秀譽上人落髮、

伊集院攝津介忠隆一流系圖

忠隆

攝津介

- 伊集院次郎右衛門辰久之二男也、子孫爲隅州小根

占之士、

忠則

攝津介

忠暗

彌八郎 壹岐之助

忠廣

左京亮 壹岐之助

忠繼

彌八郎 左京亮

○母彌寢家之家臣堀之内備前女、

○天正二十年正月二十五日死、法名董山榮香居士、

忠次

猪之助 早世、

忠貞

彌八郎 與右衛門

○母彌寢家之家臣鳥濱但馬女、

○法名大應宗廣居士、

女子

北郷家之家臣北郷源左衛門妻、

○母同前、

女子

彌寢家之家臣堀之内吉左衛門妻、

○母同前、

忠任

初忠榮 彌吉郎 吉右衛門 與右衛門

○寛永三年丙寅九月二十九日誕生、母彌寢家之家

臣檀山對馬女、

○寶永七年庚寅八月九日死、法名貫通以一居士、

女子

女子

彌寢家之家臣村山喜左衛門盛政妻、

○母同前、

房勝

彌次郎 友右衛門

○寬永七年癸酉十二月二十八日誕生、母同、

○寶永六年己丑九月七日死、法名虎岑玄龍居士、

俊盛

初忠房 彌吉郎 與右衛門

○寬文八年戊申八月十四日誕生、

○養子、寶彌寢家之家臣寺田三右衛門信吉之嫡子

也、

女子

島津内記久實家臣北原段右衛門兼武之妻、

○母彌寢家之家臣川邊土佐女、

女子

彌寢家之家臣村山與左衛門盛種妻、

○母同前、

女子

養子俊盛妻、

○母同前、

俊盈

彌六

○寶永四年丁亥八月二十二日誕生、母祖父忠任女、

女子

○母同前、

忠方

彌次郎 攝津介

忠次

吉兵衛尉

○出奔于飢肥竟不歸、

忠征

彌三郎 安右衛門

忠偕

彌平次 正右衛門

○慶長七年壬寅誕生、

○貞享二年乙丑十一月九日死、法名滿室勝果居士、

忠次

休左衛門 彌左衛門

○寛永二十年癸未四月二十六日死、法名道雲榮本

居士、

俊賢

初忠堯 喜右衛門

○寛永十六年己卯十一月十三日誕生、母妾腹、

○父彌左衛門忠次以家貧變故嫁小根占土之家婢而

生俊賢、已俊賢及五歲而父沒爲孤養毓于母、時

值宗門手札改然而母以爲士家之婢不知格式、而

使俊賢爲凡下後以名字之由緒爲伊集院遠江久照

之家臣、

女子

小根占之士竹之内千次左衛門宗員妻、

○母小根占之士河埜作右衛門通次女、

女子

大根占之士神之川武右衛門義次妻、

○母同前、

俊員

初忠往 休左衛門 喜之助 甚五右衛門

○延寶七年己未三月二十日誕生、母同前、

○先是無故號中川、繇焉正德四年三月八日奉承大宗

家久短教諭改末野號、且同年六月賜附與庶子家之

俊字、

女子

大根占之士吉永太郎左衛門政貞妻、

○母小根占之士松山清兵衛清末女、

忠成

彌八郎

○寛永十八年辛巳六月十日誕生、母同前、

○延寶二年甲寅八月十九日死、法名海雲淨庵居士、

女子

大根占之士山本早左衛門重昌妻、

○母同前、

俊常

初忠弘 三次郎 孫右衛門

○寛文六年丙午四月十八日誕生、母小根占之士岩松

利右衛門親長女、

○因忠成早世爲繼嗣、實小根占之士岩松四郎左衛門

親榮二男也、

俊養

初忠次 三次郎 孫太郎

○元祿六年癸酉十月二十五日誕生、母小根占之士磯

永仁左衛門本吉女、

忠次

仁助

○元祿八年乙亥九月十日誕生、母同前、

○同十一年戊寅十月十四日死、法名幻心童子、

俊興

初忠次 菊千世 仙六

○元祿十二年己卯九月四日誕生、母同前、

俊甫

袈裟次郎

○正徳三年癸巳三月七日誕生、母小根占士永野六左

衛門祐次女、

伊集院氏支流孝久系圖

孝久

孫太郎 孫左衛門尉

○伊集院大隅守熙久九代之家督之五男也、

永阿聖人

忠眞

孫太郎

忠次

善左衛門尉 法名一羽仁宗、

忠次

彌六左衛門尉

忠次

左近將監

忠次

久左衛門尉

忠張

彌六左衛門尉

忠秀

六左衛門尉 ○法名松屋淨貞居士、

久洪

六左衛門

○寛永五年戊辰誕生、母山元對馬女、

○延寶八年庚申十二月二十九日死、法名正空祖傳居

士、

女子

梶原善左衛門景昌妻、

○母左近允八右衛門尙興女、

忠意

虎松 七右衛門

○寬文二年壬寅四月十一日誕生、母同前、

○正徳二年壬辰三月二十七日死、法名恕山寛忠居

士、

俊憲

初久重 辰松 利右衛門

○寬文四年甲辰十二月二十九日誕生、母同前、

右馬助

早世、○母同前、

俊

千松 喜左衛門

○寬文十一年辛亥十一月七日誕生、母高城喜左衛

門重善女、

○雖爲外叔父高城六右衛門重澄之猶子、後違變復

本氏、

俊房

刑部左衛門 孫七

○延寶二年甲寅十月五日誕生、母同前、

俊用

初久親 彌六 六郎左衛門

○貞享三年丙寅三月二十三日誕生、母松山六兵衛爲

重女、

彌助

甚五左衛門

○元祿三年庚午四月二十一日誕生、母同前、

○寶永五年戊子十一月十九日於武州江戶死、法名賢

谷湛良居士、

女子

○母同前、

女子

弟子丸三右衛門妻、



○母丸田平左衛門正信女、

女子

丸田平左衛門正香妻、○母同前、

俊易

初久近 彦七 七右衛門

○元祿五年壬申四月晦日誕生、母岩切次郎兵衛實信女、

○正德三年之夏受家嫡藏人久矩之令、當家之實名自今以後避久忠字改俊字、庶族同之、

○此家至于初及家督等之時、奉獻御太刀且勤小番、是家格也、

女子

早世、○母同前、

俊茂

彦次郎

○元祿十六年癸未十二月十日誕生、母同前、

女子

○母伊東長左衛門祐元女、

伊集院治部少輔久近一流系圖

久近

初久賢 菊千代丸 治部少輔

○文祿元年壬辰七月十日誕生、

○伊集院筑前守忠能<sup>十一代家督</sup>之嫡男也、雖然禪家督於遠

江守久族、故久近者爲久族之弟者也、

○明曆二年丙申二月十七日死、法名養室宗由居士、

女子

桑波田左馬佐妻、

久賀

菊千代 彌左衛門

○慶長十五年庚戌五月三日誕生、母前田伴左衛門女、

○薩州谷山士也、

○元祿十年丁丑九月二十日死、法名當空元機居士、

女子

福山士和田彌作兵衛義真妻、○母同前、

久親

萬菊 孫三郎 七左衛門

○元和六年庚申八月八日誕生、母同前、

○谷山士也、

○元祿六年癸酉九月十五日死、法名真翁元姓居士、

俊增

初久信 虎松 孫右衛門 十兵衛

○承應元年壬辰三月五日誕生、母島津圖書久方家

臣川越兵左衛門重恆女、

○久親依無實子爲養子、實島津圖書久方家臣市來

八郎左衛門家增之嫡男也、

久年

彌四郎

○延寶五年丁巳六月十八日誕生、母島津圖書久方家

臣村上休五郎義武女、

○貞享四年丁卯六月二十一日死、法名清院貫涼居士、

久次

孫八

○延寶九年辛酉十二月二十四日誕生、母同前、

○貞享四年丁卯五月十六日死、法名徹指童子、

女子

鹿兒島士森怡悅友審妻、○母同前、

俊清

初久品 孫十郎 兵右衛門 五郎兵衛

○元祿元年戊辰八月二十日誕生、母同前、

俊住

初久武 袈裟次郎 七兵衛

○元祿十年丁丑十二月十二日誕生、母同前、

女子

日州紙屋土雨田貞右衛門妻、

○母谷山土有馬仙兵衛純堯女、

俊房

初久寛 彌助 彌右衛門

○寛永二十年癸未三月十八日誕生、母同前、

俊芬

初久清 孫四郎

○慶安四年辛卯七月五日誕生、母同前、

俊重

初久住 孫左衛門 六郎 傳兵衛

○寛文元年辛丑七月二十六日誕生、母薩州指宿

士鎌田小右衛門政良女、

俊盛

初久高 孫次郎 兵助

○寛文八年戊申十一月七日誕生、母同前、

俊泰

助八

○元祿八年乙亥八月二十三日誕生、母伊勢兵部貞

榮家臣肝付甚左衛門兼常女、

俊長

孫左衛門

○寶永元年甲申四月二十八日誕生、母同前、

久次

孫市

○貞享三年丙寅七月十日誕生、母南林寺門前者之女、

○寶永二年乙酉七月二十一日死、法名達休偏圓居士、

女子

○母同前、

女子

早世、○母同前、

女子

母同前、

俊堯

孫之進

○元祿十五年壬午七月十日誕生、母同前、

女子

谷山士永野勘右衛門清續妻、

○母日州野尻士岩切勝右衛門女、

俊良

孫七郎

○延寶元年癸丑十月二十四日誕生、母同前、

○正徳三年之夏、受家嫡藏人久矩之命、當家之實名

自今以後避久忠字改俊字、庶族同之、

俊好

彌九郎

○貞享三年丙寅六月二十二日誕生、母同前、

俊尙

勝右衛門

○元祿十七年甲申三月二十二日誕生、母谷山土木山

權左衛門重廣女、

俊勝

藤八

○寶永六年己丑十二月二日誕生、母同前、

不知所自出

伊集院日向忠兼一流系圖

忠兼

日向

忠元

彦三 九郎兵衛

○寛永十六年己卯十一月十一日死、法名寶屋玄珠居

士、

久慶

松龜 彦左衛門

○母重信丹波安村女也、

○寛文十二年壬子十二月二十九日死、法名月光清心

居士、

女子

福島清右衛門妻、

○母同前、

久信

彦七 九郎兵衛

○寛永元年甲子誕生、母同前、

○延寶八年庚申七月二日死、法名水巖洞雲居士、

久次

又助 半十郎

○母同前、

士、

○明曆三年丁酉六月二十九日死、法名天南宗真居

龜次郎

○母葛西茂右衛門長秀女、

○早世、

女子

平山次郎右衛門忠知妻、

○母同前、

俊行

初久則 金徳 金左衛門

○寛文九年己酉誕生、母同前、

○正徳三年癸巳十一月八日死、法名光曜慈雲居士、

俊陳

松龜 彦右衛門 爲兵衛

○寛文元年辛丑八月九日誕生、

○當家雖不知所自出、伊集院家之庶族無紛、以故家  
嫡藏人久矩決斷焉、宜以俊字爲實名字、傳之、

○此家勤小番矣、

久次

松助

○母同前、

○早世、

女子

○母八木民部左衛門信秀女、

不知所自出

伊集院長右衛門一流系圖

長右衛門

號伊集院、

左近

忠賴

彌左衛門

○寛文七年丁未八月三日死、法名虛洞宗無居士、

忠利

堅之助

○元和元年乙卯八月二十日誕生、母川上兵部左衛

門久盈女、

○忠賴依無世子爲養子、實上原伊豆尙宣之三男也、

○元祿二年己巳七月十日死、法名霞園東春居士、

女子

○母三原右京重康女、

俊昭

初忠辰 七兵衛 茂兵衛

○慶安四年辛卯五月十六日誕生、母同前、

俊宗

初忠致 七助 茂右衛門

○延寶六年戊午十一月晦日誕生、母寺師與右衛門宗

載女、

俊將

初忠榮 彌市 孝右衛門

○貞享元年甲子九月六日誕生、母同前、

女子

寺師喜右衛門宗清妻、

○母同前、

長右衛門

忠眞

堅吉

○明曆元年乙未四月十八日死、法名喜宗如慶居士、

忠豐

堅吉

○正保元年甲申十一月十一日誕生、母町田出羽久尙

家臣橋口主水女、

○元祿八年乙亥九月十一日死、法名無一道庵居士、

女子

鬼塚孫八秀信妻、

○母同前、

俊徧

初忠次 仲兵衛

○萬治元年戊戌五月十五日誕生、母桂李之助忠保家

臣伊地知官了院重次女、

○忠豐依無嗣子爲養子、實薩州谷山土猪保與市兵衛

則次之二男也、

○正徳五年之夏、受家嫡伊集院藏人久矩之傳、當家

實名避久忠字改俊字矣、

俊盛

初忠次 勘助

○元祿十年丁丑十一月十七日誕生、母谷山士古垣勘

左衛門俊次女、

俊賀

初忠次 武助

○元祿十三年庚辰七月二十日誕生、母同前、

女子

○母同前、

伊集院氏庶流財部士伊集院俊盈家之系圖

從是上世不知所自出

久

長次郎 權左衛門 治部 ○法名慶月、

久秀

助九郎 勝左衛門 ○法名雪高宗忠、

久則

宮内左衛門

久正

助九郎

○兄久則之養子、

久正

助九郎 權左衛門 少左衛門 五郎兵衛 薙髮

名普俊、

○元龜元年庚午五月十八日誕生、

○久正初雖住鹿兒島、元和四年伊集院宮内少輔忠情

補財部地頭職移職地之時、久正爲屬士、子孫遂爲

財部之士、

○承應元年壬辰九月十一日死、享年八十三、法名覺

阿眞應、



女子

國分宮内社家澤永賢妻、

○母鹿兒島士鎌田氏女、

女子

鹿兒島士江島權左衛門妻、

○母同前、

久盛

長次郎 長左衛門

○元和二年丙辰十二月十五日誕生、母同前、

○元祿十四年辛巳九月二日死、享年八十六、法名覺

眞宗天居士、

盛舜

○曾木觀音寺住持、

○寛永三年丙寅十一月十九日誕生、母財部士津曲一

山坊兼勝女、

○寶永三年丙戌十一月六日死、年八十一、法名法印

權大僧都盛忠、

久次

孝松 早世、

○母同前、

久柄

翁助 少左衛門

○寛永十八年辛巳二月十七日誕生、母同前、

○寶永七年庚寅五月二十一日死、法名明圓霖光居

士、

久次

長次郎 早世、

俊名

初久記 左近 半助

○延寶八年庚申三月十日誕生、母財部士弓削長左

衛門則辰女、

○俊名已今務奥屬 御雇足輕、繇焉大宗家久矩議

使俊名號末野、

俊昭

字助

○正德三年癸巳三月十六日誕生、母財部日光神之社  
人清水與左衛門盛重女、

久明

正助

○正保三年丙戌九月二十八日誕生、母財部之士濱島  
五右衛門吉根女、

○元祿四年辛未八月五日死、法名秋桂利心居士、

俊陽

初久富 佐之助

○承應三年甲午二月十四日誕生、母同前、

女子

財部士長瀬勘兵衛宗朋妻、

女子

○貞享三年丙寅正月十日誕生、母上山氏女、

早世、

○母同前、

俊盈

初久有 少右衛門 五郎右衛門

○寛文十年庚戌八月十六日誕生、母財部士兒玉次右  
衛門利元女、

俊勝

初久敬 正右衛門

○延寶三年乙卯八月八日誕生、母同前、

俊信

初久儔 八十郎

○元祿十二年己卯五月二十三日誕生、母島津筑後久

龍家臣清水七兵衛綱辰女、

俊方

初久次 長左衛門 六右衛門

○元祿十六年癸未七月二十日誕生、母同前、

女子

○母同前、

伊集院氏支流隅州山田士

伊集院周防助系圖

從是上世不知所自出

伊集院周防助

女子

高山之士守屋織部妻、

主膳

忠成

五左衛門

○母周防助嫡女、

○隅州山田之士也、

○主膳無繼家子故爲養嗣、實守屋織部二男也、

○明曆二年丙申十月十四日死、法名隨心源龍、

俊用

初忠善 五右衛門 角太夫

○寬文七年丁未三月二十一日誕生、母蒲生土山之內

四郎左衛門種重女、

○忠成以無嗣子故忠善爲養子、實蒲生之士山之內治

兵衛種昌二男也、

○正德五年乙未七月承嫡家久矩示諭、即寢忠之字以

俊字爲實名之通字、

女子

○母入來院主馬重矩家臣重永與兵衛義照女、

俊延

初忠次 袈裟次郎

○寶永六年己丑二月二十二日誕生、母同前、

伊集院氏入一家之事

○入佐   ○谷口   ○堀内   ○野崎

○大知田

○福山者有六番之子未知、可有再考矣云云、

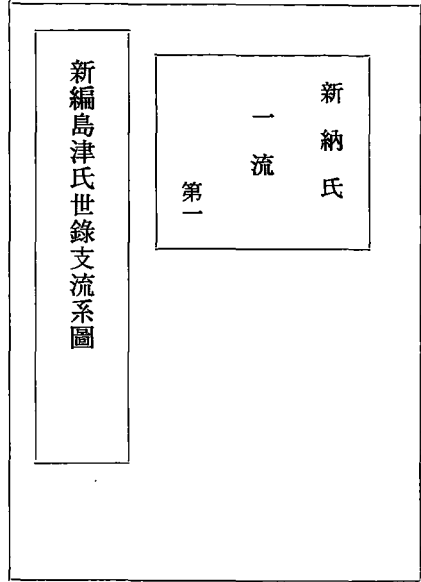
當此記錄編集之時、考一門譜中則日置美作守

久影六男久次號福山云云、然則日置氏之庶子

歟、

77 『寫有之』

(表紙)



『元祖』  
△時久

新納氏正統系圖第一

號新納、四郎左衛門尉 近江守 入道名祐齋、  
 妻田原氏女、  
 ○四代 太守下野守忠宗四男也、

78

○任此狀、可令領掌之由、依仰下知如件、

文保二年三月廿三日

(高時) 相模守御判  
 (貞顯) 武藏守御判

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一八九六号文書、二一〇〇号文書ト同文ナリ)

ゆつりわたす

四郎時久分

さつまの國內みやさとのかうちとうしき

ひせんの國ふくまんみやう江田忍阿跡

下つさの國相馬郡をしての内(押手)黒さきさへもんきう  
 五郎兵衛かきう、

右所々、時久にゆつりあたうる所也、仍狀如件、

文保二年三月十五日

(忠宗) 沙彌道義  
 在御判

『上書有之』  
 四郎殿へのゆつり狀案 嘉曆四二十九ぬしの方へつかハさる也

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一三三四号文書ト同文ナリ)

○時久爲守護代、或在相州鎌倉、或在京師勞軍務者、  
 非一朝一夕之故、既爲 將軍家尊氏卿之代、畿内

郊外鬪亂之際擲一命抽軍忠、于時將軍家感其軍功、匪啻異數多之重器、號兩島津、許守護之裝束、且復補日州新納院地頭職、因茲號新納共以記左方矣、

御太刀一振片シノギ治工  
山之内藤源次・御太刀一振治工備  
前長光・文書一

箱・安部貞任之繪一流、尊氏卿賜之、白弓袋・白笠「金敷」・白笠袋及花氈鞍蓋、同爲號兩島津之證據所以赦免也、

79 『寫有之』

○下 嶋津下野四郎時久

可令早領知日向國新納院地頭職之事、

右、爲勳功之賞所宛行也、任先例、可領掌之狀如

件、

建武二年十二月十一日

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一七五三号文書ト同文ナリ)

80 『寫有之』

○嶋津下野四郎時久申、日向國新納院地頭之事、任「職イ」

建武二年十二月十一日御下文之旨、可沙汰付時久使者之狀、依仰執達如件、

建武三年卯月一日

(高師直)  
武藏權守

日向國守護代

81 『寫在新納喜右衛門久盛』

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一八二五号文書ト同文ナリ)

○日向國新納院地頭職事、嶋津四郎(時久)拜領之處、濫妨

之由其聞候、殊忠之仁候、無爲可被沙汰付候、恐

々謹言、

八月廿四日

武藏權守師直在判

謹上 畠山修理亮殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一八二七号文書ト同文ナリ)

82 『寫在新納喜右衛門久盛』

嶋津四郎申候、日向國新色院事(納)、任先例無煩之

様、可被懸御意候、且此仁軍忠候、隨而當參奉公

事候之間、如此令申候、恐々謹言、

十二月廿一日

武藏權守師直在判

謹上 畠山修理亮七郎殿(直稱)

(本文書ハ「旧記雜錄前編一」一八二九号文書ト同文ナリ)

83 『寫在新納喜右衛門久盛』

○其後御在國之躰何様候哉、無心元存候、

抑嶋津四郎所領日向國新納院內宮頸村事、爲當院  
內先地頭等知行候之處、今度始御代官違亂之由被  
申候、彼仁殊更於京都申承子細候、其上自執事度  
々被成施行候歟、何様ニも可被止御違亂候哉、次  
領家職事、同任先地頭例、無子細候様沙汰候者悅  
入候、尙々無異他子細候之間、如此令申候、諸事  
急速計御沙汰候者爲悅候、心事期後信候、恐々謹  
言、

十二月廿三日

沙彌明眼在判

謹上 畠山修理亮七郎殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編一」一八二九号文書ト同文ナリ)

○爲守護之代上京師、經年月不在之際、日向州御家

人有畠山修理亮直顯者、屬右兵衛佐直冬尊氏卿之三男他腹  
之旗下、圍我之高城所以攻責、數月而後沒落者  
也、

○新納院沒落之後、在薩摩州高江、其後賜日州救仁  
院、移居于此、是亦先是執事高武藏守師直兄弟、  
專奢侈恣國政、是以 尊氏卿之令弟左兵衛督直義  
號錦少路、三條殿、密欲誅伐師直兄弟之陰謀已露顯、由是貞  
和五年己丑八月十二夜、師直兄弟却催大軍進欲圍  
三條殿者甚急也、 尊氏卿招直義於近衛東洞院之  
御所、欲決安否於一所、師直兄弟亂君臣之禮義、  
專血氣之小勇、不顧後來之嘲哂、引率雲霞之軍  
衆、圍御所之四面、時久屬直義之旗下、雖所以其  
夜候三條殿之有勇士衆列、直義潛不知入御所之籌  
策、各不得已、而加外圍之軍中、雖然與甥之和泉  
右衛門兵衛尉忠賴俱、主忠信廻奇謀、通意於御所  
中、自負果器竊超築地、以進獻之、上自 將軍家  
兄弟、下至近習伺候之男女、感其深情無襟袖之不

霑云云、由是所以賜夫地也、

○法名道宏、號宗綱、

久有

號西谷、四郎九郎 子孫記別紙矣、

『二代』  
△實久

修理亮 越後守 妻肝付氏女也、

○伊東氏・北原氏・相良氏已下之凶徒、企叛逆逼莊  
內、攻樺山氏・北鄉氏之守都城者久矣、

太守氏久欲渠之救急難、已發於志布志、先構陣  
於梅北天ヶ嶺、待應安六年癸丑三月一日、而發向  
蓑原、于時實久爲月一揆之將、抽軍功者也、

○鎮西探題澁川右兵衛佐滿賴、到肥之後州二見、而  
留滯之際、太守元久公之爲名代、到二見公私之  
了簡見聞之人莫不美談者矣、且復有大追物、實久  
亦有射手之列、引目目上一尺八寸、其下共及二尺、  
故矢取之小童等戲稱之曰、島津之黑傘、暨後年亦

謳歌之云云、

○法名道宗、號心傳、

將監

爲元久主之名代、發肥後州、屬

將軍方、於白川遂戰死矣、

久吉

號大崎、他腹、子孫記別紙矣、

久顯

號惡四郎、八郎三郎 子孫記別紙矣、妻佐伯氏  
女也、

『三代』  
△忠臣

初久臣 越後守 近江守 妻北鄉氏女、

84

『正文在志布志大慈寺』

○奉寄進

日向國救仁鄉比志田村之内助則田四段卅事、



右、於彼地者、大慈寺龍護庵所奉寄進也、任先例、可被執務之狀如件、

應永拾九年卯月廿八日

(新納)  
越後守久臣 (花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」八七七号文書ト同文ナリ)

○應永十九年壬辰、入大崎城於手裏也、

○應永廿年癸巳、入松山城於手裏矣、

『正文在志布志大慈寺』

○奉寄進

大慈禪寺内龍護庵

日向國救仁院内伊崎田條中蘭村之事、

右、水田蘭不殘一所、同百姓足臨時檢斷共奉寄進

所也、天下安穩、一家繁昌、殊者道宏爲菩提寄附

之狀、如件、

應永廿二年七月日

(新納)  
越後權守久臣 (花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」九二二号文書ト同文ナリ)

○文安六年己巳即寶徳元年也二月廿五日卒、法名道能、號

智海、

氏豐

又次郎 遠江守 子孫記別紙、

女子

飢肥某室、

「四代」ノリ  
△忠治

修理亮 妻野邊氏女、

寶徳二年庚午三月廿一日卒、法名道東、號照山、

女子

太守陸奥守忠國簾中、

忠匡

四郎三郎 子孫記別楮者也、

女子 肝付河内守兼元室、河内守兼忠母、	忠次 又六郎	僧 女子 山田川内守母、	女子 末弘氏母、	忠時 周防守 子孫記別楮矣、	書久 <small>〔貼紙〕</small> 治部少輔	忠將 四郎九郎
------------------------	-----------	--------------------	-------------	-------------------	-----------------------------------	------------

忠基 <small>〔貼紙〕</small> <small>治部少輔書久 二男右衛門兵衛尉トアリ、然ハ子ニ系タルハ誤カ</small> 右衛門兵衛尉	女子 新納四郎三郎忠匡室、 <small>『五代』</small> <small>△『忠續』</small>	近江守 妻 太守陸奥守忠國第三女也、 ○救仁院 <small>即志布志也</small> 、之外賜飫肥、居于此者二十九年也、 文明十八年丙午、易飫肥於末吉・財部・救仁鄉 <small>即大崎蓬原也</small> 、賜之、知件之諸所者、共四十一年也、 ○居于飫肥之際、太守立久尊君有光臨之儀、張行於犬追物、其記不泯、而存者記左、	○ 犬追物手組之事 <small>實正七年二月晦日</small> <small>『寫在新納久四郎入道宗心』</small>
---	---	---	---

殿「立久」十七疋

嶋津薩广守殿十一疋

嶋津次郎三郎殿四疋

嶋津助九郎十一疋

伊東二郎太郎五疋

伊豆彦六二疋

蒲生十郎三郎八疋

野村玄蕃允五疋

嶋津九郎左衛門尉五疋

伊豆主稅助七疋

伊東六郎殿十二疋

嶋津又五郎殿十疋

檢見

喚次

嶋津十郎左衛門尉

伊地知又九郎

於飢肥ニ張行之、

(本々書ハ「旧記雜録前編二」一四三三号文書ト同文ナリ)

○延徳元年己酉九月廿日卒、法名道欣、號笑翁、是久

四郎太郎 駿河守 他腹也、子孫記別紙矣、

女子

他腹、

忠明

三郎左衛門尉

○兄忠續依無世子爲猶子也、

了山和尚

「六代」  
△忠明

三郎左衛門尉 越前守 近江守

○兄忠續無世子故爲猶子矣、

○當代之文書所以未泯盡者、僉以記左方矣、

87 『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○態進愚札候、就其ハ屋形爲御藥蚤、此方雖尋候一向候ハす候、御所持候者少にて候え共、御まいらせ有へく候、隨而匠作・江州・讚州其外方く御同道候て御越候間、寄尋無音無事罷成候、公私目出度候、兼又一昨日皆く如隈城御急候、屋形様今日如市來入御候、山北動事、來廿六たるへく候、此方仕事にて候之間、定而三俣邊敵可相動事も有へ

く候、堅固之御新簡肝要候、恐く謹言、

『應永十四年敷』  
霜月廿四日

兼宗 (花押)

(平田)

兼宗 (花押)

(村田(安カ))

經水 (花押)

新納越前守殿

御宿所

(本文書ハ「旧記雜録前編」二七七〇号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○誠ニ春之御慶珍重幸甚、更く不可有盡期候、萬福  
千祥、抑就如此之御慶預御賀書候、大悅候、當  
春諸事御満足之由承及、御同前大慶候、如何様近  
日可參會候間、以面拜、益御祝儀可加申候、萬吉  
恐く謹言、

『文明年間』

二月十三日

國久 (花押)

謹上

新納越前守殿

(忠明)

御返報

『前之書之追而書也』

○ 追而申候

爲祝儀五明一本給候、目出候、自是も扇子一本進之  
候、仍其方御越之由目出候、明日罷立候間、やか  
て可參會候、當參之御方何も若衆にて候間、以參  
會之事、何とやらん御座候らん、察存候、我とも  
ひとりものたるへく候哉、御參之由承候て満足申  
候、御同前察存候、我ら大見物人衆參候へと、舊  
冬にかくしく仰候間、不似合なから用意申候、  
其さま是非御したく肝要之由、仰候へと申へく  
候、内と御用意候へく候、我等に三御まさり候之  
間、こしのいたく御座候らん事察存候、重而恐く  
謹言、

(本文書ハ「旧記雜録前編」二一五八号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○ 此趣、酒谷へも申遣候、自其も可有傳達候、  
不審候ハ、早く可示給候、

北郷方へ被遣候書狀之趣、細く令披見候、誠と驚入候、一日以狀如申候、伊東猷肥ニ依取陣候、雜説共候由承候之間、爲可申披妙谷寺を雇遣候へハ、於路次北郷方ニ被逢候て被留候、左候之間、爰元之旨趣おひへ不可届候ニよて、八郎左衛門殿を酒谷まで遣候、若城へ通得候ハ、申散候雜説、努と有ましき子細にて候、いかにも城之事堅固ニ被持延候様ニ、了簡肝要之由申候間、其上北原昌宅被申候意趣、自是申候返事等、再三申きかせ候て遣候つるか、何たる子細によてき様ニ申候つらん、不審千萬に候、我等か心中ハ北郷方はニ被居候之間、細く申分候、定而存知候覽、江州之難儀一家滅亡之基候之間、年内より此事をこそ一大事ニ存候つれ、さ候上ハ、何篇ニ城を被渡候へとハ可申候哉、縦又申子細候共、江州面く申合候てこそ、ともかくも有へく候へ、殊ニ是ハ努と不存寄事にて候か、承引之様ニ狀ニ見え候、無心元存

候、但對江州之心中、定而諸天も可有照覽候之間、可有聞披候哉、御同前ニ候者本望候、恐と謹

言、  
〔A、A〕  
『文明十七年巳』

潤三月廿四日

〔忠昌〕  
武久〔花押〕

新納越前守殿

〔本文書ハ「旧記雜錄前編二」一六一〇号文書・一六三四号文書ト同文ナリ〕

『正文在新納三河忠徳入道梵行』

○ 御所より下候

一 太刀一腰 長光

一 太刀一腰 山内藤源次かたしのき

一 文書箱一

一 あへのさたの繪一なかれ

一 弓一張 大友政親より給候、

一 征一腰 同  
〔矢カ〕

一 腹巻一りやう 毛はしそめ同

一 甲一はね 同毛同

長享三年十二月廿七日

嶋津新納近江守忠續 (花押)

新納越前守殿 (花押)

嶋津新納

近江守忠續

『上書』  
嶋津新納越前守殿  
(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一六七一号文書ト同文ナリ)

91 『寫在新納久四郎入道宗心』

○ 犬追物手組之事 延徳二年  
四月四日

殿<sup>十九</sup>定  
嶋津次郎三郎七疋

嶋津安藝守三疋 吉田治部少輔七疋

鹿屋周防介五疋 五代助五郎五疋

平田右馬助十一疋 加治木又八郎六疋

嶋津大和守十二疋 伊地知周防介十疋

嶋津四郎三疋 嶋津左衛門尉十一疋

檢見 喚次

92 『寫在新納久四郎入道宗心』

嶋津十郎左衛門尉 隈江刑部少輔

於志布志

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一六九〇号文書ト同文ナリ)

○ 犬追物手組之事 延徳二年  
四月六日

殿<sup>十二</sup>定  
嶋津安藝守八疋

嶋津左衛門尉六疋 嶋津四郎二疋

鹿屋周防介一疋 伊地知周防介十二疋

飢肥又八三疋 加治木又八郎五疋

五代助五郎四疋 嶋津三郎四郎三疋

吉田治部少輔五疋 嶋津次郎四郎十二疋

嶋津次郎三郎一疋 嶋津大和守八疋

檢見 喚次

嶋津十郎左衛門尉 嶋津式部少輔

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一六九一号文書ト同文ナリ)

『寫在新納久四郎入道宗心』

○犬追物手組之事延德二年  
四月十八日

殿八疋  
『忠昌』

嶋津四郎一疋

嶋津大和守七疋

肝付三郎四郎一疋

嶋津新四郎一疋

嶋津三郎四郎二疋

嶋津次郎四郎七疋

飢肥又八七疋

加治木又八郎三疋

五代助五郎五疋

嶋津左衛門尉七疋

嶋津安藝守四疋

嶋津次郎三郎二疋

吉田治部少輔二疋

檢見

喚次

嶋津十郎左衛門

隈江刑部太輔

於志布志ニ延德二

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一六九二号文書ト同文ナリ)

明應三年甲寅七月廿七日卒、法名光忠、號義圓、

「七代」  
△『忠武』

四郎 近江守 妻北郷尾張守數久女也、

○當代陷梅北・百引・平房之三城、所以領知也、

○當代之文書所存悉記左矣、

『寫在新納三河忠徳入道楚弓』

○就祝詞申通候令啓候、抑於自今以後者、弥自他之

満足益可申加候、仍太刀貞次一腰・馬鹿毛一疋進之

候、誠表佳例候、恐々謹言、

十二月十三日

又三郎忠治

謹上 新納近江守殿(忠武)

『永正元年十二月十六日、從 蘭窓様初而忠武江被下候御書之写狀  
にて候、』

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一七九〇号文書、一七九二号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○誠今春之吉慶千喜萬悅、雖事舊候、猶以不可有其

期候、珍重々々、幸甚々々、抑就此等之祝儀、預

御賀札候、快悅如仰、從今年者諸事満足候、御同

意之条祝着候、賀事猶期面謁候、恐と謹言、  
『永正年間敷』

正月十一日

陸奥守忠昌（花押）

謹上 新納近江守殿

（忠武）

〔本文書ハ「旧記雜錄前編」二一七九号文書ト同文ナリ〕

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○先度如申候、移小原へ給黎候、平所候間、城執候、  
爲其村田・本田指遣候、定而每く請御意候哉、仍  
從最前可預奔走之由承候、喜悅御近所之事情、弥  
憑入候、心事期後音候、恐と謹言、

『永正三  
四之間敷』

十月十九日

忠昌（花押）

新納近江守殿

（忠武）

〔本文書ハ「旧記雜錄前編」二一八〇号文書ト同文ナリ〕

『寫在新納三河忠徳入道楚弓』

○ 又寶木給候、賞翫此事候、

其後可申通之處、無指事条閣筆候、就中先度鏡之角  
并鈴之事申候之處、早く調候而給候、喜悅候、何様  
以面御禮可申候間、省略候、恐と謹言、

十一月廿一日

忠昌御在判

新納近江守殿

（忠武）

〔本文書ハ「旧記雜錄前編」二一八〇四号文書ト同文ナリ〕

『寫在新納三河忠徳入道楚弓』

○公方様至分國、就被遷御座候、被成 御内書候、  
尤御面目之至候、此時一段被抽忠節候者、可爲肝  
要候、此等之旨猶委細、被對伊東大和守被仰下候  
条、御相談可然候、萬端併期後信候、恐と謹言、

『永正十四五ノ間敷』

十二月十三日  
義興在判

新納近江守殿

（忠武）

『忠武之御代ニ下候』

〔本文書ハ「旧記雜錄前編」二一八九〇号文書ト同文ナリ〕



『寓在新納三河忠徳入道楚行』

○公方樣就於當國被遷御座之儀、被成 御内書候次第、左京太夫以別狀被申候、伊東和州被仰談、此節一段被抽御忠節候者、末代御名譽不有比類候、就其御申之儀共候者、具被仰上、則可申達候、猶委細積門坊可令演說候之条、期後信候、恐々謹言、

十二月十三日

武道在

新納近江守殿

御宿所

杉勘解由左衛門尉  
武道

『上包』  
新納近江守殿

御宿所

(本文書ハ「旧記雜録前編二」一八九一号文書ト同文ナリ)

○大永元年辛巳霜月十七日卒、法名忠新、號鷹山、

忠時

女子

新四郎 道號了心、

源四郎

早世、法名能心、號安叟、

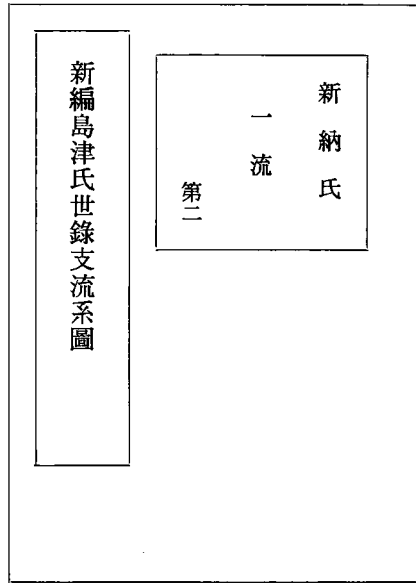
三郎四郎 僧

他腹、

○於莊内末吉切腹、崇其靈於末吉、號幻亭大明神、

女子

新納左京亮忠祐室、



新納氏正統系圖第二

〓八代〓  
△忠勝

初忠家 四郎 禪正忠 近江守 入道稱栖風齋、  
延德三年辛亥誕生、妻伊東大和守尹祐女、

○定居城於救仁院志布志、而大崎・松山・末吉・恆  
吉・高隈・市成・牛根・垂水、共所以領知、而新

納氏之繁榮有此時矣、

○川上左衛門尉義久法師道安者弓馬之達人也、由是  
預島津氏累世所以傳來之書、許容弟子隨器量授其  
書矣、故忠家亦請傳習之、于時老父忠武、先是有  
一流十二卷記於授受道安、可相續之旨、得一紙之  
免狀、又請蹴鞠傳習之書於京師、而賜東征齋免狀、  
且復隣國諸侯、及同僚贈書簡、答書亦裁焉、天文  
之始、遊行上人來于志布志留滯之際、興行于歌之  
會、丁此之時薩・隅・日諸所悉以雖經歷、無企歌  
會之人也、又小笠原刑部少輔光清、有詣鶴戶明神  
之聲、遣价使於其地、所以請待志布志、而抑留二  
箇年之際、傳習弓馬之術、張行犬追物於一家、由  
是請待當時之 太守陸奥守忠昌張行犬追物迄再三  
矣、是以 太守乘佳興加檢見、百事盡美麗、貴賤  
驚耳目也、其文書等所存悉以記左方矣、

『正文在新納又左衛門久正』

○當家犬追物一流愚老相傳之處、依新納忠家懇望、

雖悉相續候、以前忠武不殘存分申達候、可有談合

旨肝要候、然者眞實成志人候之者、可被傳授事可

然候、仍爲後代染短筆進之者也、恐と謹言、

六月一日

〔川上義心〕  
嶋津道安入道（花押）

新納四郎殿

進覽候

『上包』

新納四郎殿

進之候

嶋津道安入道

〔本文書ハ「旧記雜錄附録二」一二六七号文書ト同文ナリ〕

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○ 尙と有合候間散と候へ共、是之料紙に書申候、

それよりのハ返し進し候、

蹴鞠條と斟酌雖不被淺候、頻ニ御懇望、別而御執

心之間、當時可用立分、少と書付進之候、聊以外

見有間敷候、殊拙子染惡筆候間、見得ましく候、

被成御推量可有一覽候、心緒猶期面謁候、かし  
く、

『上書』〔貼紙〕『忠勝殿』

新四もし

自都

東征齋

〔本文書ハ「旧記雜錄附録二」一二六八号文書ト同文ナリ〕

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○新納四郎殿就嫡男出來候、爲歎御祝儀、從 屋形

様御博士御給候、彼御太刀之事、赤松殿御重代候、

竹田法眼三ヶ國下向之時、嶋津殿被進候、別而御

給候、御使者河田彦左衛門尉殿、此等之儀爲後代

書注也、

于時永正七天十月吉日

伴兼利（花押）

筆者

『上書』

於御家引付



一社被休矛楯、聞諸方之與力、偏被奉敬神慮、天下太平、國家安樂之御祈念、貴賤萬人可爲歡喜候、但無盡期於可被挾御遺恨者、却爲社家非被崩八幡宮候也、然者不可有方中之咎御存知之前、忝茂遙出本覺之都、和光同塵之御交、大慈大悲之御志眼前之處、豈可屬無篇哉、哀々此等之趣於御得心者本望候也、恐惶敬白、

『大永五之間敷』

少春廿一日

限江伊勢守

匡久在判

中野安房守

歲信在判

御一社中

貴宿所

〔本文書ハ「旧記雜錄前編二」一九九六号文書二〇〇〇号文書ト同文ナリ〕

『寫在清水臺明寺』

○『字欠敷』慎敬白

正八幡宮依炎上 藤原朝臣忠勝

奉寄進鵜眼一萬疋其願文曰

夫以神者依人之敬增威、人者依神之德添運矣、先蹤指掌者乎、抑正八幡宮者、非日域神祇廟三神之苗裔矣、異朝陳之大王之息女、稟日天子之陽氣、胎誕育大王、有叡覽是斯異形異相、而非可續天子之位者主天、奉乘虛船放捨空海、居諸數趨轉、仁王四十三代元明天王之御宇、和同元年着岸之广須隅州桑原之庄、則來下八流之幡、圍繞前後、號曰八幡、而後出現天弃石、於此鑿不思議之肝文、其頌文云、昔於靈鷲山說妙法華經、今在正宮中示現大菩薩乎、依此文奉名正宮云云、粵去大永三年癸未不圖兵革懿起、然則守護方當方既逮義絕、然處敵方卒猛兵、此家欲爲對治於愚領梟野之条、家來之士卒少懸合、相當之禦矢射處仁、守護方運命聊傾乎、打死虜數百人、得忽軍利之勇於戰場、播既名譽之勢於萬方、從然來諸篇任心衆人開悅眉事、是併冥見加被之瑞、家運倍增之瑞矣、然處迄于大永七年丁亥十一月廿八日、正八幡宮之炎上觸傳

聞處、即驚愕仰天、嗚呼言語道斷以外之大災矣、所詮、社家籌策之先札、弓箭長支者、足輕以下亂入壇所、神殿出火歟、然者至其時者、爲社家非被崩寶殿乎、文章揭焉也、退情思之、神職神官之身而、義兵爲宗銜、爲業計知、是背神慮歟、所以者何、或寄田代欲爲崇敬菩薩、或於有大望自訴者、假令爲何雖爲義爲敍用之欲、爲自他安全之的據、數ヶ度雖致裁許、終無承引、剩控讎敵之心、書札不能返答、凡神明佛陀者於寂光自樂之於真都趣、淩得大悲之化、心不倦忍苦堪勞、接強剛難化之機、欲至一實中道之冕臺、兼國家安寧萬人快樂之擁護、無懈掛忘至誓自由之非道、豈不令刑罰乎、就中八幡大菩薩之御託、或咄銅焰、或雖爲食鐵丸、心汗心濁之族可捨給見、是世流布之神勅眼前之境、於此豈可不驚乎、可不慎乎、然處被官群兵等社家亂入、終日鬪戰之時、聲震大地、兵火之煙雲覆半天、雖然社頭堅固無橫災之条、萬吉々々、

幸甚々々而已、掛處經數日、從壇處之民屋起猛火、銚焰遷玉殿剝那破滅之成灰燼、言表意外之災、以凡慮難測、以愚言難述、予寶社之難滅亡、神慮之概虛無、雖爲輕薄微少志、所之用却(都)一萬正致寄進、偏抽丹心者歟、所詮、於向後從何家再興有企者、可爲一分之助成、萬一於我家今度一亂、尙と得勝利於官祿增進者、必可勵造社之功、是所謂微塵成泰山、涓滴滿巨海濫觴歟、仰願者神慮廣大之廻於眸、丹祈渴仰之哀、於志武運、於及子孫萬葉安全、於蒙國家萬品給、再拜々々敬白、願書之大跡如件、藤原朝臣忠勝判

大永七年丁亥十二月二日

(本文書ハ、「旧記雜錄前編」二二一〇号文書ト同文ナリ)

『正文在新約三河忠徳入道楚弓』

○近年匠作與不和之由、其聞候如何候哉、縱雖子細候、以前々筋目、早と御和睦之儀可然候、猶於三

河守可申候、恐々謹言、  
『享祿元年』  
七月廿三日

嶋津近江守殿  
(新納忠勝)

義興(花押)

『上書』  
大内殿よりの書狀

享祿元年

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」二二七号文書ト同文ナリ)

『案文在新納三河忠徳入道楚弓』

○就三州動亂之儀、和融御裁許之尊翰并預御使僧  
候、恐悅無極候、爰元之躰、傳芳院巨細御存知之

前、不能書候、恐惶謹言、  
『享祿二年款』

二月十六日

近江守忠勝

進上大内殿

(義隆)  
貴報人々御中

嶋津

『上書』  
進上大内殿

貴報人々御中

近江守忠勝

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」二二四五号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○大周和尙下向候、別而信仰條、於自然之儀者、無  
疎略令馳走者、可爲神妙候也、

二月三日

(東征書)



新納近江守殿  
(忠勝)

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」二二六九号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○雖比興候短尺書進之

雖未申通候、由緒異于他事候間令啓候、抑一亂以  
來不辨之儀難盡紙上候、此時一段預合力候者可爲  
祝着候、併芳情頼入候、猶九澤軒申含候、每事期  
後信候也、狀如件、

卯月廿七日

(近衛尚通)  
(花押)

嶋津近江守殿  
(新納忠勝)

『上書』  
嶋津近江守殿

在判

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」二二七号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○雖未申付候、以事次令啓候、抑 御家門御事吳于他御由緒候處、御無音實背御本意候、定而聞召及候哉、公方様御祝言之事被遂其節、既去三月

(足利義輝)

若公様御誕生候、天下安全基御家門殊御大慶候、

自然相應之儀可申入、隨分不可存疎意候、然而依數年都鄙亂逆、御家領等非分族押妨候、言語道斷候、如今者可及御斷絕候糸口惜數次第候、此砌以舊好之儀、被成御馳走被扶助申候者、公私所仰候、此等趣態可被差下御使節之由御有增候、不知案内之間延引之刻、九澤軒下國之由候間、雖被致故障候、種々被仰被言傳御書候、并花月五十首御筆、同從禪閣御書短册十首御筆乍御憚被下候由、得

(近衛尚通)

其意可申旨候、猶彼軒可被演說候、可得御意候、  
恐惶謹言、

卯月廿七日

長美(花押)

謹上

嶋津近江守殿御館

『上書』  
謹上

嶋津近江守殿御館

進藤筑後守  
長美

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」二二七号文書ト同文ナリ)

『案文在新納三河忠徳入道楚弓』

○御先祖政親之御代者、每々雖得御意候、自然中絶、頗失本意候、自今以後者可申入覺悟候、御太刀一腰作一文字金覆輪令進獻候、表御祝儀計候、以此旨可預御披露候、恐惶謹言、

霜月廿三日

近江守忠勝在判

大友殿『修理太夫義右』

人々御中

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」二二七号文書ト同文ナリ)



『案文在新納三河忠徳入道楚弓』

○御先祖政親様之御代者、毎々雖被得御意候、自然中絶頗非本意令存候、於自今以後者、爲可被申入、若輩被進使節候、御執持奉憑候、恐々謹言、

霜月廿三日

歳信在判

本庄殿

人々御中

『上書』

本庄殿

人々御中

中野

歳信

(本文書ハ「旧記雜録附録二」一二七二号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○寔近代者自他御不通之条、非本意之由、被存之折節、御音問祝着之段、以直書被申候、自今以後者、倍可被申通之由候、珍重候、仍厚板一端青地被懸御意候、畏入候、念以使節可被申述之由之間、旁期其時令省略候、恐惶謹言、

十二月十三日

親榮(花押)

江州參 貴報

『上書』  
江州參 貴報

本庄新左衛門尉

親榮

(本文書ハ「旧記雜録附録二」一二七二号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○誠近代御不通、自他慮外候折節、御音問之段、祝着之由候、委細直申述候、自今以後者、弥御深重之儀、尤以珍重候、念以使節可被申之由、猶飯福寺可有演説之条、先不能一二候、恐々謹言、

十二月十三日

親榮(花押)

中野安房守殿御報

本庄新左衛門尉

『上書』  
中野安房守殿御報

親榮

(本文書ハ「旧記雜録附録二」一二七三号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道梵与』

○雖未申通候、光臺寺歸洛之間、一筆令啓候、不圖令下國、遂向顔度願望迄候、仍海徳寺之事、無主之由候、被添御詞新命被相居候者可然候、數代御信心之事候之間、不可有相違存候、旁彼口上申合候、穴賢く、南無阿彌陀佛、

九月六日

他阿彌陀佛

嶋津近江守殿

(本文書ハ、「旧記雜録附録二」一二七四号文書ト同文ナリ)

○天文二年、遊行他阿彌陀佛留滯于志布志之際、催和歌會所以一日之盡佳興也、其懷紙未泯、而存者記左、

『正文在新納三河忠徳入道梵与』

『天文二年興』 詠鶴契遐年和哥

他阿

ゆふなみの立ぞめしよりあしたつの

雲井にたかき千世のこえかな

詠鶴契遐年和歌

藤原安鶴

難波かたிர江のつるにことゝはむ

蘆原なりし世ゝのはしめを

詠鶴契遐年和歌

喜阿

春のはな秋のもみちもならへかし

しめゆふやまのつるのちとせを

夏日詠鶴契遐年和歌

近江守忠勝

行としハふけるのうらのうらなミを

はるかにちきるつるのけころも

詠鶴契歌年和哥

通法寺其阿

逢にあふ折をしれとやそなれぬる

松にいく代のつるのもろこゑ

夏日同詠鶴契遐年和歌

藤原忠重

和歌のうらに住てふ鶴のけころもを

いくとしくかかさねきぬらむ

詠鶴契遐年和哥

壽獨阿

萬代のはしめとやミむつるのこの

松にすたちをいそくこゑく

夏日同詠鶴契遐年和哥

藤原忠常

なにはえやあしへの波の千代かけて

子をおもふつるそ月に鳴たつ

詠鶴契遐年和哥

金阿

つるのゐる千代のはしめのひめこ松

きミか御かけにならへてそみる

詠鶴契遐年和歌

獨長阿

ともにへむ陰やたのめてゐるたつの

立もはなれぬわかまつはら

詠鶴契遐年和哥

一獨阿

立なるよハひやなをも友つるの

つはさにかくるわかのうら波

詠鶴契遐年倭哥

三其阿

四の時かしらにみえて年とのミ

ふるはつもらぬ霜のしらつる

詠鶴契遐年和歌

僧阿

すたちゆくあし邊のたつやとしふとも

立かへりこむ浦の松か枝

詠鶴契退年和哥

一寮覺阿

千さともつはさにのりて行人の

よはひのすゑをたくへてやみむ

詠鶴契退年倭哥

二弥阿

葦はらや生立しその始をも

知や鹽干のたつあさるこえ

詠鶴契退年和歌

六但阿

年へぬる聲やま砂にゐる田鶴の

月のしもふむ夏の夜のそら

詠鶴契退年和哥

壽重阿

いくとせか雲井の田鶴の木すゑをも

ふみからすまでそなれきぬらむ

詠鶴契退年和歌

三留覺阿

いのる世はさゝれ石まにすむ鶴の

いはほの松に巢をかくるまで

夏日同詠鶴契退年和歌

安房守歳信

かめ山のなかれのすゑにすむ鶴の

齡にひけて君や千世へむ

詠鶴契退年和哥

二僧阿

いまよりのところもかへしまな鶴の

伊津貫川のたえぬかきりは

夏日同詠鶴契退年和歌

右京進種國

あしたつの齡にひけて君か代ハ

千とせのゝちもかきりあらしな





嶋津又五郎



八

天文三年正月十六日

三度弓之時之日記茂此心得也、

但、つかひたるへく候、

〔本文書ハ「旧記雜錄前編二」二二二二号文書ト同文ナリ〕

『案文在新納三河忠徳入道楚弓』

○御屋形様就御進退之義

一實久江被仰渡、難澁之時者、可有如何ニ候之歟之

事此時者豊州へ  
重くと可申之事、

一彼所存之様之可被仰出事、先者連判衆被捨ま敷之

由候事此時者實久へ以前之辻運判  
衆可有分別之事、

一御屋形様御曹子御前依御入部之事此時者勝久曾以  
世ニ綺を申間敷

之忠貞

一相州就伊集院之義之事先以御家之可  
爲御再興之事、

一所領等之事此等之儀者  
入間敷之事、

一實久被成御納得御談合之時之事至宮内可  
然之事、

一實久入來・東郷間之事何れも和平之事、

一相州爲御使、境目之校量祢答院方可申合之事重武

以歸宅澁谷衆談合之事、

一相州御使之儀老別府・加治木・蒲生へ可申通之事

此分さしよせ可然之事、

一菱刈之事、

一下大隅上井敷禰之事、

一伊東殿之事、

一相良殿之事、

一吉田江校量早くと可然之事、

一相州へ自三家爲使節、祢答院より使僧之事、

于時天文五年三月十一日

〔本文書ハ「旧記雜錄前編二」二二七五号文書ト同文ナリ〕

『案文在新納三河忠徳入道楚弓』

○誠當春之御慶萬幸と、仍如御芳書慮外之就弓箭、

如此罷成候、被聞召付預御尋候、一段畏入候、嶋

津豊後守新納之二字可被殘之由被申出候条、櫛間院傍致住宅候、就中表革三種七領形送預候、此方大切之物ニ候、可致秘藏候、自是茂唐紙三十程令進覽候、誠祝儀計候、恐々謹言、

『天文八年』

二月廿八日

忠勝

相良殿

御返報

『上書』

草案

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二二三四二号文書ト同文ナリ)

『寫在新納三河忠徳入道楚弓』

○一時久、日向國新納之高城に居住在名に(よ)きつて新納とかふす、其留主に彼所は伊東うはいと

候、此時貞久様爲御代在京、

其後薩摩國高江を貞久公より被下住す、其以後

救仁院知行、彼所を御所卷之節、時久依被抽忠

懃、從 尊氏將軍直ニ被成御判所也、

一笠袋鞍覆之儀も、右之刻尊氏將軍新納之家ニ御免候事、

一長光之御太刀拜受候之事、

一此時從 御屋形様ハ御賀札を諸一家より最前ニ被下候事、

一年頭出仕之刻、御内之御門を御開候之事、

一八朔太刀諸一家より初ニ御請取候之事、

一弓袋代者、小笠原光清、鶴戶就參詣御下向之刻、

御免候事、

一くま抑之むち、同犬打むち之事、

一あかうるしの引目事、

一あわせ之事、

『忠勝一代之事』  
右四ヶ条者一代たるへき之事、

(本文書ハ「旧記雜錄附録」二二七五号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○ 追而



ゑんひ之儀、何もゆるし申儀にて候之間、承候て相誘認可遣候、

去年罷下候之砌、不懸御目候は、無曲存候、其後無音相過候、心外候、仍今度至太陽寺、御傳言之儀具承候、精敷者彼方可被達候之条、不能重言候、將又先年ゑんひの本之儀承候之間進之候ツ、夫ハ落髮候て、臙而現俗之時之本にて候、落髮之まゝにて候時者、別のゑんひにて候、御用候ハ、可承候、從此方誘認可遣候、段子などにも仕候、其時分急候て、理を不申候、爲御存知候、恐々謹言、

九月二日

晴長(花押)

晴嵐齋御宿所

『上書』  
晴嵐齋御宿所

小笠原

晴長

(本文書ハ「旧記雜録附録二」一二七六号文書ト同文ナリ)

○當代十二个年之間不息政道、而天文二年癸巳十二月十六日、禪世務於忠重、爲隱居身、實四十三歲、同九年庚子三月二日、落髮禰齊於栖嵐、五十歲也、

○憑繪師之有其名者、寫己之影、而後扣前永平照山和尚之禪關、而請立號贊之贈焉、和尚既許諾矣、天文十六年丁未二月十五日、書寫以賜之也、其贊記左、

前永平照山叟贊之

于時天文十六年丁仲春十五日

誰知一手展開裏 提起雲門念七禪

眞面當頭正與偏 中門端的徹那邊

門之一數者云々、

公案破却一號拈得七仰之瞻之預洞

關偏正不墮有無之杭因識得一則之

于妓 鳳林道儀庵主遍扣曹洞之玄

鳳林道儀庵主

『在影』

恭以島津之後胤新納江州太守道儀庵主者、天分精爽、而有俊人之風規、祿位高官、德澤蘭馥、文經武緯、威風草偃、謂其柔則溫和、而如兜羅綿、謂其剛則直義、而似南賓鐵、吁蓋世之賢良冠一時者乎、加之理積善之名門、早學作佛觀現世之不實、便解修心、誠是眞俗不二之禪侶也、一日就予需雅稱書于鳳林之二字、以應其請賦于伽陀一章、以證德儀乎云爾、

聖代時清實字中九苞禽羽宿青桐二株、嫩桂成隣處  
枝葉蔭涼揚祖風 前膳永平青林老納書旃、

○天文七年戊戌三月廿六日、降島津豐後守忠朝、去志布志到飢肥矣、委曲記忠茂譜中也、

○天文十八年己酉二月八日卒、享年五十九、法名儀

道、號鳳林、

久秋

後忠安 次郎五郎 左兵衛尉 他腹、

○同姓上野介忠尊、依無世子爲猶子也、

女子

島津右馬頭忠廣室、早世、

母北郷尾張守女也、

忠郷

新三郎 式部太輔 字宿腹、○子孫記別紙、

○天文十年九月三日於山東戰死、

時宗

他腹、早世、

九代  
△忠茂

初忠重 四郎 永正七年庚午誕生、母伊東大和

守尹祐第二之女、妻島津薩摩守忠興第三之女

也、

『寫在新納久四郎入道宗心』

○今度滯留候之處、檢見之事執心之由候之條、免申

候、此以後者可被放犬候、恐と謹言、

『天文二年敷』

十月廿六日

小笠原刑部少輔源光清 (花押)

(新納忠茂)

嶋津四郎殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」二二九八号文書・三二〇八号文書ト同文ナリ)

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○仲陽之御大慶重疊、雖申亵舊候、猶以不可有分極

候、多幸と、抑如此之御祝言最前可及賀祝之處、

遠路延引此事候、從今春者弥と満快之由承及候、

以御同前候、仍而五明貳本進候者、眞と表御祝札

計候、萬吉、恐と謹言、

『天文五六ノ間敷』

二月十日

三郎左衛門尉貴久 (花押)

謹上

(忠茂)  
新納四郎殿御宿所

嶋津

『上書』  
謹上 新納四郎殿 御宿所 三郎左衛門尉貴久

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」二二九四号文書ト同文ナリ)

○先是天文四年乙未十月十日、前 太守勝久覽島沒

落之後、島津八郎左衛門尉實久、流涎於守護職、運

籌策於島津豐後守于時居・北郷氏于時居・肝付氏于時居

三家、而後來志布告催忠茂父子、忠茂父子敢不

承諾、於茲乎欲亡當家、使三家率多勢從三方來攻

居城者甚急也、不隨實久之催促者、其故何也、忠

茂父子專有欲仰島津三郎左衛門尉實久於守護之臆

念也、是以今也、欲請救兵於 貴久主、而無通价

使之路、雖然、使家臣刀迫囚獄助・柴主殿助忍赴

薩陽、經日州山中、主殿助先到隅州生別府、告件

旨於樺山氏、則以指南、送南方無恙到著、上達

貴久主、主報曰、聞忠茂之危急、忽欲發援兵、而薩

摩州之兵革未止、無如之何、是以不能、忠茂父子

運籌策爲和諧、宜逃今日之急難、不忘後日之得利、主殿助詳以反命矣、囚獄助未知死何之地惜矣乎、隨 貴久主之旨、

○天文七年戊戌三月廿六日、與豐後守既爲和睦、憑伊東氏、與母堂俱乘舟船遠經海路、到于山東佐土原、老父忠勝、賴豐後守、携二男忠常到于飢肥矣、丁此之時、當家之重器及文書悉以燒失、實是因仰貴久主之深心也、

○天文七年戊戌十一月十三日落髮、同十二月十日、參候薩州南方、而居覺島郡小野、其後賜隅州日當山、移居于此矣、

『在新納喜右衛門久盛』

○弘治三年丁巳七月覺島 御諏方居頭役之次第、新納四郎入道忠重ヲ題目トシテ同名各以談合相定者也、談合之座者、淨光明寺之宿殿也、此時代之御屋形貴久様に而御座候、

左 居頭

越後守忠誠之子  
十郎忠包後兵部左衛門尉後越後守ト云、

幣

紀伊守久景之子  
又七後四郎兵衛尉ト云、

右衛門兵衛尉ト云、

初獻

後 加賀守實久之子  
八郎忠秀後右衛門兵衛尉ト云、

二獻

駿河守後江釣ト云之次男  
宮内少輔後遠江守ト云、

三獻

典左衛門尉後因幡守ト云、

嶋津左兵衛尉殿内衆之相伴

後道休齋ト云、  
常陸介忠苗之次男  
又七郎後民部少輔ト云、

右 居頭

加賀守祐久之子  
刑部大輔忠元後武藏守ト云、

幣

後ハ一珪ト云、  
伊勢守康久之子  
又八郎

初獻

治部少輔之子  
八郎四郎忠秀後治部少輔後駿河守ト云、

二獻

尾張守忠光後山城守ト云之孫  
藤四郎忠明後總殿助ト云、

三獻

加賀守祐久之次男  
次郎五郎後五郎左衛門ト云、

相伴 兵庫介忠載之子  
民部左衛門尉後出雲守ト云、

○永祿四年辛酉十一月廿日卒、年五十二、法名芳林、  
號梅屋、

忠常

孫四郎 ○母同前、○子孫記別紙、

○天文十年九月三日於日州山東戰死、法號日山喜果、

忠賢

四郎次郎 左馬頭

女子

伊東權頭室、

○權頭死別之後在佐土原稱綱馬場、伊東氏沒落之  
時、島津左衛門督歲久之爲妾在鶴田産一女也、

聖道

女子

還俗而後稱如心齋忠明、

十代  
△武久

四郎 近江守

○享祿三庚寅歲於志布志誕生、

○去日當山而移薩州平泉、踵賜于日州富田居有年于

茲、

○天正年間不記何年以十月十九日、卒于富田、法名良宅、

號天祐、

季久

四郎五郎 右衛門尉

○村田越前守經定之猶子、

女子

十一代  
樺山太郎三郎規久室、

十一代  
△忠眞

四郎

○永祿七年甲子誕生于日當山、母大野駿河守忠元女、

○從嚴父移平泉又移富田、

○忠眞少而才藝超世遂二十歲、而發狂病矣、嗚呼天

喪斯人者乎耶、

○天正十五年當于 關白秀吉公征西之時、日州過半爲公領、故忠眞去乎富田來末吉胥處、其後移谷山水榑又姑移住莊內薄木野、而後住于菱刈市山、又從而居乎伊集院福山、終於踊三體堂之食邑卒、于時寬永十四年七月十八日、享年七十三、法名玄龍、道號臥雲、

「十二代」  
△久元

始忠在 新八郎 近江守

○忠眞無嗣故慶長四年春爲養子而相續于家、實島津

圖書頭忠長入道紹益之二男也、

○補百次薩州地頭職、

○慶長四年夏、伊集院源次郎忠眞據都之城、構十二之砦、而叛 太守忠在舍 嚴命到莊內勞軍務、翌年三月以忠眞下城之日歸陣矣、

○同五年庚子八月中旬久元發薩州赴伏見、途聞 義

弘公既加于石田三成之軍、直舉鞭而九月到濃州大垣、奉詔 義弘公、同十五日從軍乎 義弘公大戰

于關原、久元之家臣戰死者多矣、訖關西之軍敗東

兵乘克、久元爲敵離軍列向于伊吹山、而退過近江

路、艱難辛苦經數日到於京師、與喜入攝津守忠政

・川上助七・同久右衛門・伊集院彌六左衛門俱、

匿乎道正庵宗古之宅矣、久元之臣村原佐渡・滿尾

次右衛門・山下勝右衛門及輕卒清左衛門陪從之

矣、宗古怖東兵之遂搜索之、以告 近衛信尹公、

遣五士竄居公之營內、町田源六久則等亦先處于茲

矣、信尹公憐之芳情篤實也、加旃賜寶刀冶工一文字於

久元而后翌年三月辭京師歸國、

○同八年癸卯十二月移居眞幸院末永村、

○同十四年賜馬越地頭職、徙之由是改替末永采邑於

馬越・大口・曾木之內給焉、

○慶長十四年久元之兄河內守忠倍先父而卒、故久元

辭當家而繼實父忠長之家、故翌年六月二十六日去

辭當家而繼實父忠長之家、故翌年六月二十六日去

馬越移宮城、

十三代  
△忠影

又助 近江守

○久元辭當家故連續之、實島津備前守忠清子也、

忠清者 島津薩摩守義虎之三男也、長兄又太郎忠辰、於朝鮮連秀吉公之命而見沒敗乎所領、忠清以兄之故被預小西行長、在肥後州有年、關原役行長死後歸于薩矣、忠清妻子肥後士皆吉久右衛門續能之女、生一女一男也、女 太守光久公之御母男即忠影也

○慶長九年甲辰誕生、

○忠影食采地千二百五十石 千石在菱刈郡市山、二百五十石者散在鹿島郡川上村・吉野村・西田村、且桑 而後令減諸士各々所領之地四分之一、原郡吉松之內

收公當此時忠影全領九百四十三斛 五百二十石在于伊集院福山、其餘在粟野・羽月、日當山之內嘉例川等

○或時忠影列犬追物射手、拜領鞍馬一匹 所敷之鞍 號武藏鞍、短刀一腰、

○忠影不幸短命而以寬永五年戊辰十二月二十九日卒、實二十五歲也、法緯宗智、號大鑑、

十四代  
△久辰

千代菊 四郎 近江 四郎左衛門 又改近江、入道名達心齋、

○嚴父沒後寬永六己巳歲正月二十日誕生、母同氏右衛門佐久詮女、妻同氏刑部忠秀女而後離別、

○久辰始生則 太守黃門家久狂 尊駕見之於產室賀之曰亡父之後無相違即賜焉、母宜令孤長謹莫怠云云、

○光久公之母堂者久辰之伯母也、以故 家久公殊憐久辰在襁褓之中奉近昵乎、公之膝下數回也、

○同十一年 太守公之領國齊正經界、而改替於諸士之采地焉、久辰豫蒙 國命云有所欲之地告之矣、  
僉曰一所之地者爪有城今才雖食一村不可無城也、夫隅州踊之內三代堂村者雖不田地多、而有萩之峯城之可矣、以請之地、故變換伊集院之內福山村、大口之内市比野村、以賜三代堂村 高六百解之地也餘高三百解於飯野之內領 其地方東西三十二町四十間、南北四十四町三十間

總準一所拜受之地、

○茲年寬永十六己卯 太守光久公相續家督、始入國

矣、久辰時十一歲、登 城元服、 光久公加冠、

獻殿上折六合柳樽三荷、改幼名稱四郎久辰、三原

左衛門重庸理髮、

○十五歲而補一番組頭此時分組十番  
後合爲六組 後爲六番組頭、

○光久公欲於江都張行犬追物、久辰爲射手、正保二

年十二月發覺府赴東武、翌年丙戌四月七日、招

幕下之大老及旗本大名・小名於芝之宅地行之、久

辰在列而射之、實十八歲也、是爲所備

大樹家光公之高覽先試之也、遂同四年丁亥十一月

十三日、於武城(アヤ)王子村興行犬追物以見奉備

大樹之台覽、久辰再從 太守到于江戶列射手、時

改近江號四郎左衛門、忝此日賜饗應于射手之人數

也、同十六日 太守登 營、犬追物射手皆供奉、

是兼有 嚴命故也、時久辰與諸射手同奉見

大樹拜戴御服二重、十二月二日 太守引射手之輩

上 便殿令奉見 若君大納言家綱公、時拜給御小

袖三領矣、 太守亦賀大營無故障賜白銀三葉、

○久辰以新納家之所以然、訴改年頭御太刀進上著座

之次序于 光久公、依之三箇年一度許佐多家之座

位三番座主居上席也、素新納家著於四番座之主居

上席、以故今如斯新納就于三番座則佐多  
就于四番座之席

○光久公容久辰之訟、延寶五年三月十九日賜采地三

百斛・白銀十二貫目、且命以評定所詰並口事場詰

橫目頭・組頭等之役既動組頭中辭  
之故及于茲

○同六年丙午九月被 嚴命監琉球國之事、

○久辰壯歲而補吉松地頭職、轉補松山・穎娃・高山

等之地頭高山地頭在  
職二十一年

○雉髮號達心、

○正德三年癸巳十月八日死去、年八十五、法名揚德

院達心太譽居士、

—女子



山田彌九郎有英妻、

十五代  
久珍

德千代 四郎 四郎左衛門 美作 市正

○寛文五年乙巳十月二十八日誕生、母同前、

○延寶五年四月朔日 太守光久公手自加冠德千代、

號四郎久珍、時賜脇刀一腰、島津出雲久竹理髮之、

○貞享三年閏三月十六日 太守光久公命久珍以評定

所誥・口事場誥之役、

○同五年九月二十三日 太守綱貴公以久珍補橫目頭

役今大、  
目附

○元祿八年正月二十五日監國遺座今勝、  
手方

○同十年六月十日補家老職、

○同十一年十一月二十七日監琉球國之事、且賜隅州

高山之地頭職、

○同十三年三月十五日 綱貴公參府于江都登 柳營

之時、久珍供奉而奉見

將軍家獻上御太刀・馬代・御衣服等矣、

○寶永七年庚寅二月十日死、年四十六、法名興雲院

白室禪龍居士、

女子

五代勝左衛門友昌妻、○母他腹、

十六代  
久邦

滿千代 發千代 助四郎 四郎左衛門

○元祿六年癸酉五月十七日誕生、母高崎權太夫能冬

女、

○同十四年十一月十五日 太守綱貴公手自加冠發千

代、號助四郎久邦、賜脇刀一腰、佐多豐前久遠爲

理髮矣、

○正徳三年三月二十五日肝付主殿兼柄傳 高命曰、

當家自今以往嫡子代代實名免許久之字、二男以下

不許焉、以時之字宜爲實名之字、仍賜時之字證帖、

故氏族僉改時字、

○此家至家督及繼目之儀、拜謁 太守公、則奉獻御

太刀・馬代三種二荷、

久基

彌次郎 又作 孫四郎

○元祿七年甲戌七月十三日誕生、母同前、

○爲島津備前忠清之後嗣、

女子

島津玄蕃忠直室、忠直死去之後歸家、

女子

○母妾腹、

新納氏庶流

忠郷

新三郎 式部大輔 宇宿腹、

○新納家七代家督近江守忠武之二男也、

○天文十年辛丑九月二日於山東戰死、法名竹翁道松、

忠衡

新三郎 式部大輔

○永祿七年甲子七月十七日於福島院桂原戰死、法名

匡壁忠衡、

忠朝

源八郎 式部少輔

○新納紀伊守久景依無世子連續夫跡者也、

忠頼

新三郎 佐左衛門尉

○天正十七年己丑十一月八日誕生、母春山元稱 熊谷越中

直定妹、

○忠衡之一子式部少輔忠朝連續久景之跡、因茲忠衡

之跡將斷絕、是以連續夫跡、實式部少輔忠朝之二

男也、

○萬治二年己亥七月七日死、年七十一、法名休山宗

知居士、

久建

初久春 龜千代 次兵衛 次郎兵衛

○寛永十年癸酉誕生、母隅州國府士黒川新五兵衛女、

○寶永五年戊子四月十五日死、年七十六、法名齡翁

壽椿居士、

女子

○母同前、

○幸子 光久公生女子三人、

女子

○母同前、

女子

阿多郡伊作之士篠原宗右衛門政辰妻、

○母同前、

久長

初久州 中久澄 源五郎 紀伊之介 源八

九左衛門

○正保四年丁亥二月十九日誕生、母同前、

○寛文五年奉 鈞命爲町田七郎左衛門忠弘之猶子、

號町田紀伊介在於彼家、經十餘年、延寶四年有

故違變町田家歸本氏、

○元祿十六年癸未十二月二十九日死、年五十七、

法名固山壽永居士、

女子

三原總兵衛種峯妻、

○母宇宿若狹守久廣女、

時祐

初忠顯 源五郎 源左衛門

○延寶六年戊午十月二十二日誕生、母同前、

久清

松千代 前後

○貞享元年甲子八月十四日誕生、母同前、

○寶永二年乙酉十二月六日年二十二死、法名一空賢

心居士、

時庸

初久寬 中忠見 新三郎 次兵衛 太右衛門

○萬治四年即寬文元年也辛丑五月十二日誕生、母鹿兒島郡

吉田之士武仁右衛門盛秀女、

○此家至于初及家督等之時、拜謁于 太守公、則奉

獻御太刀、且勤小番、是家格也、

○此家避於久忠之字、以時之字可爲實名字、家嫡四

郎左衛門久邦受 命傳之、故用時之字、

女子

德永善左衛門親商妻、

○母同前、

政賢、

江兵衛 伊右衛門

○寬文十年庚戌十月二十三日誕生、母同前、

○爲篠原七之丞政壽之養子、

新三郎

○母伊集院休左衛門俊亮女、

○元祿三年庚午九月六日夭亡、法名幻秋童男、

時用

初忠雄 龜千代 次兵衛

○元祿五年壬申二月二十二日誕生、母同前、

時香

初忠廣 宗八

○元祿八年乙亥二月六日誕生、母同前、

時春

佐之助

○元祿十一年戊寅四月十二日誕生、母同前、

與右衛門 夭亡、

○母同前、

時胤

善八郎

○寶永六年己丑八月二十五日誕生、母同前、

忠常

安千代丸 孫四郎

○母伊東大和守尹祐女也、

○新納家八代家督近江守忠勝之二男也、

○天文十年辛丑九月三日於日州山東火柱戰死、法名

日山喜果居士、

忠充

初忠職 安千代丸 四郎左衛門 栖雲齋

○母島津備中守忠秋女也、

○當家之文書不泯所存記左方矣、

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○ 返く鞍之事畏入候、拙者致覺悟者、其方へ召

置候、同前候歟、殊自市來も所望候哉、それ

もさし馳され候て、此方之一書相またせられ候よし〔御〕懇之至候、

好便之条、令啓入候、仍而本所之鞍大望之由申候處、可罷任盡意之由承候、尤目出存候、如何様近日中可遣使者候之間、先く御案内申事候、乍萬端申度急候之条不能一二候事候、恐く謹言、

五月一日 武久（花押）

新納四郎左衛門尉殿御宿所

『上書』

新納四郎左衛門尉殿御宿所 同名近江守 武久

（本文書ハ「旧記雜録附録二」一七九号文書ト同文ナリ）

『正文在新納三河忠徳入道楚弓』

○ 猶く於鹿之屋御見參共満足候、又くも父子共

ニ御越候へなど候ハ、能候事候、日記等

御談合專一候、八月者鹿へ可致祇候候之間、

猶く頼存候由、伊右衛もしへ可申候条、如何

様く時儀能罷成由候、次者肥州番衆無何事  
罷歸、目出候、長田へ御傳言申聞せへく候、  
兼く一中風無尔候之由承、笑止まてにて  
候、一途之御療治專一候、來月來く月之間に  
ハ、必御越之儀共候へかし、日記共尋申度  
候、又御息之儀、彼是談合申へく候、又忠真  
拙子めいづれも御傳筆かしこ入候よし申せに  
て候、如何御氣分之由不承候て、菟角申さす  
候、驚人候、先く御心得頼存候、内よりも申  
され候、隨而者長光之刀之事、從方く仰之儀  
共候哉、數年拙子ニ可預候之由仰候而、於御  
違篇者各家く可爲假瑾候之条、非是非候、  
仰之様者、從四月脚氣出合候て、漸此十日計被助  
杖、家中步行申候、さ様之儀被聞召付候て、預御  
禮候、寔御懇志之至候、將又御身上之事、去正月  
鹿兒嶋へ拙者祇候申候砌、同名右衛門兵衛尉殿へ  
(案カ)  
以秀敷頼存候、其御返事と候てハ、涯分可被添御

心候之由、伊右衛もし被仰候、其後雖申通度候、  
依無便候申後候、殊更芦北口一途之御行候ハ、  
所領等之取沙汰可有之候、其砌一入可致調達候事  
候、恐く謹言、

六月廿六日

武久(花押)

『上書』

同近江守

新納四郎左衛門尉殿御返報

武久

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」一二八〇号文書ト同文ナリ)

131

『正文在新納三河忠徳入道楚与』

○ 猶く判形之儀、

承候条、任仰候、

累年長光之事致堅束候之處、今度令安堵候、大慶  
不過之候、然者爲其御禮領地一町令進覽候、當時  
者如此向後者如法上契約申候条、可有格護候之  
間、吳儀有間敷候、猶三左衛門尉可被申候之条、  
閣筆候、佳事、恐く謹言、

『正文在新納三河忠徳入道楚与』  
 ○如仰先日者爲御禮新三郎殿御參上候、則取成申

『上書』  
 新納四郎左衛門尉殿 近江守武久  
〔本文書ハ「旧記雜錄附録二」一二八二号文書ト同文ナリ〕

菊月六日 武久（花押）  
 新納四郎左衛門尉殿御返報

『上書』  
 新納四郎左衛門尉殿御返報 同近江守 武久

〔本文書ハ「旧記雜錄附録二」一二八一号文書ト同文ナリ〕

『正文在新納三河忠徳入道楚与』

○御次男契約申候条、徳坊地之門之事、永代可進  
〔宗俊之事也〕  
 旨、違篇有間敷者也、仍狀如件、

菊月六日 近江守武久（花押）  
 新納四郎左衛門尉殿

候、就左様之儀預御禮候、忝畏入存候、隨而岩川  
 御領地之事、於弥々可爲御満足之条、是又不及申  
 候、將亦其堺御辛勞之儀、從是奉察候、併期面上  
 之時候、恐々謹言、

八月十一日 忠倉（花押）

新納四郎左衛門尉殿御返報

『上書』  
 新納四郎左衛門尉殿御返報 伊集院掃部助 忠倉

〔本文書ハ「旧記雜錄附録二」一二八三号文書ト同文ナリ〕

『正文在新納三河忠徳入道楚与』

○去大永七年丁亥依隅州亂劇、本田方爲與力、於社家  
 遂合戰、御神敵罷成、依其咎、新納之家風如此  
 候、古語云、例地者依地生云、然者 正八幡大菩  
 薩以御哀憐、此家可繁昌事無疑者也、抑爲清御寶  
 前、就百度之御祓之儀、澤殿頼入候、依御神徳  
 安千代丸分限罷成候者、應田數御供米可致進獻也

仍願文如件、

天文十一年壬寅十二月十五日

(新納忠元)  
藤原安千代丸

『上書』  
正八幡願文

草案

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二四四五号文書ト同文ナリ)

○天正十二年甲申七月六日於日州梅北死、法號俊聰  
道鷹居士、

— 女子

新納美作守教久妻、

— 女子

北郷讚岐守忠虎妻、

— 久徳

初忠陸 安千代 孫四郎 四郎右衛門 三河守

入道名楚弓、

○永祿十一年戊辰二月二十七日誕生於日州福島、母

日置周防助久達女、

○明曆三年丁酉八月二十一日死、年九十、法名松岩

常清居士、

— 久和

小法師 宗俊

○母同前、

○久和自早歲雜髮爲眞言宗、及壯年還俗而奉仕于

太守家久公、

○寛永十五年戊寅七月二十日死、法名權大僧都宗

俊、

— 忠興

初忠成 治助 茂左衛門 彌兵衛 武左衛門

○寛永元年甲子三月六日誕生、母新納助右衛門女、

○宗俊依無世子爲猶子、實新納彌兵衛久篤之長子

也、

○延寶八年八月任奏者番役後改吟、味役



○同年十二月十三日賜薩摩郡東郷之地頭職、  
 ○貞享二年二月任琉球國在番職、同月二十二日航  
 琉球國矣、  
 ○同三年七月二十四日於琉球國死、年六十四、法  
 名碧波虛玄居士、

松千代

早世、

○母時任清左衛門秀茂女、

男子

早世、

○母同前、

男子

早世、

○母同前、

女子

左近允五左衛門尙房妻、

○母同前、

女子

鎌田嘉左衛門政常妻、

○母同前、

女子

肝屬諸右衛門兼起妻、

○母同前、

時郷

初久隨 宮龜 治助 武左衛門

○延寶四年丙辰十一月五日誕生、母同前、

○此家至初及家督等之時、拜謁于 太守公、則進

獻御太刀、勤小番是家格也、

時赴

治助 宗右衛門

○元祿十三年庚辰十二月十七日誕生、母山口甚九郎

直張女、

時

釜千代

○正徳二年壬辰十月晦日誕生、母篠原喜右衛門篤恆女、

久篤

孫四郎 民部左衛門 彌兵衛

○慶長六年辛丑誕生、母新納民部太夫女、

○新納助右衛門子吉次早世、而無世子故爲猶子、妻吉次之妹連續夫跡、

忠村

安千代 愛徳 四郎右衛門

○元和五年己未六月二日誕生、母同前、

○兄久篤連續吉次跡、故忠村相續家、

○元祿二年己巳閏正月四日死、法名秋潭獨月居士、

久壽

松千代 五左衛門

○寛永十六年己卯十一月二十三日誕生、母隅州鹿屋士三浦幾右衛門義信女、

○元祿六年二月十三日爲奉謝繼目相續之辱奉謁 太守綱貴公、獻上於御太刀矣、

○寶永七年庚寅閏八月十日死、年七十二、法名不別傳居士、

久現

善次郎 八兵衛 宗祝

○正保三年丙戌十一月十五日誕生、母同前、

○寶永四年丁亥二月十五日死、年六十二、法名石峯自徹居士、

時起

初忠起 鐵牛 傳右衛門 平内

○萬治元年戊戌七月五日誕生、母同前、

女子

○母伊集院休右衛門久能女、

時之

初忠寬 八十郎 八兵衛

○貞享元年甲子十二月六日誕生、母同前、

彦六

天亡、

○母同前、

女子

○母同前、

時長

平七

○元祿七年甲戌十二月七日誕生、母同前、

久治

初久當 松千代 孫四郎 四郎右衛門

○寛文九年己酉正月二十八日誕生、母島津將監久當

家臣久保半右衛門之直女、

○天和四年正月十五日初奉見 嗣君綱貴公、獻上於

御太刀矣、

○寶永四年丁亥八月九日死、年三十九、法名悟峯道

徹居士、

時苗

初久年 善次郎 木工右衛門

○寛文十三即延寶元年也癸丑八月八日誕生、母同前、

時香

初久珍 甚五郎 源右衛門

○延寶七年己未十月十四日誕生、母同前、

時方

初久芬 權平 甚右衛門 權右衛門

○天和三年癸亥三月十八日誕生、母同前、

時相

安千代 八之丞 四郎次郎

○元祿十二年己卯八月二十九日誕生、母中西金兵衛

秀延女、

○寶永五年三月朔日初奉見 太守吉貴公、獻上於御  
太刀矣、

○父久治不家督蚤死、故時相直連續祖父久壽之跡、

○此家避於久忠之字、以時之字可爲實名字、家嫡四  
郎左衛門久邦受 命傳之、故用時之字、

○此家勤小番、

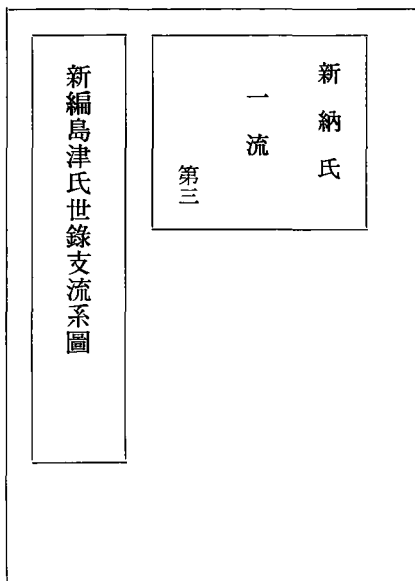
時峯

愛德

○元祿十五年壬午九月二十一日誕生、母同前、

新納氏

(家系)



新納氏支流系圖第三

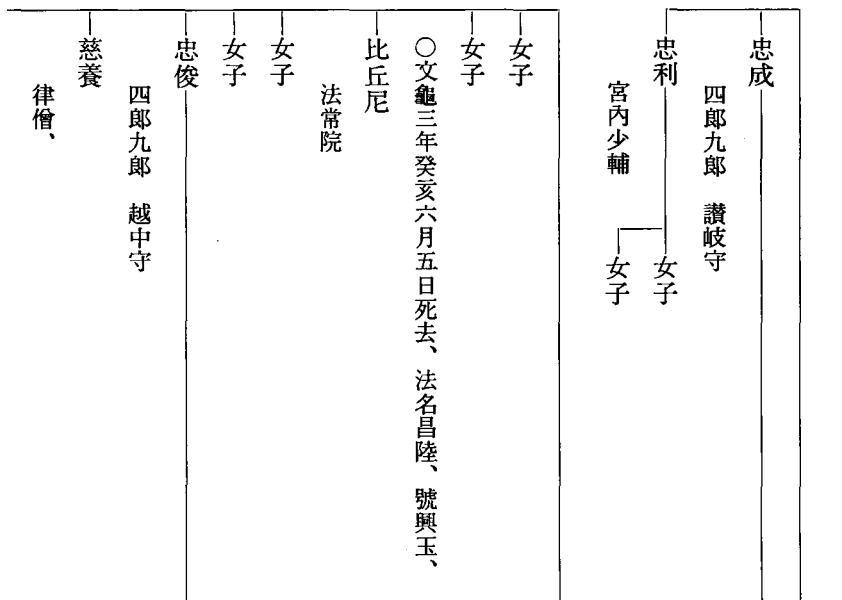
久有

號西谷、四郎九郎 他腹、

○元祖近江守時久長男、二代越後守實久兄也、

久信

四郎九郎 讚岐守



宮内太輔

久堅

八郎四郎 右京亮 出雲守

○志布志没落之時出奔、

八郎四郎

宮内少輔 ○北郷氏爲家臣、

女子

北郷右衛門兵衛尉室、

忠城

四郎九郎 式部大夫 讚岐守 ○松山城主也、

○<sup>(享)</sup>享祿元年五月一日、於莊内中郷凉水、父子共戰死、

僧

他腹、

忠吉

又五郎 五郎左衛門尉 武藏守

○天文十年於志和知戰死、

忠鎮

四郎九郎

○<sup>(享)</sup>享祿元年五月一日、於凉水與父俱戰死、

女子

島津山城守忠聖室、

女子

初太郎

松山没落之時出奔、

僧

巨山寺、

久吉

號大崎、八郎三郎 尾張守

○新納家二代家嫡越後守實久他腹之長男也、久吉應嚴親實久之命居住大崎城、故少時號大崎、

久秀

初忠秀 文五郎 將監

○長祿三年己卯七月三日於三侯小山戰死也、七郎右衛門尉

忠直

播摩守

忠安

出羽守

○高隈之主也、

○當家志布志落去之時父子共出奔、

尾張守

女子

北鄉出羽守久藏妻、

播摩守

○初住高隈之際姉嫁北鄉出羽守久藏、依其緣由北鄉氏爲家臣居住梶山、子孫於今在都之城、

久利

右馬助

女子

久綿

初久乘 次右衛門尉

○隨北鄉長千代丸移祇答院、自彼地爲北鄉作左衛門尉三久從軍、渡朝鮮國於夫地戰死、年二十五、

女子

都之城久保田越右衛門妻、

久盛

新左衛門

○母都之城轟木淡路秀利女、

○寛文八年九月八日死、法名心月壽鎮居士、

久知

文四郎

○母都之城久保田越右衛門女、

○寛文十二年七月二十六日死、法名淨屋宗清

居士、

女子

都之城財部權兵衛盛政妻、

○母同前、

時勝

初久遠 三左衛門 分左衛門

○正保三年三月八日誕生、母北郷家臣立本早

馬助女、

○太守吉貴公降嚴命曰、島津氏之餘裔爲陪臣

者可避直別之家號、雖然若其主人直別家或

附與之家或於其主人家抽忠勤者、其家嫡子

代代免許直別之家號、洩制法者不許之、於

是正德四年秋家嫡四郎左衛門久邦傳令曰、

於時勝家先祖次右衛門久綿爲北郷家陪臣遂

戰死、以故時勝嫡子代代免許新納之家號、

二男以下可改家號於邦永也、

女子

都之城家臣高橋休右衛門充廣妻、

○母都之城家臣立山孫兵衛利次女、

久次



四郎助

○寛文十二年九月十日誕生、母同前、

○貞享三年十二月十三日死、法名清山如月信士、

女子

時明妻、

○母同前、

時明

初久長 太兵衛

○延寶八年三月二十三日誕生、母隅州福山士平

原左近兵衛重賢女、

○時勝一子四郎助久次早世、而無嗣故爲養子、

實都之城家臣野邊彈右衛門盛世之二男也、

民部太輔

○根占七郎重武之娶息女居住根占、豐後發向之時

重武爲軍代赴其國、於朝日嶽遂戰死、

忠長

右馬助 伊勢守

○平房城主也、當家志布志落去之時、近江守忠勝之

爲扈從居其所、

忠源

又五郎 尾張守

忠通

新左衛門

忠泰

丹波守

○夏井城主也、丁陷夫城之時父子共戰死也、

久貴

初忠知 清左衛門尉 越後守 法名壽阿、

照山

幸善寺住持、永平東堂、

忠藏

初忠慶 藤四郎 但馬守 民部少輔

○當代爲北鄉讀岐守忠相家臣、子孫在都之城、

○永祿十一年二月二十一日北鄉時久爲援島津豐

後守忠親遣兵於猷肥、時伊東氏遮之戰于篠个

峯、北鄉家軍不利、而一族家臣鬪死者多、此

時民部少輔亦遂戰死、法名義舜善忠、

久家

女子

久持

越後守 齋名加竹、

○法名實山玄眞、

久清

甚右衛門 七郎右衛門

○法名松憲淨貞、

陽傳

都之城龍峯寺住持、

女子

都之城財部木工之助妻、

久尙

源左衛門

○母村田式部少輔經房女、

○相續於南鄉之家、

女子

都之城北鄉新左衛門久滿妻、

○母同前、

久住

初久繩 或久住 新三郎 甚右衛門

○母同前、

○慶安二年五月二十一日死、法名祖栢了意、

女子

○母都之城家臣龜澤彥兵衛秀信女、

女子

○母同前、

時房

初久通 次兵衛 平左衛門

○寬永六年五月十日誕生、母都之城家臣龜澤彥

兵衛秀信女、

○久佳無世子以故爲養子、實都之城家臣大峯喜

兵衛兼元之嫡男也、

○此家先祖民部少輔忠藏爲北郷家之臣遂戰死、

其忠勤無紛以故正德四年秋家嫡四郎左衛門久

邦傳令曰、於時房家嫡子代代免許新納之家號、

到二男以下者以邦永可爲家號矣、

○正德四年八月七日死、法名南秋宗壽居士、

久次

吉次郎

○延寶四年八月十九日誕生、母日州高原土高橋助

六女、

○元祿三年七月二十五日死、法名無參俊量、

女子

時喜妻、

○母同前、

女子

○母同前、

時喜

初久廩 吉彌 六左衛門

○延寶七年十一月二十三日誕生、母都之城家臣

本田佐介親廣女、

○時房一子早世、以故爲養子、實都之城北郷平

右衛門久敬之二男也、

時以

孫八

○元祿十三年十月六日誕生、母時房女、

時用

號邦永、甚五

○寶永五年正月十六日誕生、母同前、

忠持

宮内太輔

忠虛

或忠康 丹波守 無子孫、

忠親

越後守

忠眞

播磨守

女子

又八

出羽守

又七

女子

忠弘

右馬頭 伊勢守

○天文十年九月三日於山東戰死、

忠友

初久利 尾張守

○梅北城主也、

○享祿元年五月一日於莊内冷水戰死矣、  
(享)

忠征

又五郎 河内守 尾張守 山田腹、

○大崎城主也、

○弘治元年九月五日於日州目井戰死也、

忠照

河內守

○弘治元年九月五日目井之城沒落之時與父忠征俱戰死、

彥四郎

○忠照依無世子爲猶子連續夫跡也、

○北郷氏爲家臣今無子孫、

忠氏

又七郎 安藝守 入道名永看、

○恆吉城主也、

○天文七年戊戌七月二十六日宗領近江守忠勝沒落志布志、時忠氏因妻女之緣、隨身肝屬河內守兼續入道省鈞、而後爲大崎地頭、

○天正四年丙子十月朔日永看與藥丸孤雲肝屬兵部、

共將肝屬家之士卒師飲肥南郷、戰不利遂戰死、法名永看居士、

忠盈

又八郎 狩野介

○於飲肥南郷、興兄忠氏俱遂戰死、年三十也、

女子

大始良總職富山大藏房妻、

忠成

外記 入道名自看、

○若年時爲伊集院右衛門大夫忠棟入道幸侃之臣、

幸侃誅戮之後經三个年、而爲島津又四郎忠仍之

臣子孫在垂水、

○志布志大慈寺現住龍雲和尚患忠盈戰死無其後、而欲立後嗣、達之於新納氏家督乃拙齋遊甫等之老舊、所以使忠成爲彼跡、實富山大藏房長男也、

○若年事幸侃、則稱父姓富山、壯年事忠仍、則冒  
養父之姓新納也、

○慶安五年壬辰即承應元年也六月二十五日死去、年七十八、

忠春

才十郎 才兵衛

○元祿五年壬申十一月二十三日死、年八十四、法

名活眼宗漢、

女子

垂水關屋掃部左衛門妻、

時清

號邦永、初忠伯 市介 道醉

○明曆二年丙申十月二日誕生、母垂水榎山源右衛

門重次女、

○忠春依無嗣子爲養子、實垂水榎山喜介重種嫡男

也、

○正德四年八月十八日於時清家、自今以後避新納  
之家號、以邦永可爲稱號、家嫡四郎左衛門久邦  
受命傳之矣、

時之

初久序 才十郎

○天和三年七月二十八日誕生、母垂水川井田休右

衛門女、

時秀

仙兵衛

○元祿五年五月二日誕生、母同前、

時

市介

○寶永六年十二月十一日誕生、母垂水川井田新兵衛

女、

忠家

又八郎 勘解由次官

○太守義久公賜新恩地、且補恆吉地頭職、

○天正十四年丙戌十二月七日攻豐後俊光城之時遂戰

死矣、法號宗香上座、

女子

日州莊內梅北上柱大宮司梅北刑部少輔兼隆妻、

忠鎮

初忠氏 孫七郎 利兵衛 善兵衛 入道名宗看、

○忠家依無世子爲猶子、實梅北刑部少輔兼隆之長男

也、

○忠氏幼稚之時新納武州入道拙齋養育之、至壯年爲

大口土居住夫地、

○寬永十七年庚辰八月十四日死、法名松永俊明居士、

忠知

初忠昌 孫七郎 勘解由 覺右衛門

○慶長十二年丁未誕生、母大口土丸田筑後祐次女、

○天和三年癸亥七月二日死、法名梅室安秀、

忠致

初久眞 中忠眞 虎千代 七左衛門

○寬永三年丙寅誕生、母大口市上井肥後兼陸女、

○寶永二年乙酉正月十一日死、法名九庵意冊、

重好

長三郎 母同前、

○爲大口土市來清左衛門家次之養子、

女子

○母同前、

時方

初忠豐 中忠珎 勘七 七郎右衛門

○慶安四年辛卯十一月二十五日誕生、母大口土久保

筑右衛門之清女、

○此家避於久忠之字、以時字可爲實名字、家嫡四郎左衛門久邦受令傳之、仍改時字、庶族僉同矣、

女子

鹿兒島土谷山六左衛門忠高妻、

女子

大口土貴島彌兵衛妻、

忠次

勘兵衛

○延寶七年己未誕生、母大口土横山榮右衛門秀子女、

○天和三年癸亥十月二十七日死、法名心霜禪童子、

忠朝

與七郎

○貞亨<sup>(享)</sup>元年甲子六月二十七日誕生、母同前、

○寶永三年丙戌九月二十六日死、法名松庵玄貞、

時住

初忠兼 十右衛門

○元祿八年乙亥十月三日誕生、母隅州栗野土田上十郎兵衛雅秋女、

時成

與八郎

○元祿十二年己卯七月十九日誕生、母同前、

新納氏支流系圖第三之三

久顯

號惡四郎、八郎三郎

○二代家督越後守實久二男、母肝付氏女、妻佐伯氏女也、

○雖爲嫡男有故去志布志、先往肝付後適佐伯居于此矣、

○有其故於佐伯被誅戮也、法號道山玄顯、

○三男忠臣爲家督、於茲久顯惡靈惱當家者類也、由



是崇其靈先稱荒人神、後號江林大明神也、

忠奉

十郎 兵部大輔 越後守 母佐伯氏女、

○若年之時爲僧、從佐伯下向于志布志、在大慈寺之際、依 太守氏久公之命、還俗改黑衣以爲十郎忠奉、且復補三俣・高城地頭職、賜新恩六十町之地、居住于三俣也、

『正文在新納喜右衛門久盛』

○惡四郎久顯公ハ新納ノ家督タリシカ共、求仁院退出ノ義ハ故アリ、安樂ニ善護庵ト云寺アリ、此寺ニ招請被申砌、小者共アマタ居タリケルカ、庭前ノ花壇ニカヽリ花ヲ多手折ケルヲ、久顯公御覽有テ腹立シ給ウ、然處ニ中野左衛門尉ト云人は見テ、主人ノ義ニハアママリ輕ク敷御氣色トテ、彼花桶ヲ手折取セケレハ御腹立尤也、御座ヲ立ントシ

玉ウ處ニ、各袂ニ取付留被申也、少御座有テ、ヤカテ如志布志御歸候之處ニ、左衛門尉之親對馬守是由承付、人數召烈如安樂被參ケルニ、六月坂ト云所ニテ被參會也、久顯公打笑給イ、今日イツモノ酒狂ヲコソ申テ候へと被仰ケレハ、對馬守被申様ハ、左衛門尉緩急申之通承付候、腹ヲ切セ申サント存知參候ト被申ケレハ、久顯公サヤウニテハナシ、只我等酒狂ト被仰候て、城へ歸リ給ウ也、其時ノ内城ハ松尾之城也、對馬守之役所ハ今ノ性法院也、其ヨリ是ヲ基トシテ、内之衆もソシリヲナスニヨリ、志布志ニ離給ウト申傳ルナリ、久顯公之御母ハ肝付殿姫也、依之先如肝付退出也、久顯公ハ佐伯殿習也、然間肝付ヨリ佐伯ハ被越滞在也、有去子細、於佐伯生害ナリ、其後久顯公之舍弟忠臣ヒト公ヲ新納之家督トス、此代ニ久顯公依成給崇、荒人神ト祭給ウ、江臨大明神是也、今貴所之御披官大岩根宮フイハネ内少輔方ヨリ御筋目之由來先年尋

候間、凡物語如此申候ツ、又ハ久顯公ノ御子十郎

忠泰之夏、出家ニ可有御成トテ佐伯へ御座候シヲ、

「玄久齡岳ノ御事也」

御屋形氏久様被聞召付、元俗候へト依仰被任上意

候、烏帽子名ハ四郎タルヘク候へ共、忠臣家督

トナラレ候間、又ムツカシクモヤト候而、少御

(アツ)

思唯共候處ニ、内田十郎ト云年來之人申事ニハ、

乍恐我等養育申候条、只先吾等カ名ヲハ如何ニト

申ケレハ、氏久様尤可然ト被仰候て、十郎殿ト

申候、早竟只氏久様之可爲御末子之由上意ニテ、

ソコヨリ庄内三俣之内名々六十町御給候而、三俣

高城東五百町之衆頭ニ御定候也、是ハ誰モく御

存知之前ニ候、萬々書付タル日、日記ノ中ヨリ見

出申候、御尋之間書記令進候也、

とゞめをくを見てもわするな筆のあと

あハれなからんのちの世までも

永正十六年九月重陽日 中野安房守威信(花押)

新納越後守殿

(孝久)  
參

(本文書ハ「旧記雜錄前編」一九二一号文書ト同文ナリ)

○文明元年十二月八日死、年八十一、

忠通

十郎四郎 太郎左衛門尉 他腹、

忠房

十郎四郎 山城守

忠近

十郎四郎 中務少輔 早世、

女子

早世、

忠親

十郎三郎 刑部少輔 知覽腹、

○此家之家督相續而三俣高城之地頭也、

○明應三年甲寅六月十二日於志和池野頸戰死、

女子

久次

又十郎 八郎左衛門尉

○母同前、

忠雄

又十郎 十郎左衛門尉 駿河守

○弘治二年丙辰六月二十日戰死、

女子

山下某妻、

女子

忠厚

十郎四郎 十郎左衛門尉

○天文十年九月三日於山東戰死矣、

女子

孝晴

十郎 十郎左衛門尉 常陸守

○母同前、子孫記別楮、

忠成

又十郎 左衛門尉 他腹、

○子孫記別楮、

女子

新納伊勢守友義妻、

女子

孝久

十郎 兵部太輔 越後守

○母肝屬氏女、

○八月二十六日於横川死、法號儀朴盛忠、

信久

十郎次郎

○母同前、子孫記別紙、

久明

十郎四郎 刑部 將監

○子孫記別紙、

出家

○三侯院石山寺住持、

女子

○川上上野介母、

女子二人

忠堯

十郎

○母肝屬越前守女也、

○十一月十九日於横川死、法號舊甫源新、

其阿

○曾於郡念佛寺七代住持、

○母朝倉氏女、

眞乘書記

○母同忠堯、

重阿

○曾於郡念佛寺八代住持、他腹、

女子

女子

忠誠

十郎 治郎少輔 越後守

○永正七年庚午誕生、母大寺壹岐守安勝女、

○此代初爲 貴久公之旗下、

○永祿六年癸亥九月三日於鹿兒島死、年五十四、法

名稱阿、

女子

忠包

十郎 兵部左衛門尉 越後守

○母敷根備中守賴愛女也、

○補隅州始羅郡山田・薩州隈之城等地頭職、

『正文在新納喜右衛門久盛』

○京儀調之事ニ付て、國本御置目等、弥可相續御談合可在之時節ニ候之条、鎌田出雲守差下候、於様跡者口上ニ相合候間、遂熟談、各入魂肝要候、諸地頭衆へ銘々可申候へ共、急候而無其儀候、爲兩人相心得不洩可申渡候、猶出雲守可申候也、謹言、

二月廿日

義弘(花押)

伊地知伯耆入道殿

新納越後入道殿

(本文書ハ「旧記雜錄後編三」五八一号文書ト同文ナリ)

○文祿元年壬辰八月二十日死、法號滿盛源充居士、

女子

中野四郎左衛門家信妻、

教久

十郎 兵部左衛門尉 狩野助 孫右衛門尉 入

道名昨少、

○母深野越後守義弘女也、

○補日州野尻之地頭職、

○奉 義弘公之嚴命航朝鮮國在陣有年、此時所賜之

貴翰記左、

『正文在新納喜右衛門久盛』

○其許長々辛勞之至無是非候、弥以諸船共走候ハぬ様ニ才覺專一候、仍從國元立添之人數、定而可爲着岸候、其人數舟元にて一日も不休、即刻此方へ可參様ニ、然々可申届候、不可有油斷候、恐々謹言、

十二月十三日

義弘(花押)

新納狩野介殿

(本文書ハ「旧記雜錄後編三」六二〇号文書ト同文ナリ)

『正文在新納喜右衛門久盛』

○今月中ニ參陳可仕之旨、申聞候へ共、此表御働、

此砌ハ相延之由到來候間、先令延引、内々出陳用

意仕候て時分可相待候、自其可注進候条、其節無

油斷可渡海候、謹言、

三月八日

義弘(花押)

新納<sup>(教)</sup>狩野介殿

(本文書ハ「旧記雜錄後編三」三一六号文書ト同文ナリ)

○元和九年癸亥六月十四日死、法名傑忠良英庵主、

女子

弟子丸越後守宗益妻、

久景

十郎 越後守

○天正二年甲戌誕生、母新納四郎左衛門忠充女、

○久景自早歲奉仕 義弘公、其志不淺 公感之書誓

盟之辭賜貴翰、爲家珍及晚年奉仕 家久公恩遇不  
少矣、

『正文在新納喜右衛門久盛』

○連々別而奉公可仕之旨申上候、其首尾于今無相違

之由聞得候、誠以神妙之至、萬々頼母敷存候、諸

神八幡向後不可有忘失候也、

十一月十九日

義弘(花押)

新納<sup>(久)</sup>十郎殿

(本文書ハ「旧記雜錄後編三」三一七号文書ト同文ナリ)

○寛永十一年甲戌九月朔日於隅州加治木死、年六十

一、法名天岩久運居士、

忠利

九郎次郎 内匠 孫右衛門

○爲南郷淡路守忠重之養子、

女子

伊勢八右衛門貞似妻、

○母伊地知肥前重辰入道正繁女、

女子

鎌田傳左衛門政康妻、

○母同前、

久方

松千代 十郎 休左衛門

○元和二年丙辰誕生、母同前、

○寬永三年元服辱 太守家久公加冠賜脇刀一腰、有

川淡路爲理髮、

○久方壯年而發狂病、故不續家、

○萬治三年庚子三月十三日死、年四十五、法名因庵

良堅居士、

潭映

○早年而出家、雖然多病不遂其功早死、

久行

初久盛 伊勢松 甚兵衛 喜右衛門

○元和五年己未六月十四日誕生、母同前、

○寬永三年 黃門家久公加冠久行乃賜脇刀一腰、有

川淡路爲理髮矣、

○兄久方爲狂人、故慶安元年相續家督、奉調 太守

光久公獻上御太刀・御馬代二種一荷、

○寬文九年任吟味役、同六月補京大坂之藏奉行在職三年、

○延寶元年六月再補京大坂之藏奉行在職三年、

○延寶二年正月二日賜薩州山崎之地頭職、

○元和三年二月轉補日州倉岡之地頭職、

○元祿元年十月十八日任用人役在職八年、

○同二年二月晦日轉補薩州百次之地頭職、

○寶永二年乙酉六月十六日死、年八十七、法名快叟

英奇居士、

女子

有川總右衛門貞清妻、

○母桂八左衛門忠守女、

—女子

鎌田了右衛門政恆妻、

○母鮫島氏女、

—女子

○母同前、

—久規

長松 十郎

○延寶八年庚申七月九日誕生、母山本氏女、

○元祿三年十二月二十九日 太守綱貴公加冠長松號

十郎久規賜脇刀一腰、理髮者肝屬主殿久兼也、

○元祿八年乙亥十二月十一日死、年十六、法名寂心

幻照居士、

—時有

初久雅 松助 十郎

○元祿八年乙亥九月十四日誕生、母同前、

○兄久規早世、故久雅爲嫡子、

○元祿十六年十月二十八日 太守綱貴公加冠松助號

十郎久雅、賜脇刀一腰、喜入安房久亮爲理髮矣、

○寶永三年三月十五日爲謝繼目相續之辱、奉見太

守吉貴公、獻上御太刀・御馬代二種一荷矣、

○此家避於久忠之字、以時之字可爲實名字、家嫡四

郎左衛門久邦受 命傳之、故實名用時之字、

○此家勤小番、

—時陽

初久堂 總太郎 喜左衛門

○元祿七年甲戌六月二十六日誕生、母久行女、

○久堂實有川總右衛門貞清之嫡子也、奉訴爲久行之

二男、時寶永二年十一月十七日肝屬主殿久兼以黑

葛原源左衛門忠以傳 高命曰、如願宜爲久行之二

男、故冒新納氏矣、

○同三年三月十五日以爲久行之二男、奉見 太守吉

貴公獻上御太刀矣、



孝晴

十郎 十郎左衛門尉 常陸

○母知覽氏女也、

忠苗

民部少輔 常陸 入道名道久、妻島津伯耆守忠

衡入道下波義岡息女、

○屬島津八郎左衛門尉實久主市來之城、天文八年閏

六月十七日 島津三郎左衛門尉實久公自將率軍衆

來攻責甚急、是以即日陷平之城而爲陣營矣、然而

運籌策致防禦本城自若也、實久公亦設奇謀不止

晝夜逼迫、無如之何漸兵器竭勇氣倦同月廿九日請

降逃去也、

○市來城退去之後有 日新公之命、曰屬我致忠功者

界日置九十町、吾答曰事二君非士道堅辭之矣、於

茲乎教左兵衛尉尙久扶持吾、故爲尙久之臣也、子

孫在宮之城、

賢久

十郎 右衛門兵衛尉 加賀守

忠秀

八郎 右衛門兵衛尉 加賀守

將監

○爲柏原周防助猶子、

忠清

八郎 喜兵衛 無子孫、

忠通

民部少輔

○於隅州清水戰死、

九郎

○於馬越戰死、

又四郎

越前守 入道名拙心、

○大永四年甲申誕生、

○慶長十二年丁未十一月十六日死、年八十四、法號

耕仲源泰居士、

女子

鹿兒島土肥後又右衛門妻、

女子

宮之城平田六郎兵衛宗吉妻、

久清

鶴四郎 越前守 九郎右衛門 入道名松山、

○天正九年辛巳誕生、母薩州吉田土邊牟木關付左衛

門女、

○拙心依無世子爲猶子、實宮之城桑畑刑部少輔子也、

○寛文四年甲辰十月七日死、年八十二、法名光譽松

山、

忠成

五郎 安左衛門

○慶長十八年癸丑誕生、母薩州高城土小田原六郎左

衛門女、

○忠成恐冒新納氏而少時號大崎、雖然其後得家嫡近

江久辰之免許如元冒新納者也、

○貞享五年即元祿元年也戊辰九月二十二日死、年七十八、法

名競山全秀、

忠政

五郎 孫九郎 安兵衛 入道名堪全、

○寛永十九年壬午九月二十日誕生、母宮之城穎娃五

左衛門女、

忠朝

虎熊 孫右衛門 孝左衛門

○慶安四年辛卯八月十日誕生、母同前、

○正德三年癸巳正月七日死、歲六十四、法號足翁

常知、

女子

宮之城家臣日高覺右衛門義家妻、

○母同前、

女子

宮之城作田市郎左衛門清信妻、

○母餅田氏女、

忠明

半平 安右衛門 九郎右衛門

○延寶五年丁巳十一月八日誕生、母同前、

○相續家兄新納安兵衛忠政之家、

女子

宮之城大炭四郎兵衛友以妻、

○母同前、

時盈

號邦永、孫四郎 留兵衛

○元祿二年己巳七月十五日誕生、母同前、

○兄忠明相續家兄忠政之家、以故時盈繼父之跡、

○受家嫡之令避新納氏號邦永、

忠寄

吉五郎 孫九郎 彌三左衛門

○寬文四年甲辰四月二十八日誕生、母宮之城家臣滿

尾貞左衛門貞則女、

○寬永五年戊子七月二十三日死、法號別山德雲、

女子

宮之城滿尾次左衛門貞基妻、

女子

宮之城有馬七郎兵衛純斬妻、

○母宮之城内山市左衛門盛種女、

忠次

虎之助 早世、

○母同前、

時庸

初忠明 半平 安右衛門 九郎右衛門

○延寶五年丁巳十一月八日誕生、母餅田氏女、

○忠政嗣子彌三左衛門忠寄不家督而死、於是家將斷

絶以故時庸攜一子相續忠政之家、實新納孝左衛門

忠朝之嫡男也、

○此家 相摸守忠良入道日新公所附與島津左兵衛尉

尙久也、以故於時庸家嫡子代代如元冒新納氏、至

二男以下之家自今以後可稱家號於邦永、正德四年

之秋家嫡四郎左衛門久邦受令傳焉、

時易

五郎八

○元祿十三年庚辰二月二十日誕生、母宮之城稻富源

左衛門長行女、

女子

○母同前、

忠成

又十郎 左衛門尉 他腹、

久季

又十郎 早世、

女子

忠長

四郎次郎 傳左衛門尉 因幡守

○當家志布志沒落之時、兄弟出奔爲守護方昵近也、

二郎九郎

兵部左衛門尉

○於長野戰死、

城助

助五郎 民部少輔

○日州綾居住、此子孫斷絶矣、

久延

曲左衛門尉 藏人 因幡守

○居住于大崎矣、

僧

加世田淨福寺十代住持、

久行

四郎五郎 傳左衛門尉 藏人 木工右衛門

入道名一步、

○母新納氏女也、

○自大崎移帖佐、又移居加治木也、

○奉仕 惟新公勤御使役今御用、  
入也

○慶長十六年辛亥於加治木死、法名香岳源芳庵主、

女子

中馬筑後妻、

久濟

次兵衛尉

○母同前、

○爲長井氏猶子連續彼家、

久加

甚吉 狩野助 織部佐

○兄久濟爲長井氏之猶子、以故連續父之家也、

○慶安二年己丑正月二十二日死、法名傳心宗意居

士、

女子

島津兵庫久住家臣法元内藏助妻、

久秀

貞右衛門尉

○辭長井氏再爲新納氏、

○延寶三年乙卯十月十一日死、法名知徹宗心居士、

久商

次郎右衛門

○寛永十九年壬午九月五日誕生、母蒲生士金子千左衛門女也、

○元祿五年壬申二月十日死、法名一安宗心居士、

久準

初久武 安左衛門 孫右衛門

○正保四年丁亥五月九日誕生、母同前、

○元祿九年丙子五月二十八日死、法名天山了球居士、

女子

池田治左衛門兼武妻、

○母同前、

時富

初久富 木工之助 孫右衛門

○延寶八年庚申五月三日誕生、母櫻島土有村勝兵衛女也、

時玄

初久門 軍八 權兵衛

○貞享元年甲子九月十二日誕生、母同前、

傳助

○依咎被誅矣、

時明

初久明 傳次郎 次左衛門 貞右衛門

○延寶七年己未九月十七日誕生、母妾腹、

僧

長熊 號積瑞、早世、

時貞

初久信 彥之進 次兵衛

○元祿十五年壬午六月八日誕生、母鎌田藤四郎政

純家臣川畑彌兵衛篤滿女也、

女子

○母同前、

久重

千代龜 狩野助

○母中馬新左衛門入道了意女也、

○正保三年丙戌四月八日死、法名月舟常桂居士、

久政

木工右衛門

○母同前、

○寛文五年乙巳五月十五日死、法名松政納久居士、

女子

關次郎兵衛妻、

女子

野田省庵宗伸妻、

女子

種子島爲兵衛時壽妻、

久隆

甚吉 傳左衛門 市郎右衛門

○寛永九年壬申十二月二十二日誕生、母和田圓覺院

義信女也、

○正徳二年壬辰八月十二日死、法名常明慧真居士、

新左衛門

早世、

男子

千代龜 早世、

○母西村分左衛門昌親入道中山女也、

時喜

初久富 虎助 次右衛門 長右衛門

○寛文十一年辛亥八月二十八日誕生、母同前、

女子

○母同前、

時安

初久道 分右衛門

○延寶六年戊午正月三日誕生、母同前、

久長

甚吉 早世、

○母同前、

女子

○母伊集院休左衛門俊民入道庭山女也、

信久

十郎次郎 肝屬腹、

久雪

兵部左衛門 若狹

○母山田氏女、

○妻者肝屬越前守兼演家臣前田佐渡盛治入道德嚴之女也、以故久雪依妻女之緣由、倚賴肝屬氏、居住

于隅州溝邊、爲肝屬氏家臣、

女子

樺山氏妻、

女子

伊地知氏妻、

久林

十郎四郎 刑部少輔 三河守

○母肝屬氏家臣前田佐渡盛治入道德嚴女、

○仕肝屬彈正兼寛爲溝邊之地頭、

久信

十郎四郎 刑部少輔 十右衛門尉 三河守



○元龜元年庚午誕生、

○母内尾寺愛甲氏女、

○文祿四年從肝屬氏移居薩州喜入、

○元和二年丙辰十月十三日死、歲四十七、法名久宅

壽昌居士、

久宥

新助 五郎左衛門 入道名無心、

○天正五年丁丑誕生、母同前、

○肝屬氏家臣也、

○萬治三年庚子五月二十二日死、歲八十四、法名

松巖善柏居士、

久棟

小兵衛 民部左衛門

○慶長九年甲辰八月十三日誕生、

○久宥依無世子爲猶子、實三河守久信二男也、

○貞享三年丙寅十月二十二日死、歲八十三、法名

覺翁仙宗居士、

久行

小兵衛 五郎左衛門 彌左衛門 入道名宗伯、

○寬永元年甲子正月二十三日誕生、母肝屬氏家臣

前田民部盛繼女、

○正德元年辛卯七月十五日死、年八十八、法名大

峰淨鑑居士、

久次

十兵衛

○母同前、

○爲肝屬氏家臣肝屬九郎兵衛兼兵之猶子、

女子

肝屬氏家臣稅所藤右衛門篤往妻、

○母肝屬氏家臣中馬因幡重方女、

女子

肝屬氏家臣安樂主馬兼儀妻、

○母同前、

時惟

初久茂 彌十郎 平内 五郎左衛門 彌左衛門

○寛文三年癸卯二月十二日誕生、母伊勢氏家臣蓑田七左衛門頼弘女、

○此家依令避新納氏號邦永、

女子

伊勢氏家臣木津武兵衛與昌妻、

○母肝屬氏家臣安樂主馬兼儀女、

女子

新納三左衛門時興妻、

○母同前、

時苗

初久伯 新助

○元祿十年丁丑三月八日誕生、母同前、

時昭

彌助

○元祿十四年辛巳十月十五日誕生、母同前、

女子

肝屬氏家臣肝屬九郎兵衛兼兵妻、

○母隅州加治木土宮路氏女、

久明

萬千代 右衛門 十右衛門 入道名宗清、

○慶長五年庚子正月九日誕生、母同前、

○天和二年壬戌正月朔日死、歲八十四、法名涼山宗清居士、

久棟

○母同前、

○叔父久宥依無世子爲猶子、

女子

加治木土宮路舍人妻、

○母同前、

久重

萬千代 十郎四郎 慶右衛門 滿右衛門 十左衛門

○元和四年戊午七月十九日誕生、母肝屬氏家臣志志

目對馬義延女、

○延寶九年即天和元年也辛酉三月十三日死、歲六十四、法名

英峰孤岳居士、

女子

○母同前、

女子

肝屬氏家臣日高新左衛門爲里妻、

○母同前、

久治

初久朝 萬吉 友之進 傳左衛門 五太夫

○慶安四年辛卯二月十三日誕生、母北郷作左衛門久

嘉家臣藤井覺兵衛氏菖女、

○元祿七年甲戌七月十三日死、歲四十四、法名悟山

寂了居士、

時宏

初久武 十助 左太夫 一角 助右衛門

○明曆元年乙未十月二日誕生、母同前、

○此家受令避新納氏號邦永、

女子

肝屬氏家臣志志目源左衛門義陳妻、

○母同前、

時豫

初久富 萬之助 左太夫

○元祿四年辛未八月二十一日誕生、母肝屬氏家臣長

濱伊左衛門重繼女、

女子

○母同前、

時永

十助

○元祿十三年庚辰九月十五日誕生、母同前、

女子

肝屬氏家臣八木良右衛門昌芳妻、

○母肝屬氏家臣中村六左衛門家純女、

時興

初久芳 十郎四郎 十郎二郎 五後之助 曲膳

十右衛門 三左衛門

○貞享二年乙丑十一月七日誕生、母同前、

○此家之先祖若狹久雪爲肝屬氏家臣、而爲溝邊地頭、

且忠勤無紛、以故正德四年之秋家嫡四郎左衛門久

邦傳令曰、於時興家嫡子代代免許新納氏、至二男

以下者以邦永可爲家號矣、

女子

肝屬氏家臣日高善五左衛門爲陽妻、

○母同前、

新納刑部左衛門久明一流系圖

久明

十郎四郎 將監 刑部左衛門

○於串良戰死、

久

十郎四郎 新右衛門

忠充

狩野介

○爲日置周防介忠頭之猶子、

○於日州飢肥新山戰死、

忠職

或忠識 十郎四郎 新右衛門 入道名意月、  
 ○先爲島津豐後守之臣、其後爲伊集院右衛門大夫忠棟入道幸侃之臣、

『正文在新納三河忠德入道楚弓』

○奉寄進

爲護護 御作之不動明王一尊、當時末代師檀之御(マ)約諾、於子と孫と互相違有間敷候、仍證狀如件、

天文十八年十一月六日 藤原忠職(花押)

寶滿寺 大德御中

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二二六三三号文書ト同文ナリ)

忠晴

十郎四郎 民部少輔

忠泰

源次郎 覺内 治部少輔

○爲日置狩野介忠充之猶子、  
 女子

祢答院左京亮妻、

忠長

十郎四郎 一力坊

○元和五年五月二十六日死、法名權律師榮海、

女子

日置越後守忠昌妻、

忠饒

玄蕃 覺内 善左衛門

○慶長十三年五月二十七日誕生、母民部少輔忠晴女、

○忠長依無世子爲猶子、實日置越後守忠昌之長男也、

○島津兵庫忠朗之家臣而子孫在隅州加治木、

○延寶六年戊午十一月八日死、法名一清宗安、

忠成

清左衛門

- 忠成實日置越後守忠昌之三男也、與兄忠饒俱受新納一力坊忠長之撫育、故冒新納氏、以是其後得家嫡近江久辰之免許、而后樹家於忠長之二男矣、
- 爲日州松山土之時蒙 太守家久公之尊命、附屬于島津市正忠廣、

○寬永十九年壬午十月二十六日死、法名淨庵宗清、

時昭

初忠昭 清左衛門

- 寬永十一年甲戌十月誕生、母日州福島之住橫山萬壽房女、

○忠昭爲松山土之時、寬文八年以同所土山田治右衛門弟勤左衛門於松山爲名跡之養子、自己爲島津市正忠廣之臣、其後元祿九年十一月十九日依願爲薩州郡山之土、

時重

號邦永、初忠重 覺左衛門

- 寬永十九年壬午七月十九日誕生、母同、
- 從父忠成仕于島津市正忠廣、
- 正德四年之冬、受家嫡四郎左衛門久邦之命、避新納氏改邦永、

女子

鎌田藤四郎家臣富岡源右衛門妻、

○母鎌田藤四郎家臣竹之内仙兵衛實幸女、

時兼

初忠將 萬右衛門 勤兵衛

- 元祿五年壬申正月十九日誕生、母同前、
- 島津助之丞久白家臣也、

時方

初忠良 勤左衛門

○實松山土山田治右衛門弟也、寛文八年爲忠昭名跡之養子相續當家、

時英

初忠清 清左衛門

○寛文九年己酉三月十三日誕生、母喜入家之臣

桑畑早左衛門女、

○實忠昭之嫡子而薩州郡山土也、

出家

時摸

初忠峯 熊千代

○元祿十五年壬午八月二十七日誕生、母伊集院士

有馬覺兵衛女、

時員

初忠伊 七郎

○寶永六年己丑四月十五日誕生、母同前、

時滿

初忠利 德助 志摩之介 治左衛門

○明曆四年戊戌二月誕生、母池田吉右衛門女、

○實松永治左衛門隅次之二男爲忠良之養子、

時賢

初忠方 彌八左衛門 武右衛門

○寛永十二年壬子二月二十三日誕生、母石塚源左

衛門政次女、

○勘左衛門忠良之實子也、忠良於松山以忠利爲養

子、忠良隱居、故時賢與父俱爲家嫡市正久珍之

屬士、住于隅州高山、

時遠

初忠治 與八之丞

○貞享四年丁卯九月六日誕生、母藤崎藏右衛門女、

○實養毛源左衛門頼次之二男也、爲時滿之養子、

○日州松山土也、

時宜

初忠里 德千代 德助

○元祿十二年己卯七月十二日誕生、母妾、

○時滿之實子也、

時知

初忠之 德兵衛

○寶永三年丙戌正月九日誕生、母同前、

女子

加治木之臣白尾甚平妻、

○母加治木之臣法元次郎左衛門女、

時常

號邦永、初忠置 市兵衛 善左衛門

○正保二年乙酉三月二十日誕生、母同前、

○島津兵庫久住之家臣而住加治木、

○正德四年八月受家嫡四郎左衛門久邦之命避新納氏

改邦永、

忠致

市右衛門 早右衛門 善右衛門

○承應三年十一月十六日誕生、母同前、

○爲加治木之臣日置藤左衛門之養子、

女子

加治木之臣林覺左衛門妻、

○母加治木之臣岩崎覺左衛門女、

時殊

初忠茂 十郎四郎 十兵衛

○元祿元年戊辰十一月十九日誕生、母同前、

時謀

初忠濟 內藏之丞 藤右衛門

○元祿四年辛未十月二日誕生、母同前、

○爲叔父日置善右衛門忠致之養子、



新納氏支流系圖第三之四

氏豐

遠江守

○二代越後守實久四男、三代近江守忠臣次弟也、

仲久

遠江守 法名道秀、

女子

忠尊

又次郎 上野介

女子

山田宮内少輔室、

女子

左兵衛尉室、

忠安

初久秋 二郎五郎 左兵衛尉

○上野介忠尊依無男子爲猶子、妻第二女連續當家、

實七代家督遠江守忠武二男也、

○享祿元年戊子五月朔日於冷水遂戰死矣、

女子

廻某室、

久厚

又次郎 治部少輔 播摩守

女子

新納又五郎康久室、

久友

次郎五郎 市右衛門尉 母三浦某女也、法號觀

叟宗喜、

久道

源十郎 小右衛門尉 大藏

○天正十四年丙戌誕生、

○慶安二年己丑六月九日死去、享年六十四、法名天山貞上、

久智

久四郎 入道名宗心、

○寛文十年庚戌十月二十七日死、法名江月宗心、

久宣

久右衛門

○久智無嗣養久宣爲子、實瀬戸山甚之丞良正之二男也、

○延寶九年辛酉正月二日死、法名法岸仙心、

時門

初久行 久富 彌四郎 三左衛門 久右衛門

○萬治元年戊戌十二月二十七日誕生、母稻津半左

衛門女、

時員

初久國 久武 長次郎 甚助 平左衛門 九八

○寛文三年癸卯七月四日誕生、母同、

久重

久四郎 雜髮爲浮屠氏名放牛、

女子

吉井圓右衛門妻、

時滿

松之丞

○元祿十五年壬午正月八日誕生、母伊東清次郎祐

利入道慶碩女、

女子

時薰

初久治 久四郎 十兵衛

○元祿三年庚午八月三日誕生、母上野喜兵衛女、

時

三左衛門

○元祿七年甲戌正月二十五日誕生、母同、

女子

貴島藤七兵衛妻、

○母東郷五右衛門重政女、

久盛

千次郎 小右衛門 大藏 入道名一醉、

○慶長十七年壬子八月十一日誕生、母同、

○同年八月二十七日補薩州坊泊地頭職、

○同年十二月晦日轉補隅州牛根地頭職、

○同五年乙巳三月二十二日任吟味役、

○同六年丙午十一月十四日轉補隅州櫻島地頭職、

(貼紙 伊地知季安筆)

寛文五年乙巳  
全六年丙午也、  
同ノ文字誤カ、

○貞享四年丁卯十二月十一日死、七十六歳、法名一

醉徳翁大居士、

秀安

彌太右衛門

○元和四年甲子八月二十五日誕生、母同、

○爲鬼塚勝右衛門之養子、

女子

伊東平右衛門妻、

女子

山本勘兵衛親道妻、

女子

向井主馬友説妻、

○母愛甲源左衛門季康女、

女子

有河喜左衛門貞說妻、

○母同前、

久紀

初久寬 源十郎 小右衛門 大藏 市右衛門

○慶安三年庚寅十月十七日誕生、母同、

○寬文十二年壬子十一月六日任吟味役、

○貞享五年戊辰二月二十三日補隅州日當山地頭職、

○正德三年癸巳二月三日死、六十四歲、法名一雲了

氣居士、

女子

土岐彦右衛門賴堅妻、

○母同前、

女子

伊東刑部左衛門祐平妻、

○母同前、

女子

林甚五兵衛道基妻、

○母篠原總右衛門政辰女、

女子

新納左京忠倚妻、

時美

初久芳 仙次郎 治右衛門

○元祿二年己巳五月十三日誕生、母同、

○此家避久忠字以時字、宜爲實名字、家嫡四郎左衛

門久邦受 命傳之、仍改時字、

○此家至初及家督等之時、拜謁于 太守公、則奉獻

御太刀、且勤小番、是家格也、

女子

時意

初久年 源十郎 源右衛門 善平

○元祿七年甲戌十月十三日誕生、母同前、

久次

梅千代 仙左衛門

○元祿十一年戊寅三月二十五日誕生、母同、

○爲法元三左衛門盛信之養子、

時

次郎五郎

○寶永五年戊子十二月二十九日誕生、母山田四郎兵

衛有壽女、

時

源十郎

○正徳三年癸巳正月二十五日誕生、母同、